

第五百二十八條 父若クハ母ノ財産ノ分派ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲

サ、ル可カラズ

第一 母カ再婚スル時

第二 生存者カ死去スル時

第五百二十九條 此等ノ財産分派ノ時現存セサル子ハ財産分派ニ干與スルノ權利ヲ有セス然レモ若シ分派ノ時ニ於テ既ニ死去シタル子ノ卑屬親ノ現存スル時ハ彼等ハ其父母ヲ代理スルノ權利ヲ有ス可シ

第五百三十條 若シ死去シタル子ノ卑屬親カ財産分派ニ干與スル時ハ猶ホ現存スル子ハ頭毎ニ之ニ干與ス可シ之ヲ詳言スレハ各一部ノ分派ヲ受ク可シ而シテ死去シタル子ハ族毎ニ之ニ干與ス可シ之ヲ詳言スレハ同一ノ子ノ卑屬親ハ都テ一部ノ分派ヲ受ク可シ(拿破

崙法典第七百四十條參看)

第五百三十一條 若シ財産分派ノ時唯幼子ノニ在ル時ハ彼等ハ頭毎

ニ財産分派ニ干與セサル可カラズ

第五百三十二條 前三條ノ規則ハ遠級ノ卑屬親並ニ一緒ニ財産相續ニ招ンタル異級若クハ同級ノ卑屬親ニモ亦適用ス可シ故ニ各級ノ卑屬親ハ其由テ以テ死者ノ卑屬親タルヲ得ル本人ノ死去ニ於テ死者ノ他ノ最近ノ血屬親・同級ヲリシ者ヲ代理スルヲ得可シ而シテ平等ナル遠級ノ卑屬親ハ若シ一モ最近ノ級ノ卑屬親無キ時ハ頭毎ニ財産相續ヲ爲ス可シ(拿破崙法典第七百四十條參看)

第五百三十三條 子ハ其父母ノ財産分派ノ時遺留財産ノ部分ノ割引トシテ其會テ生存者ヨリ受取リシ者ヲ悉皆返戻シ或ハ少シク收受シ以テ之ヲ返戻セサル可カラズ而シテ子ノ財産ヲ以テ返還ス可キ

子ノ教育ノ費用及ヒ父母カ貯留ノ約無ク其子ニ爲シタル法律上ノ贈物ハ決シテ此種類中ニ歸ス可カラス(拿破崙法典第八百三條及ヒ第八百五十二條參看)

第五百三十四條 若シ最遠級ノ卑屬親カ最近ノ卑屬親ト共ニ財產相續キ爲ス時ハ彼等ハ皆ニ其死者ヨリ受取リシ者ヲ返還ス可キノミナラヌ尙ホ彼等カ代理スル本人ノ受取リシ者ヲモ返還セサル可カラズ(拿破崙法典第八百四十八條參看)

第五百三十五條 共ニ財產相續キ爲ス可キ者カ自身ニ受取リシ都テノ者ヲ返還セサルコトヲ信スル正當ノ相續人ハ彼レニ表意ノ誓ヲ宣フルヲ得可シ

第五百三十六條 若シ財產分派ノ時ニ於テ正當ノ相續人カ死者ノ其姓名ヲ手署セル請取書ニ依テ死者ニ其義務ヲ盡セシコトヲ證スル時

及ヒ該證書ノ効アルコトカ人ノ見出シタル現金ノ額ニ依リ證セラレサル時或ハ死者ノ爲替手形ニ依テ證セラレサル時ハ共ニ財產分派キ爲ス可キ者ハ正當ノ相續人ニ表意ノ誓ヲ宣フルノ權利ヲ有シ且證據ニ依テ代理ヲ置替スルコトヲ得可シ

第五百三十七條 若シ第五百二十八條ノ場合ニ於テ母ト子ノ間ニ財產分派キ爲ス時或ハ若シ母カ財產分派キ主唱シテ諸子皆之ヲ承諾スル時ハ母ハ其衣服其裝飾及ヒ其動産ヲ預收シ而シテ子ハ其父ノ衣服裝飾及ヒ動産ヲ預收スルコトヲ得可シ

第五百三十八條 財產ノ全部ハ前拂ノ返還或ハ差引ノ後及ヒ母若シハ子ノ預収キ爲シタル後組成セラル可シ而シテ該全部ハ母及ヒ子ノ間ニ頭毎ニ分派セラレサル可カラズ(拿破崙法典第八百三十一條參看)

第五百三十九條 若シ祖母カ其孫ト共ニ財産分派ヲ爲ス時ハ祖母ハ子ノ部分ヲ有シ而シテ孫ハ都テ第五百三十一條ノ規則ニ循テ自己ノ受ク可キ部分ヲ互ニ分派ス可シ

第五百四十條 若シ夫ノ遺留財産カ第五百二十四條及ヒ第五百二十五條ニ循テ其婦ト初婚ノ諸子トノ間ニ分派セラレタル時若クハ第五百十八條ニ循テ異婚ノ諸子ノ間ニ分派セラレタル時初婚ノ子ノ母ノ財産カ若シ第六十條ニ記載シタル方法ニ循テ既ニ分派セラレザリシ時ハ第一ニ其財産ヲ預求シ次ニ終婚ノ子ノ婦ノ加入財産或ハ財産ヲ預収シ而シテ權利者ニ之ヲ歸與セサル可カラス

第五百四十一條 若シ前條ノ場合ニ於テ死者ノ婦ノ加入財産ノ額カ其固有ノ遺留財産ノ額ヲ超過スル時ハ各婚姻ヨリ生レタル諸子ハ其母ノ財産ヲ少シク分取シテ其既ニ受取リシ所ノ者ヲ返還セサル

可カラス

第五百四十二條 若シ遺留財産カ諸種ノ加入財産ヲ拂戻スニ足ラサル時ハ最初ノ婦ノ加入財産ノ一半ハ最終ノ婦ノ加入財産ノ一半ニ先テ特權ヲ以テ享有スルヲ得可シ若シ諸種ノ加入財産中最初ノ一半ヲ交付シタル後尙ホ或ル物件ノ殘ル時ハ此殘餘ハ關係各人ノ間ニ其年齢ニ關スルヲ無ク其要求ノ全額ニ循テ分派セラレサル可カラス

第五百四十三條 父母ノ遺留財産ノ分派ニ於テハ父ノ自用ニ供シタル武器衣服及ヒ動産ハ男子ニ屬シ男子無キ時ハ女子ニ屬ス又母ノ裝飾衣服及ヒ動産ハ女子ニ屬ス而シテ若シ異婚ノ子タル時ハ平等ニ其子ノ間ニ分派セラル可シ亦母ノ女子ヲ遺留セサル時ハ都テ終婚ノ男子ニ歸スル者トス

第五百四十四條 父母ハ前條ニ記載シタル規則ヨリ他ノ規則ヲ行フ
コトヲ得可シ

第五百四十五條 母ト子ノ間若クハ唯子ノミノ間ノ財産分派ニ於テ
ハ最モ幼少ナル子ハ其父母カ家屋若クハ土地ノ一ヲ遺留スル時ハ
裁判所ニ於テ評價ヲ爲シタル後其家屋若クハ土地ヲ自身ニ收取ス
ルノ權利ヲ有スル者トス

第五百四十六條 父母ハ公然財産相續ヲ剝奪スルニ非サルヨリハ正
當相續人ノ分限アル其子ノ誰ヲモ財産相續ヨリ除却スルヲ得ス但
シ母ト子ノ間ノ財産分派ニ付テハ格別トス然ル時ハ母ハ其子ニ公
然財産相續ヲ剝奪スルコト無ク其子ノ受ク可キ部分ヲ奪取スルコトヲ
得ル者トス

第五百四十七條 財産相續ノ剝奪ハ唯次ノ理由ノ爲メニノミ之ヲ爲

スコトヲ得可シ

第一 若シ卑屬親カ遺囑者ヲ讒毀シ或ハ彼レニ對シテ大不敬ヲ陳
述シタル時

第二 卑屬親カ彼レニ對シテ暴行ヲ行フタル時

第三 卑屬親カ重罪ノ理由ニ於テ入牢ノ刑ニ處セラレタル時

第四 卑屬親カ未ダ丁年ニ達セサル時間遺囑者ノ辨理心ヲ以テ故
隙ヲ述ヘタル婚姻ヲ締結シタル時

第五百四十八條 財産相續ノ剝奪ハ其理由ヲ遺囑書中ニ明示セサル
可カラス

第五百四十九條 若シ財産相續ヲ剝奪セラレタルヨリ要求スル時ハ
之ヲ遺囑シタル父若クハ母ノ相續人ハ指示セラレタル理由ノ眞ナ
ルコトヲ證明セサル可カラス

第五百五十條 或ル子ノ財産相續ノ剝奪ハ決シテ其卑屬親ヲ財産相續ヨリ除却セサル者ニシテ該卑屬親ハ財産相續ヲ剝奪セラレタル者ヲ代理ス可シ(第五百二十九條乃至第五百三十二條○拿破崙法典第七百三十條參看)

第二節 一般ナル遺囑贈遺ノ證書及ヒ格段ナル遺囑贈遺ノ證書

第五百五十一條 人カ遺留財産ノ全部又ハ一部ニ付テ爲シ及ヒ其死去シタル後ニ非ヤソハ有効ダラサル片務ノ處分ヲ稱シテ遺囑贈遺ノ證書ト云フ(拿破崙法典第八百九十五條參看)

第五百五十二條 遺囑贈遺ノ證書ヲ作ラント欲スル者ハ滿十七歳ニシテ該證書ノ緊要ナルコトヲ認知シ且其辨理心ノ使用及ヒ其自由ノ施行ヲ有セサル可カラズ(拿破崙法典第九百一條及ヒ第九百三條參看)

看)

第五百五十三條 正當ノ相續人ヲ有スル男ハ單ニ其自由財産ノ三分一即チ婦ノ加入財産及ヒ負債ヲ差引キタル其財産ヲ處分スルコトヲ得可ク亦其裝飾ヲ處分スルコトヲ得可シ又同一ノ場合ニ在ル女ハ單ニ第九十條ニ記載シタル物品ヲ處分スルコトヲ得可シ而シテ男及ヒ女ハ其財産ヲ責任又ハ要件無ク其正當ノ相續人ニ遺留セサル可カラズ(拿破崙法典第九百十三條ト相異ナリ)

第五百五十四條乃至第五百五十六條 千八百四十七年五月二十七日ノ法律第三條ニ依テ廢止セラレタリ

第五百五十七條 遺囑贈遺ノ證書ハ一般ニ證人二名ノ面前ニ於テ之ヲ記セサル可カラズ而シテ該證人ハ遺囑者又ハ遺囑者ノ指定セル相續人ニ依テ拒辭セラル、ヲ得サル者トス(拿破崙法典第九百七十

一條參看

第五百五十八條 將ニ死セントスル人ハ拒辭ス可カラサル證人二名ノ面前ニ於テ出格ヲ以テ口演ノ財產處分ヲ爲スヲ得可シ

第五百五十九條 此處分ハ若シ處分者カ尙ホ其後八日間生活シテ遺囑贈遺ノ證書ヲ作ルカ爲メ要件内ニ在ル時ハ無効タル可シ

第五百六十條 男ハ自身ニ其最後ノ處分ヲ書面ニ記シ或ハ之ヲ公證人ニ口授スルヲ得可シ然レモ女ハ常ニ之ヲ公證人ニ口授セサル可カラズ

第五百六十一條 若シ或ル男カ自身ニ其遺囑ノ贈遺ヲ記セント欲スル時ハ彼レ自カラ其全文、日附及ヒ處分ヲ記シ且之ニ其洗禮ノ名稱及ヒ家族ノ名稱ヲ手署セサル可カラズ(拿破崙法典第九百七十條參看)

第五百六十二條 若シ反對ニ於テ或ル男カ公證人ニ口授スル時ハ彼レハ公證人ト共ニ其寫ニ姓名ヲ手署シ及ヒ其姓名ヲ手署シタル側ニ自カラ此證書ヲ讀ミ及ヒ可トシタル旨ヲ自身ニ證明セサル可カラズ若シ彼レカ姓名ヲ手署スルノ景狀ニ非サル時ハ該證書ハ證人ノ一名ニ依リ他ノ證人ノ面前ニ於テ讀マレサル可カラズ且單公證人ノミ之ニ其姓名ヲ手署セサル可カラズ(第五百六十六條○拿破崙法典第九百七十二條及ヒ第九百七十三條參看)

第五百六十三條及ヒ第五百六十四條 此等ノ條ハ千八百四十七年五月二十七日ノ法律第三條ニ依テ廢止セラレタリ

第五百六十五條 自身ニ其處分ヲ記シ或ハ第五百六十二條ニ依テ指示セラレタル方法ニ循ヒ公證人ノ爲シタル處分ニ姓名ヲ手署シタル者ハ證人ニ其趣意ヲ讀聽カスルヲ要セス若シ證人カ書類ノ終リ

即チ末葉ノ第二面ニ姓名ヲ手署スル時ハ遺囑者ハ該書ニ其遺囑ノ贈遺ヲ包含スルコトヲ公告シ及ヒ其證人タル可キコトニ都テ彼等ヲ招クコトヲ公告スルヲ以テ充分ナリトス

第五百六十六條 若シ遺囑者カ公證人ノ記シタル證書ニ姓名ヲ手署セズ唯公證人ヲシテ之ニ姓名ヲ手署セシメタル時ト雖モ證人ハ矢張第五百六十二條ニ依リ指示セラレタル方法ニ循テ證書ヲ處分者ニ讀聽カシ且彼レカ該證書ヲ可トシタルコトヲ證明セサル可カラズ

第五百六十七條 前二條ニ循テ證據立ツ可ク招レタル證人ノ證據ハ第三人ニ依テ記セラル、ヲ得可シ然レモ證人ニ依テ之ニ其姓名ヲ手署セラレサル可カラズ

第五百六十八條 治産禁ヲ受ケタル者ハ遺囑贈遺ノ證書ヲ作ルカ爲メ裁判所ヨリ任スル補佐人ノ立會ヲ受クルヲ要ス而シテ該補佐人

ハ治産禁ヲ受ケタル者ノ請求ニ依テ其地ノ「バイイ」ヨリ任セラレ及ヒ使定ニ依テ其任命ヲ通知セラル、者トス又治産禁ヲ受ケタル者ハ補佐人及ヒ證人ノ面前ニ於テ公證人ニ其處分ヲ口授セサル可カラズ又補佐人ハ治産禁ヲ受ケタル者ニ處分書ヲ讀聽カシ及ヒ公證人ト共ニ之ニ姓名ヲ手署セサル可カラズ而シテ證人ハ其證據書中ニ此等ノ式ヲ履行シタリシコトヲ公然指示セサル可カラズ

第五百六十九條 第五百五十七條乃至第五百六十八條ノ法式ハ之ヲ遵守セサル可カラズ若シ遵守セサル時ハ無効ノ者トス

第五百七十條 處分者カ其遺囑書中ニ讓ル所ノ書類ハ其財産相續ニ關スル者ニ付キ有効タラサル者トス

第五百七十一條 公證人ハ治産禁ヲ受ケタル者ノ處分書ニ此行爲ノ證據ト共ニ裁判所ヨリ任スル補佐人ノ任命ヲ附記セサル可カラズ

而シテ此法式ヲ忘ルト雖モ若シ他ノ方法ニ於テ公然補佐人ノ命セ
ラレシコトヲ證シ得ル時ハ處分書ヲ廢棄セサル者トス

第五百七十二條 處分者カ其遺留財産ヲ處分スル所ノ遺囑贈遺ノ證
書ヲ稱シテ遺囑書ト云フ

第五百七十三條 遺囑者ハ一名又ハ數名ノ相續人ヲ命シ及ヒ彼等ニ
定分或ハ未定分ヲ與フルコトヲ得可シ

第五百七十四條 若シ遺囑者カ定分例ヘハ財産全部ノ半或ハ三分一
ノ爲メニ相續人ヲ設定シタル時ハ該相續人ハ單ニ指示セラレタル
部分ヲ收受ス可シ若シ遺囑者カ財産全部ノ爲メニ相續人ヲ指命セ
サル時或ハ若シ設定セラレタル相續人中ノ一名カ財産相續ノ前ニ
死去スル時ハ彼レカ處分セサリシ所ノ部分或ハ相續人無キ部分ハ
彼等ノ責任ト共ニ遺囑者ノ正當ノ相續人ニ移轉ス可シ而シテ此相

續人無キニ於テハ法律上ノ相續人ニ移轉ス可シ

第五百七十五條 若シ遺囑者カ其設定シタル相續人ニ一ノ部分モ指
示セサリシ時ハ相續人ハ遺囑者カ幾許ノ言辭ニ於テ或ハ如何ナル
時期ニ於テ各相續人ヲ設定シタルカヲ思考スルコト無ク平等ニ相續
ス可シ若シ相續人ノ一名財産相續ノ前ニ死去スル時ハ其部分ハ附
着シタル責任ト共ニ他ノ相續人ニ増加ス可シ(拿破崙法典第千四十

四條參看)

第五百七十六條 遺囑者カ指名スル相續人ノ相續セサル場合ニ於テ
ハ遺囑者ハ彼レコトノ相續人ヲ置替スルヲ得可シ又該相續人ニ他
ノ相續人ヲ置替スルコトヲ得可シ而シテ遺囑者ハ單ニ一名ノ相續人
ニ一名又ハ數名ノ相續人ヲ置替スルコトヲ得可シ(拿破崙法典第八百
九十八條參看)

第五百七十七條 前條ニ指示シタル置替ハ之ヲ稱シテ普通ノ置替ト云フ而シテ此事ニ關スル遺囑者ノ權利ハ制限無キ者トス

第五百七十八條 若シ遺囑者カ定リタル時期ニ於テ第三人ニ遺留財産ヲ引渡スコトヲ其相續人ニ命スル時ハ此處分ヲ稱シテ信任ノ置替ト云フ而シテ此處分ハ暗ニ普通ノ置替ヲ包含スル者トス(拿破崙法典第八百九十六條ト相異ナリ)

第五百七十九條 遺囑者ハ第二級ノ外ニ信任ノ置替ヲ及スヲ得ス而シテ第一ノ信任相續人ノ相續人ハ剝奪ス可カラサル相續人ナリ都テ之ニ反スル條款アルモ無効ノ者トス

第五百八十條 自身ニ遺囑贈遺ノ證書ヲ作ルコトニ付キ唯不適當ナル一子ヲ有スル父ハ彼レニ遺留スル財産ノ爲メ信任ノ相續人ヲ指命スルヲ得可シ然リト雖モ若シ子カ正當ノ相續人ヲ有スル時或ハ若シ彼レカ處分スルコトニ付キ適當ト成リタル時ハ此置替ハ無効ナリトス

トス

第五百八十一條 信任ノ置替ヲ受ケタル相續人ハ財産相續ヲ開始シタル後ハ「イイ」ノ書記ニ依テ財産ノ目錄ヲ作ラシメサル可カラス、而シテ設定相續人ノ面前或ハ若シ設定相續人カ後見ヲ受ケタル時若シハ彼等ノ權利カ二三ノ景狀ニ屬スル時ハ後見ノ管理ヲ任セラレタル名代人ノ面前ニ於テ財産ノ評價ヲ爲サシメサル可カラス但シ第一ノ場合ニ於テハ相續人ノ後見ニ付キ任セラレタル管理人ヨリ名代人ヲ撰取シ第二ノ場合ニ於テハ遺囑者ノ住所ノ管理人ヨリ之ヲ撰取ス可シ

第五百八十二條 信任ノ相續人ハ若シ遺囑者カ別段處分セサリシ時ハ相續諸物件ノ所有者ト成リ物件ノ價直ニ付キ置替セラレタル者

ニ對シテ其責ニ任ス可シ故ニ若シ遺囑者カ信任ノ相續人ヲシテ公然義務ヲ免レシメサリシ時ハ該相續人ハ置替セラレタル者ニ對シテ保證人ヲ立テサル可カラス

若シ信任ノ相續人カ此保證人ヲ立テ能ハサル時ハ置替セラレタル者ハ裁判官ニ其旨ヲ上申シ保護ノ處置ヲ取ラシムルヲ得可シ

第五百八十三條 家族ノ財産及ヒ貴族ノ領地ニ關シテハ格段ノ官令アル者トス

第五百八十四條 遺囑者カ二三ノ人ニ一個又ハ數個ノ物件ヲ讓與シ一個又ハ數個ノ權利ヲ讓與スル所ノ處分ヲ稱シテ贈遺ト云フ

第五百八十五條 贈遺ハ或ハ遺囑ニ依リ或ハ相續人ノ設定ヲ包含セサル遺囑贈遺ノ證書ニ依テ爲サル、ヲ得可シ而シテ之ヲ拂フノ義務ハ遺留財産ノ全部ニ命セラル可シ但シ遺囑者カ之ニ付キ特別ニ

相續人中ノ一名ヲ任シタル時ハ此限ニ非ス

第五百八十六條 普通及ヒ信任ノ置替ハ贈遺ニ付キ相續人設定ノ爲メノ如ク之ヲ爲ス可シ(第五百七十六條乃至第五百八十四條參看)

第五百八十七條 財産相續ニ屬スル或ル物品ノ贈遺ハ若シ彼レカ相續中ニ在ラスシテ金額ニ關セサル以上ハ其効無カル可シ然ル時ハ遺留財産中ニ現金ノ在ラサル時ト雖モ之ヲ拂ハサル可カラス(拿破崙法典第千四十二條參看)

第五百八十八條 若シ遺囑者財産相續中ニ物件ノ在ルヲ公告セサリシ時ハ相續人ハ受贈者ニ中等ノ性質ノ物件一個ヲ供給シ或ハ彼レニ其價直ヲ拂ハサル可カラス

第五百八十九條 若シ贈遺カ年金若クハ月金ニ於テ成立ツ時ハ其死去ノ前ニ始リタル全キ期限ハ受贈者ニ獲得セラル可シ然レモ其拂

ハ期限ノ滅盡スルニ非サレハ訟求セラル、コヲ得ス

第五百九十條 若シ同一ノ物件カ連帶シ或ハ未定ノ部分ニ於テ數人ニ贈遺セラレタル時ハ死去シタル受贈者ノ部分ハ其共ニ分派ヲ爲ス可キ者然ラサレハ遺留財産ニ増加ス可シ(拿破崙法典第千四十四條參看)

第五百九十一條 贈遺ハ遺囑者ノ死去以來受贈者ニ獲得セラル可シ而シテ若シ其性質ニ依テ讓渡サル、ヲ得ル時及ヒ若シ受贈者カ之ヲ分離セサリシ時ハ其財産相續中ニ加入ス可シ、

第五百九十二條 寺院ノ爲メノ都テノ贈遺ハ我カ小議會ニ依テ確定セラレサル可カラズ且前以テ引渡サレサルヲ得ス

第五百九十三條 遺囑者ハ遺囑ニ付テ其處分ヲ變換シ或ハ廢棄スルコトヲ得可シ

第五百九十四條 其遺囑ヲ變換セント欲スル婦ハ非常輔佐人ノ立會ヲ受ケサル可カラズ但シ該輔佐人ハ婦ノ訟求ニ依リ「バイイー」ヨリ彼レヨ命セラレタル者ナリ然レモ婦ハ之ヲ廢棄スル爲メ「バイイー」ヲ要セサル者トス

第五百九十五條 後ノ遺囑ハ前ノ遺囑ヲ廢棄ス可シ而シテ遺囑ノ變化ハ反對ヲ包含シ或ハ前ニ爲シタル遺囑贈遺ノ證書カ廢棄セラレサル可カラサルコト明言シタル有ルニ非サレハ該證書ヲ廢棄セサル者トス(拿破崙法典第千三十五條及ヒ第千三十六條參看)

第五百九十六條 遺囑者ハ證書ヲ破壞シ或ハ活潑ナル音聲若クハ書類ニ依テ之ヲ廢棄シ以テ其處分ヲ廢止スルコトヲ得可シ

第五百九十七條 遺囑者ハ既ニ第五百五十七條ニ述ヘタル如ク拒辭ス可カラサル證人二名ノ面前ニ於テ其辨理心ノ充分ナル使用ト其

自由ノ施行トテ以テ此廢棄ヲ爲サ、ル可カラス

第五百九十八條 書類ニ依テノ廢棄ハ公證人ニ依リ或ハ遺囑者ニ依テ記セラレ而シテ彼レ及ヒ自己ノ分限上記載ヲ爲ス可キ證人ニ依テ之ニ姓名ヲ手署セラレサル可カラス

第五百九十九條 口演ノ廢棄ハ若シ遺囑者カ之ヲ爲シタルヨリ八日間尙ホ生活シ及ヒ遺囑贈遺ノ證書ヲ作ルカ爲メ充分ナル景狀ニ於テアル時ハ何ノ効ナモ生セサル者トス(第五百五十二條參看)

第六百條 遺囑ハ若シ設定セラレタル相續人カ其本人ニ先テ死去スル時若シハ財産相續ヲ拋棄スル時ハ無効ト成ル可シ但シ遺囑者カ其死去ノ時尙ホ生活シ及ヒ財産相續ヲ承諾スル所ノ相續人ヲ設定シタル時ハ格別ナリトス(拿破崙法典第千三十九條參看)

第六百一條 若シ有効ノ遺囑カ前數條ニ記載シタル原由ノ効ニ依テ

無効ト成ル時ハ前ノ遺囑ハ有効タラサル者トス而シテ財産相續ハ正當ノ相續人ニ歸シ及ヒ正當ノ相續人無キ時ハ法律上ノ相續人ニ歸ス可シ且該相續人ハ遺囑ニ依テ公然命セラレタル贈遺ヲ拂ハサル可カラヌ何トナレハ該相續人ハ設定ノ相續人ヨリ他ノ人ニ依テ己レニ拂ハレ得ルカ故ナリ

第六百二條 遺囑ハ正當ノ相續人或ハ子ノ偶然現出シタルカ爲メ無効ト成ル可シ然レモ若シ彼等カ遺囑者ニ先テ死スルニ至ル時ハ遺囑ハ其施行ヲ受ケサル可カラス

第六百三條 若シ遺留財産ニ封印ヲ爲ス時(第五百條參看)ハ當該官吏ハ遺囑ノ成立ツヤ否ヲ穿鑿シサル可カラス若シ彼等カ遺囑ノ一ヲ見出ス時ハ彼等ハ之ヲ取り而シテ裁判所長ニ呈出セサル可カラス

第六百四條 財産相續ニ於テ一ノ遺囑ヲ見出ス所ノ相續人或ハ遺囑

ノ一ヲ委託セラレタル看守人ハ自己ノ責任ヲ以テ猶豫無ク裁判所長ニ之ヲ呈出セサルヲ得ヌ

第六百五條 遺囑贈遺ノ口演ノ證書ノ證人或ハ遺囑ノ口演ノ廢棄ノ證人ハ處分者ノ死去ヲ知得セシ以來自己ノ責任ヲ以テ同様ニ遺囑者カ己レニ遺囑ノ贈遺ヲ述ヘタルヲ裁判所長ニ公告セサルヲ得ヌ

第六百六條 若シ證人カ遺囑者ノ口演ノ處分ヲ自身ニ記セサリシ時ハ裁判所長ハ直ニ書記ニ之ヲ口授シ以テ之ヲ告知セサル可カラヌ又彼等ノ證據ヲ立シカ爲メ裁判所ノ最初ノ審判席ニ自カラ臨席セサル可カラヌ

第六百七條 遺囑ヲ呈出シタル以來裁判所ノ最初ノ審判席ニ於テ裁判所長ハ自己ノ受取リシ處分書ヲ裁判所ニ呈出シ及ヒ之ヲ朗讀セ

サル可カラヌ或ハ關係各人カ證人ノ誓ヲ宣ヘテ證據ヲ立ツルヲテ要求シ得ル旨ヲ豫メ證人ニ報告シタル後證人ヲシテ證據書類ヲ認メシメサル可カラヌ

第六百八條 若シ關係各人カ此權利ヲ使用スルヲ欲スル時ハ彼等ハ裁判所ニ於テ遺囑ノ調書ヲ認メシ時ヨリ九十日ノ猶豫内ニ證人カハイイ一ノ面前ニ於テ誓ヲ宣フ可キヲ訟求セサル可カラヌ

第六百九條 關係各人ハ證人ニ毫モ疑問ヲ向クルヲ得ヌ而シテ證人ハ單遺囑者カ其辨理心ト其自由ノ充分ナル享有ヲ以テ活潑ナル音聲ニテ關係各人ニ遺囑ノ贈遺ヲ發言シタルカ如ク遺囑者ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ裁判所ニ與ヘタルヲ誓ハサル可カラヌ而シテ斯ノ如ク誓ヲ宣ヘテ其證據ヲ立テタル證人ハ己レヲ逼迫シタル者ヨリ損害ノ賠償ヲ受クルヲ得可ク

四一二

第六百十條 前三條ハ廢棄ニモ亦適用セラル可シ

第六百十一條 裁判所ハ己レノ受取リタル遺囑贈遺ノ證書ノ原書ヲ都テ確認シ及ヒ二名ノ證人ニ依テ通知セラレタル口演ノ都テノ處分ヲ確認セサル可カラズ而シテ亦其調書ヲ作ラサル可カラズ

第六百十二條 書記ハ遺留財産ノ費用ニ於テ確認セラレタル遺囑書中ニ記載セル各人ニ其人ニ關スル條款ノ拔萃ヲ渡サ、ル可カラズ

第六百十三條 裁判所ノ確認(第六百十一條參看)ハ設定ノ相續人ニ占有ヲ得セシムル名義ニ用立ツ者トス

第六百十四條 遺囑ノ全部又ハ一部ヲ攻撃セント欲スル者ハ確認後一年ノ猶豫内ニ其訴訟ヲ起サ、ル可カラズ或ハ若シ彼レカ此時ニ於テ不在ナル時ハ其歸國ノ日ヨリ九十日ノ猶豫内ニ之ヲ爲サ、ル可カラズ

第六百十五條 假令遺囑ノ法式ヲ缺クカ爲メニ廢棄セラレタルト雖

モ(第五百五十七條乃至第五百六十八條參看)貧民ノ爲メ或ハ公益ノ爲メニ遺囑中ニ含蓄スル贈遺ハ正當ノ相續人ノ權利ヲ除クノ外保存セラル可シ(第五百五十三條參看)

第六百十六條 若シ遺囑者カ第五百五十三條ニ於テ許スヨリモ其財產相續ノ大ナル部分ヲ處分シタル時ハ其正當ノ相續人ハ人カ己レニ拂ハ、ル可キ部分ヲ充スヲ認求スルヲ得可シ

第六百十七條 若シ人カ遺囑贈遺ノ處分ノ有効ナルヲ默許シタル時ハ最早之ヲ攻撃スルヲ得ズ

第三節 財産相續ノ順序

五一二

第六百十八條 若シ死者カ正當ノ相續人ヲ遺留セサル時或ハ彼レカ都テ彼レノ遺留財産ヲ處分セサリ、時或ハ遺囑カ二三ノ理由ノ爲

メニ施行セラレサル時ハ法律上ノ財産相続ハ人カ處分セサリシ所
ノ遺留財産若クハ遺囑ノ施行セラレサリシ所ノ遺留財産ノ全部或
ハ一部ノ爲メニ開始スル者トス(第五百十一條參看)

第六百十九條 或ル人ノ法律上ノ相続人ハ法律ニ於テ次條及ヒ前條
特別ニ記載セラレタル順序ニ於テ財産相続ノ權利ヲ付與スル其父
母ノ相続人ナリトス

第六百二十條 若シ母カ其子ト共ニ財産分派ヲ爲シタル後死去スル
時ハ其遺留財産ハ都テ其子ニ歸ス可シ(第五百十八條參看)
而シテ代理ノ權利ニ關スル第五百二十九條乃至第五百三十二條ノ
規則ハ此場合ニ適用ス可キ者トス

第六百二十一條 死者ノ父ハ前條ノ場合ヲ除クノ外其子ノ都テノ他
ノ血屬親ヲ除却ス可シ(拿破崙法典第七百四十六條參看)

第六百二十二條 若シ死者カ父ヲ遺留セサル時ハ同父母兄弟及ヒ姉
妹ハ其法律上ノ相続人ナリトス(拿破崙法典第七百五十條參看)

第六百二十三條 死者ノ同父母兄弟及ヒ姉妹ノ側ニ既ニ死セル同父
母兄弟及ヒ姉妹ノ子アル時ハ此子ハ其父母ヲ代理スルノ權利ヲ有
ス可シ但シ此場合ニ於テハ同父母兄弟及ヒ姉妹ハ頭毎ニ財産相続
ヲ爲シ及ヒ既ニ死去セル同父母兄弟及ヒ姉妹ノ子ハ族毎ニ財産相
續ヲ爲ス可シ(同上)

第六百二十四條 若シ兄弟一人ノ財産相続ニ關スル時ハ其武器其衣
服及ヒ其自用ニ供シタル動産ハ兄弟等ニ屬ス可シ而シテ姉妹一人
ノ財産相続ニ關スル時ハ姉妹等ニ屬ス可シ

此場合ニ於テハ代理ハ許サレサル者トス

第六百二十五條 若シ死者カ父ヲ遺留セサル時同父母若クハ姉妹ヲ

遺留セサル時ハ其母ハ彼レニ相續セサル可カラヌ(拿破崙法典第七百四十六條ト相異ナリ)

第六百二十六條 若シ死者カ父ヲ遺留セヌ亦同父母兄弟若クハ姉妹ヲ遺留セス亦母ヲ遺留セサル時ハ其異婚ノ兄弟及ヒ姉妹ハ其法律上ノ相續人ナリ若シ既ニ死去シタル此等ノ兄弟及ヒ姉妹ノ子アル時ハ此等ノ子ハ第六百二十三條ニ記載シタル方法ニ循テ其父母ヲ代理ヌ可シ(拿破崙法典第七百五十二條參看)

第六百二十七條 若シ異婚ノ兄弟及ヒ姉妹ノ側ニ尙ホ既ニ死去シタル同父母兄弟及ヒ姉妹ノ子アル時ハ彼等ハ都テ頭毎ニ財產相續ヲ爲ヌ可シ

第六百二十八條 若シ死者カ父母兄弟若クハ姉妹ヲ遺留セサル時ハ既ニ死去シタル其兄弟若クハ姉妹ノ子ハ其相續人ナリ且同父母兄

弟及ヒ姉妹ノ子ハ異婚ノ兄弟若クハ姉妹ノ子ニ先テテ財產相續ヲ爲ヌ可シ而シテ此異婚ノ兄弟若クハ姉妹ノ子ハ同父母兄弟若クハ姉妹ノ子ノ一モ在ラサル時ニ非サレハ財產相續ヲ爲サル者トス

第六百二十九條 若シ死者カ此等ノ血屬親ノ一ヲモ遺留セサル時ハ其他ノ血屬親彼レニ財產相續ヲ爲ヌ可シ而シテ最近ノ級ノ血屬親ハ最遠ノ級ノ血屬親ヲ除却シ及ヒ同級ノ血屬親ハ平等ノ部分ヲ取ル可シ

第六百三十條 若シ一級ノ都テノ血屬親カ財產相續ヲ拒辭スル時ハ次級ノ血屬親ハ財產相續ヲ爲ヌ爲メニ招ル可シ(第六百六十九條參看)

第六百三十一條 血屬親ノ在ラサル時ハ遺留財產ハ國庫ニ沒収セラ

第三款 遺留財産ノ獲得

第一節 財産相續ヲ肯スル事及ヒ肯セサル事

第六百三十二條 拿破崙法典第七百七十五條ニ同シ

第六百三十三條 財産相續ノ歸シタル者ハ死者ノ財産及ヒ負債ヲ知

得セシカ爲メ三十年間財産相續ノ目錄ヲ請求スルノ權アリ(拿破崙

法典第七百九十五條ト相異ナリ)

第六百三十四條 若シ死者カ遺囑書ヲ遺シタル時ハ此猶豫ノ期限ハ

人カ遺囑書ヲ開緘スル所ノ日ヨリ開始ス可シ若シ彼レカ之ヲ遺サ

ル時ハ葬式ノ日ヨリ開始ス可シ

第六百三十五條 財産相續ヲ承諾スルコトヲ欲セサル正當ノ相續人ハ

之ヲ拒辭シ或ハ第六百三十三條ノ猶豫内ニ財産ノ目錄ヲ作ラシメ

サル可カラズ

第六百三十六條 拋棄ハ死者ノ住所ノ「ハイイ」ノ面前ニ於テ書類ニ

依テ之ヲ爲ス可シ(拿破崙法典第七百八十四條參看)

第六百三十七條 若シ正當ノ相續人カ公然拋棄シタル以來「ハイイ」

ハ新聞紙ヲ以テ其他ノ相續人ニ之ヲ報知セサル可カラズ而シテ若

シ此記載ヨリ三十日ノ猶豫内ニ他ノ相續人カ自己ノ權利ヲ擴張セ

サル時ノ遺留財産ハ家資分散ヲ公告セラル可キコトヲ報知セサル可

カラズ

第六百三十八條 拿破崙法典第七百七十八條ニ同シ

第六百三十九條 若シ其地ニ現在スル相續人カ公然財産相續ヲ拒辭

スルコトヲ怠ル時或ハ第六百三十三條ニ依テ定メラレタル猶豫内ニ

財産ノ目錄ヲ請求スルコトヲ怠ル時ハ彼等ハ黙諾シタル者ト看做サ

ル可シ

第六百四十條 後見ヲ受クル所ノ人ハ財産相續ノ承諾若クハ拒辭ノ爲メ其後見人ニ依テ代理セラレサル可カラシ(第二千七十九條及ヒ第二千八十條○拿破崙法典第七百七十六條參看)

第六百四十一條 若シ正當ノ相續人カ不在ナル時或ハ若シ遺囑若クハ法律上ノ相續人カ三十日ノ猶豫内ニ財産相續ヲ承諾セサル時及ヒ其目錄ヲ作ラシメサル時ハ死者ノ債主若クハ受贈者ノ一人或ハ一緒ニ皆死者ノ居住セシ管轄内ニ於テ「ハイイ」ニ財産相續ノ爲メ非常輔佐人ヲ命セラル可キヲ訟求スルヲ得可シ

第六百四十二條 非常輔佐人ハ財産相續ノ目錄ヲ記セシメサル可カラシ而シテ若シ相續人カ第六百六十六條ニ依テ定メラレタル猶豫ノ後現出セサル時ハ家資分散ヲ言渡サシメサル可カラス

第六百四十三條 債主受贈者及ヒ裁判所ノ評價ニ依テ給料ヲ定メラ

レタル非常輔佐人ニ全ク辨濟ヲ爲シタル後殘ル財産ノ全部ハ之ヲ相續人ニ引渡サル可シ

第二節 財産ノ目錄

第六百四十四條 若シ共ニ財産相續ヲ爲ス可キ者ノ中其一人カ死者ノ財産相續ノ目錄ヲ訟求スル時ハ彼レハ之ニ付キ訴訟ヲ受ケサル可カラス

第六百四十五條 財産ノ目錄ヲ要求スル相續人ハ第六百三十三條ノ猶豫内ニ死者ノ居住セシ所ノ管轄内ニ於テ「ハイイ」ニ訟求シ及ヒ封印ヲ證明セサル可カラス(第五百條參看)

第六百四十六條 「ハイイ」ハ非常後見人ノ權利及ヒ義務ヲ有スル財産全部ノ管理人ヲ命ス可シ(第二百三十三條及ヒ第二百三十四條參看)而シテ彼レハ該管理人ニ六十日ノ猶豫内ニ書記ノ補助ヲ以テ財

産ノ目錄ヲ作り第六百六十六條ノ猶豫ノ終リニ至ル迄遺留財産ヲ注意シ及ヒ遺留財産ノ費用ニ於テ死者ノ責任アリシ寡婦及ヒ子ヲ相當ニ養育スルコトヲ任ス可シ

第六百四十七條 管理人ハ任ヲ受ケタル以來書記及ヒ封印ヲ爲シタル官吏ト共ニ死者ノ住所ニ到リ封印ノ景狀ヲ検査シタルノ後此終リノ官吏ニ依テ己レニ遺留財産ヲ引渡サシム可シ

第六百四十八條 管理人ハ書記ヲシテ死者ノ書類ヲ検査セシメ且財産及ヒ負債ノ目錄ヲ記セシメサル可カラヌ而シテ推測ノ財産相續人ハ書類ノ検査及ヒ目錄ノ所爲ニ立會フコトヲ得可シ

第六百四十九條 財産各部ノ價直ハ財産ノ目錄ニ記入セサル可カラヌ而シテ終リニ管理人ハ誓ヲ宣ヘタル鑑定人ヲシテ時價及ヒ認定セラレタル價直ヲ有セサル財産ヲ評價セシメサル可カラヌ(第三百

四十八條參看)

第六百五十條 死者ノ寡婦及ヒ子ノ後見人ハ彼等ニ必要ナル物品及ヒ彼等ニ渡ス所ノ物品ノ請取ヲ管理人ニ與フ可シ其他運搬シ易キ死者ノ諸動産ハ評價ヲ爲シタル後安全ノ場所ニ附託シ且管理人ニ依テ之ニ封印ヲ加ヘラレサル可カラヌ

第六百五十一條 管理人ハ推測相續人ノ承諾及ヒ「バイイー」ノ允許ヲ以テ損壞スル動産及ヒ保存スルニ付キ費用ヲ生スル動産ヲ羅賣ニ付セサル可カラヌ亦死者ノ商業ヲ中止スルニ依リ財産相續ニ損害ヲ醸シ得ル時ハ債主ニ損害ヲ及サ、ル様該商業ヲ繼續センカ爲メ必要ナル處置ヲ取ラサル可カラヌ

第六百五十二條 管理人ハ亦遺留財産ノ引渡ヲ得タル以來遺留財産ノ負債及ヒ死者ノ與ヘタル保證金ヲ充分ニ知得センカ爲メ必要ノ

注意ヲ爲サ、ル可カラヌ而シテ不動産ノ全部ヲ質入ト爲シタル債ヲ不動産ノ公簿ヨリ抄出シ及ヒ其證書ヲ取り終リニ召喚狀ニ依テ死者ノ有權者ヲ召喚スルヲ書記ニ命セサル可カラヌ

第六百五十三條

召喚狀ハ死者ニ對シ擴張ス可キ二三ノ權利ヲ有シ

及ヒ保證ヲ立テラレタル都テソ者ヲ召喚シ且財産ノ目錄ヲ作ル爲

ノ「バイイー」ニ依テ定メラレタル猶豫内ニ財産相續ニ付キ書面ヲ以

テ彼等ノ要求ヲ書記局ニ證明ス可キ二三ノ權利ヲ有スル都テソ者

ヲ召喚セサル可カラヌ(第六百四十六條參看)而シテ該召喚狀ハ亦彼

等カ若シ此請求ヲ爲スニ怠ル時ハ彼等ノ權利ヲ拋棄シタル者ト看

做ス可キヲテ彼等ニ報知セサル可カラヌ

第六百五十四條

召喚狀ハ有權者カ其請求ヲ再ヒ爲スカ爲メ公用新

聞中ニ記入シタル日ヨリ少ナクモ四十日間ヲ有スル様可成速ニ之

ヲ公ケニ爲サ、ル可カラヌ

第六百五十五條

召喚狀ハ訴訟法第九十二條ニ記載シタル方法ニ循

テ之ヲ公ケニ爲サ、ル可カラヌ茲ニ注意セサル可カラサルアリ

八百二十一年ノ訴訟法ニ觀テ記セス而シテ千八百二十一年ノ訴訟

法第九十二條ハ千八百四十七年ノ新訴訟法第八十三條ニ依テ置替

セラレタ其他該召喚狀ハ死者ノ住所最モ近キ「キユレ」管轄地

及ヒ其出產ノ場所ニ續テ三回日曜日ノ説教ニ於テ之ヲ朗讀セサル

可カラヌ是レ畢竟都テ此等ノ場所ニ於テハ古來ノ習慣タリ終リニ

該召喚狀ハ死者ノ住スル邑其出產ノ地ノ邑首府及ヒ一定ノ場所ニ

第六百五十六條

書記ハ召喚狀ヲ公布シタルノ證ヲ證書ニ附記ス可

シ

第六百五十七條

若シ書記カ死者ノ書類(第六百四十八條參看)或ハ不

動産ノ簿冊(第六百五十二條參看)ヲ一閱シテ召喚狀ヲ公布シタル日ヨリ初三十日内ニ要求セラレサル債主權ノ證據ヲ見出ス時ハ彼レハ自己ノ責任ニテ郵便ヲ以テ有權者ニ財産ノ目錄ヲ通知シ及ヒ此郵便ノ證書ヲ取ラサル可カラヌ

第六百五十八條 此等ノ豫防ニ拘ラス召喚狀ニ依テ定メラタル猶豫内ニ書記局ニ其請求ヲ證據立テサル有權者ハ其權利ヲ拋棄シタル者ト看做サル可シ

第六百五十九條 書記ハ有權者等ノ請求ニ依リ各有權者ニ彼等ノ請求ノ證書ヲ與ヘサル可カラヌ而シテ其費用ハ遺留財産ノ責任ナリトス

第六百六十條 若シ召喚狀ニ依テ定メラタル猶豫内ニ其請求書ヲ呈出セザリシ有權者カ其權利ノ回復ヲ得ント欲スル時ハ公用新聞

中ニ該召喚狀ヲ掲載シタルヨリ一年ノ猶豫内ニ召喚狀ヲ知得セザルヲ或ハ最早之ニ循據シ能ハサル様遅ク之ヲ知得シタルヲ關係各人ニ謄ヲ爲シテ確メサル可カラヌ

第六百六十一條 若シ有權者カ裁判官或ハ裁判所ニ依テ其權利ヲ回復シタル時ハ彼レハ唯財産相續人カ財産相續ニ依テ獲得シタル者ニ付テノ該相續人ニ對シ其權利ヲ擴張スルヲ得可シ而シテ相續人ハ自己ノ獲得シタル者ヲ有權者ニ乘與シ以テ義務ヲ免ル、トテ得可シ

第六百六十二條 財産ノ目錄ノ允許以來財産相續ノ開始若シハ家資分散ノ公告ニ至ル迄ハ財産相續ニ對スル訴訟ハ一モ允許セラル可カラヌ又彼レニ對シ一ノ權利モ開レサル可シ假令死者ノ存命中既ニ始リタル訴訟ト雖モ此猶豫ノ間ハ中止セラル可キ者トス

第六百六十三條 若シ法律上ノ猶豫内ニ財産ノ目錄ヲ作ル能ハサル時(第六百四十六條參看)ハ管理人共旨ヲ「バイイー」ニ通知シ而シテ期限ヲ猶豫ヲ請求セサル可カラズ

第六百六十四條 「バイイー」ハ管理人ニ四十日ヨリ多カラサル猶豫ヲ與フルコトヲ得可シ但シ此ヨリ長キ猶豫及ヒ爾後ノ猶豫ニ付テハ我カ小議會ニ請求セサル可カラズ(拿破崙法典第七百九十八條參看)而シテ此猶豫ハ遲滯スルモ債主ニ益セサル者トス

第六百六十五條 「バイイー」或ハ小議會ニ依テ與ヘラレタル猶豫ハ公用新聞中ニ掲載セラレサル可カラズ

第六百六十六條 財産ノ目錄ヲ作ル爲メニ定メラレタル猶豫ノ終リタル後相續人ハ若シ財産相續ヲ承諾シ若シハ之ヲ拒辭スル時ハ協議ヲ爲スカ爲メ三十日ノ猶豫期限ヲ有ス可シ(拿破崙法典第七百九

十五條參看)

第六百六十七條 拋棄ハ書類ヲ以テ之ヲ爲シ及ヒ相續人ニ依テ財産ノ目錄ヲ允許シタル「バイイー」ニ之ヲ渡サ、ル可カラズ

第六百六十八條 協議スル爲メノ猶豫内ニ拋棄セサル所ノ相續人(第六百六十六條參看)ハ既ニ承諾シタル者ト看做サル可シ

第六百六十九條 若シ共ニ財産相續ヲ爲ス可キ者ノ中ニテ二三ノ者カ財産相續ヲ拋棄スル時ハ其者ノ部分ハ之ニ附着シタル責任ト共ニ設定ノ相續人ニモセヨ(第五百七十六條及ヒ次條參看)共ニ財産相續ヲ爲ス可キ者ニモセヨ(第五百七十四條第五百七十五條第六百二十九條及ヒ第六百三十條參看)或ハ正當及ヒ法律上ノ相續人ニモセヨ(第五百七十四條及ヒ第六百十八條參看)増加ス可キ者トス
第六百七十條 若シ斯ノ如ク相續人ノ在ラサル部分カ財産ノ目錄ヲ

命シタル時財産相續ヲ爲スニ適セサル相續人ニ増加スル時ハ財産相續ニ於テノ拋棄ハ公用新聞中ニ掲載セラレサル可カラズ

第六百七十一條 他ノ相續人カ財産相續ヲ拋棄シタル故ニ非サレハ此分限ヲ有セサル相續人(第六百六十九條參看)ハ其財産相續ヲ承諾スルガ或ハ拒辭スルガヲ公告セシカ爲メ此記載ノ日ヨリ四十日ノ猶豫期限ヲ有ス可シ

第六百七十二條 若シ該相續人カ此期限内ニ決シテ公告セサル時ハ(第六百七十一條參看)彼等ハ財産相續ヲ拋棄シタル者ト看做サル可シ

第六百七十三條 若シ都テノ相續人カ財産相續ヲ拋棄シタル時ハ「イイ」ハ家資分散ヲ言渡サシム可シ

第二篇 人權

第一卷 一般ノ契約

第六百七十四條 人カーノ權利ヲ他人ニ讓渡ス所ノ公告ハ之ヲ稱シテ約束ト云フ若シ約束ヲ受ケタル人カ之ヲ承諾スル時ハ此相互ノ承諾ヨリシテ一個ノ契約ノ生スル者トス(拿破崙法典第千百一條參看)

第六百七十五條 唯一人義務ヲ負フ所ノ契約ハ之ヲ稱シテ恩惠即チ片務ノ契約ト云ヒ而シテ雙方互ニ義務ヲ負フ所ノ契約ハ之ヲ稱シシテ要償即チ雙務ノ契約ト云フ(拿破崙法典第千百二條及ヒ第千百三條參看)

第六百七十六條 辨理心ノ使用ヲ有セサル所ノ人ハ契約ヲ爲スヲ得ス而シテ其辨理心ノ使用ヲ有スト雖モ其權利ノ使用ヲ有セサル所

ノ者(第十六條參看)ハ約束ヲ承諾スルヲ得可シ然レモ其後見人ノ立會無クシテ義務ヲ負フヲ得ス(第六十一條第六十二條第二百十二條第二百七十六條及ヒ第三百九條參看)但シ此權利カ法律ニ依テ公然彼等ニ許與セラレタル場合ハ此限ニ非ス(第九十一條第三百七條第三百九條及ヒ第三百十條○拿破崙法典第千百二十三條參看)

第六百七十七條 我邦内ニ在ル不動産ニ付キ所有ノ權利又ハ書入質ノ權利ヲ獲得セント欲スル外國人ハ我カ小議會ノ允許ヲ受ケサル可カラズ但シ該外國人カ此等所有權獲得ノ爲メニ自邦ノ住民ト同一ノ能力ヲヘルヌ人民ニ許與スル所ノ瑞士聯邦ノ一ニ屬スル時ハ格別ナリトス

第六百七十八條 承諾ハ契約ノ要件アリ故ニ契約者雙方ハ自由ニ且其辨理心ノ充分ナル使用ヲ以テ其意欲ヲ表明セサル可カラズ而シ

テ承諾ハ都テノ點ニ於テ約束ト之ヲ混同ス可カラズ(拿破崙法典第千百八條及ヒ第千百九條參看)

第六百七十九條 若シ契約者ノ一方カ不正ノ暴行ニ依テ他ノ一方ノ承諾ヲ得ル時ハ他ノ一方ニ在テハ義務ヲ負ハサル者トス(拿破崙法典第千百十一條參看)

第六百八十條 若シ契約者ノ一方カ物件ノ景狀或ハ其實質ニ付キ他ノ一方ヨリ詭欺ヲ受ケタル時ハ彼レハ義務ヲ負ハサル者トス(拿破崙法典第千百十條參看)

第六百八十一條 若シ物件ノ景狀或ハ其實質上ニ錯誤ヲ及サ、ル時ハ契約ハ保存セラル可シ然レモ詭欺ヲ受ケタル一方ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得可シ

第六百八十二條 暴行或ハ詭欺ニ依テ他人ヲ誘致シ自己ト契約ヲ結

ハシメタル者ハ彼レニ充分完全シタル賠償ヲ許與セサル可カラス

(第九百六十五條參看)

第六百八十三條

契約者雙方カ契約ヲ結ビタル時知得シタル物件ノ

譯ニ依テ發見シ得タル計算ノ錯誤ハ其契約ヲ執行セサルコトニ付キ

契約者ノ一ヲモ許サ、ル者トス而シテ之ニ類似スル錯誤ノ譯ニ依

テ過分或ハ過少ニ約束辨濟セラレタル者ハ裁判所ノ法式ニ循テ賠

償セラレサル可カラス(第千二十條參看)

第六百八十四條

賣買ス可キ都テノ物件、法律上爲スコトヲ得可キ都テ

ノ所爲、都テノ允許及ヒ都テノ禁止ハ契約ノ目的クルコトヲ得可シ(拿

破法典第千二百二十八條參看)

第六百八十五條

或ル場合ニ於テ禁止セラレタル契約ノ外遺留財産

若シハ將來ノ贈遺ノ賣買ニ關シ若クハ賭博及ヒ遊戯ニ關スル契約

ハ無効ノ者トス(拿破崙法典第千三百三十條及ヒ第千九百六十五條參

看然リト雖モ禁止セラレタル契約ニ適用ス可キ刑ヲ以テ之ヲ罰ス

ルコト無シ之ニ反シテ畢生間ノ年金、保證及ヒ養料ノ契約ハ第三人ノ

權利ヲ害セサルカ故ニ允許セラル、者トス(拿破崙法典第千九百六

十八條參看)而シテ此等ノ契約ハ一般ノ契約就中最モ之ニ類似スル

所ノ契約ニ適用ス可キ原則ニ循テ審判セラレサル可カラス

第六百八十六條

契約ハ單ニ活潑ナル音聲ヲ以テ之ヲ爲シ或ハ法律

上必要ナルト契約者雙方ニ依テ同意セラレタルトテ問ハス唯、契約

ノ有効ニ緊要ナル或ル法式ヲ履行シ以テ之ヲ爲スコトヲ得可シ

第六百八十七條

契約書ノ法式ハ證人ノ面前ニ於テ公證人ヲシテ契

約書ヲ記セシムルコト若シハ契約者雙方ニ依テ之ニ姓名ヲ手署セシ

ムルコトニ於テ成立スル者トス而シテ裁判所ノ捺印ハ裁判所ニ契約

書ヲ呈出シタルコトヲ證シ且裁判所長及ヒ公證人ノ姓名ノ手署ヲ確
認スルニ用立ツ者トス

第六百八十八條 書類ヲ以テ爲サ、ル可カラサル契約ハ唯、契約ノ爲
メニ記シタル證書ニ關シテハ契約者雙方ノ姓名ヲ手署シタルニ依
リ或ハ公正ノ約束ヲ爲シタルニ依テノミ完全ノ者トス然レモ糶賣
ニ於テ爲シタル供給ハ公證人カ其證書ヲ取リタル時ハ假令賣買ニ
證書ヲ要スル物件ニ關スルト雖モ其供給ヲ爲シタル者チ餘儀ナシ
スル者トス

第六百八十九條 若シ書記又ハ公證人一方ノ者カ契約ノ効ニ依テ他
ノ一方ノ上ニ有スル債主權ノ譯ニ於テ讓與スル所ノ不動産ニ係ル
書入賣ヲ包含スル讓與ノ契約書賣買、交換、分派等ヲ記スル時ハ彼等
ハ書入賣ノ證書ニ用立ツ二通ノ證書ニ賣買、交換、分派ノ契約ナル語

ヲ記入シ及ヒ所有權ノ證書ニ用立ツ所ノ證書ニ賣買、交換、分派ノ證
書ナル語ヲ記入セサル可カラズ

第六百九十條 公證人ノ面前ニ於テ締結ス可カラサル契約ノ譯ヲ以
テ同一ノ場所ニ居住セサル二人ノ間ノ通信ハ若シ契約者雙方カ契
約ノ要件及ヒ附屬件ニ付キ同意シタルコトヲ明示スル時ハ證書ヲ代
理スル者トス

第六百九十一條 若シ契約書ヲ記シタル時ハ契約者雙方カ證書ヲ記
スルノ前或ハ之ヲ記スルノ際爲シタル口演ノ約束ニ固着ス可カラ
ズ

第六百九十二條 若シ數人カ分ツ可キ同一ノ義務若シハ同一ノ債主
權ヲ有スル時ハ各其部分ノ爲メニ義務ヲ負ヒ或ハ唯自己ノ得可
キ部分ノミチ要求スルヲ得可シ但シ法律若シハ雙方ノ約束ヲ以テ

其他ノ方法ニ之ヲ決定シタル場合ハ此限ニ非ス(第六百九十五條參看)

第六百九十三條 若シ義務若シハ債主權ノ目的カ分ツ可カラシテ唯權利者一人アル時ハ共ニ義務ヲ負フタル者ノ中己レノ指名スル所ノ者ヲシテ強テ義務ヲ拂ハシムルヲ得可シ若シ權利者數人アリテ都テノ權利者ニ依テ指名セラレサル所ノ義務者ハ若シ權利者ノ多數カ訟求セサル時ハ假ニ義務ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得可シ(拿破崙法典第一千二百二條參看)

第六百九十四條 若シ法律又ハ契約ノ効ニ依テ共同ニ義務ヲ負フタル數名ノ義務者カ各自義務ノ全部ニ付キ出訴セラル、ヲ得ル時ハ連帶ハ被動ナリ又法律若シハ契約ノ効ニ依テ共同ノ債主權ヲ有スル數名ノ權利者カ各自權利ノ全部ニ付キ出訴スルヲ得ル時ハ連帶

ハ自働ナリトス(拿破崙法典第一千九十七條及ヒ第一千二百條參看)

第六百九十五條 若シ連帶シテ共ニ義務ヲ負フタル者カ共同ノ義務ヲ全ク辨濟シタル時ハ彼レハ權利者ノ位地ヲ取り而シテ自己ノ部分ヲ差引キ共ニ義務ヲ負フタル者ニ對シテ其權利ヲ擴張ス可シ若シ共ニ義務ヲ負フタル者ノ一人カ其部分ヲ辨濟シ能ハサル時ハ其損失ハ都テ其他共ニ義務ヲ負フタル者ノ間ニ彼等ノ部分ノ割合ニ準シテ配分セララル、者トス(拿破崙法典第一千二十四條參看)

第六百九十六條 若シ連帶ノ權利者ノ一人カ義務者ヨリ全ク辨濟ヲ受ケタル時ハ其他ノ權利者ハ最早義務者ニ對シ何モ要求スルヲ得ス(拿破崙法典第一千九十七條參看)

第六百九十七條 連帶ノ義務者中ノ一人ハ其他ノ義務者ヲ餘儀ナクスルヲ得ス若シ權利者ノ一人カ連帶ノ義務者ノ一人ヲ釋放スル時

ハ彼レハ其釋放ヲ爲シタル部分ノ割合ニ準シテ其債主權ヲ減少ス
可シ而シテ若シ連帶ノ義務者ノ一人其他ノ共ニ義務ヲ負フタル者
カ裁判所ヨリ出訴シテ釋放ヲ得タル義務ヲ付キ權利者ノ一人ヨリ其
釋放ヲ得タル時ハ他ノ共ニ義務ヲ負フタル者ハ續テ義務ノ全部ヲ
負フ者トス

第六百九十八條 未必ノ條件ニ於テ義務ヲ負フタル者ハ事件ノ確定
セサル限りハ該條件ニ於テ他人ニ確メラレタル權利ニ損害ヲ及ス
事物ハ毫モ企圖ス可カラス亦該件ノ履行ヲ妨害ス可カラス然ラサ
レハ該條件ハ既ニ履行セラレタル者ト看做サル可シ

第六百九十九條 契約ハ之ヲ取締ヒタル場所時期及ヒ方法ニ於テ施
行セラレサル可カラス

第七百條 若シ契約者雙方カ義務履行ノ爲メ更ニ時期ヲ定メサリシ

時ハ權利者ハ遲延無ク其執行ヲ請求スルヲ得可シ然レモ若シ一ノ
時期ヲ約定シタル時ハ權利者ハ義務ノ履行ヲ請求スルノ前辨濟ノ
期日ヲ待タサル可カラス但シ其他ノ方法ニ於テ處分セラレタル場
合ハ此限ニ非ス(第九百九十九條參看)

第七百一條 若シ義務執行ノ場所カ契約ノ條款及ヒ其性質或ハ其目
的ニ基カサル時ハ動産ハ契約ヲ取締ヒタル場所ニ於テ引渡サレサ
ル可カラヌ又裁判上ノ證書ハ契約ヲ取締ヒタル時義務者ノ住セシ
場所ニ於テ之ヲ作ル可シ但シ不動産ハ其所在ノ場所ニ於テ引渡サ
レサル可カラヌ(第四百三十四條第四百四十九條及ヒ第四百八十四
條參看)而シテ其辨濟ハ權利者カ其債主權ヲ獲得シタル以來我邦外
ニ轉住シタルニ非サルヨリハ權利者ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス可シ且
權利者ハ小貨幣ニ於テ唯百ニ付キ五ヲ承諾スルヲ得ルノミコシテ

決シテ三十「フラン」ヨリ多キ額ヲ承諾スルヲ得ス

第七百二條 契約書ノ文詞ハ契約者雙方カ其契約書ニ於テ他ノ意味ニ之ヲ用フルヲ欲セサリシ時ハ固有ノ意味ニ解釋セラレサル可カラズ而シテ意味ノ疑シキ場合ハ雙方旨趣ノ存スル所ニ從ヒ及ヒ格段ノ文詞ハ全文ト一致ヒシメテ契約書ヲ解釋スルヲ要ス又疑シキ文詞ハ義務者ニ利益トナル可キ意味ニ之ヲ解セサル可カラズ(拿破崙法典第千六百六十二條參看)

第七百三條 裁判上ノ證書ハ其本義ニ從テ之ヲ解釋セサル可カラズ而シテ之ヲ記シタル者カ詭欺ニ非ス唯錯誤ニ依テ之ニ付與シ得タル所ノ法式及ヒ意義ニ從テ之ヲ解釋ス可カラズ

第七百四條 若シ雙務ノ契約ニ關スル時他ノ一方ニ強テ彼レノ義務ヲ履行セシメント欲スル一方ノ者ハ先ツ第一ニ自己ノ義務ヲ履行

シ或ハ之ヲ履行スルノ準備ヲ公告セサル可カラズ但シ契約ノ性質若シハ格段ノ約束ニ從テ彼レカ後ニ至テ之ヲ履行セサル可カラザル時ハ此限ニ非ス

第七百五條 契約者中ノ一方契約ヲ執行セスト雖モ法律ニ於テ許ササル時或ハ契約ノ性質又ハ格段ノ約束ニ依テ執行ノ時期場所若シハ方法カ契約ノ要件タルニ至ラサル時ハ他ノ一方ニ義務ヲ免レシムルヲ許サス但シ此場合ニ於テハ契約ヲ執行セサル一方ノ者ハ損害ノ賠償ニ處セラル、ヲ得可シ

第七百六條 要債契約ノ効ニ依テ物件ヲ引渡ス者ハ左ノ條件ヲ擔保セサル可カラズ

第一 物件ノ引渡ヲ得ル者カ之ヲ監守シ及ヒ其性質又ハ契約書ノ明文ニ循テ之ヲ享有シ得可キ事

第二 物件カ明諾又ハ賦諾ヲ問ハス必要ノ性質ヲ有スル事

第三 物件カ之ヲ使用スルニ付キ阻害スル隱密ノ不良ヲ毫モ有セサル事

第四 第三人カ引渡ノ時ニ於テ物件ニ害ヲ加ヘ及ヒ契約書中ニ公載セラレサル對物權ヲ擴張シ能ハサル事(拿破崙法典第千六百三條參看)

第七百七條 物件ヲ引渡ス者ハ之ヲ明約シタル時ニ非サレハ現明ノ不良ニ付キ其責ニ任セサル者トス(拿破崙法典第千六百四十二條參看)

第七百八條 債主權ノ讓渡人ハ雙務ノ契約ノ効ニ依テ其讓受人ニ唯債主權ノ有効ヲ擔保スルノミニシテ義務者ノ義務ヲ盡シ得可キヲ擔保スルニ及ハス但シ別ニ明約アル時ハ格別ナリトス然ル時ハ

權利ノ讓渡人ハ其讓受人ヨリ受取リタル額ヨリ非常ニ多キ額ニ付キ決シテ擔保セサル者トス(拿破崙法典第千六百九十三條及ヒ第千六百九十四條參看)

第七百九條 物件ヲ擔保シ及ヒ物件ヲ讓渡ス可キ本人ノ爲メニ裁判所ニ出席ス可キヲ明約シタル者ハ自己ノ擔保スル物件ニ對シテ三人ヨリ出訴セラレタル物件取戻ノ都テノ訴訟ニ於テ其本人ヲ代理セサル可カラズ(第七百六條第四項參看)若シ債主權ヲ讓渡シタル者カ其讓受人ニ對シテ保證人ト成ル時ハ此讓受人ハ義務者ノ辨濟ヲ拒ム場合ニ於テ自己ノ代ニ其讓渡人ヲ召喚セサル可カラズ

第七百十條 特別ノ約束無キニ於テハ擔保ハ引渡ノ日ヨリ十年間繼續スル者トス

第七百十一條 擔保セラレ可キ物件ノ不良カ擔保者ニ依テ恢復セラ

ル可キ性質ノ者ニ非サル時ハ物件ヲ受取リタル者ハ契約ノ解除或
ハ損害ノ賠償ヲ要求セサル可カラズ但シ反對ノ場合ニ於テハ其不
買ヲ消滅セシメ而シテ損害ノ賠償ヲ拂ハシム可キヲ要求スルヲ
得可シ(拿破崙法典第一千六百四十四條及ヒ第一千六百四十五條參看)
第七百十二條 若シ物件ヲ受取リタル者カ契約ノ解除ヲ請求スル時
人カ物件ノ不良ヲ消滅セシメ能ハサル時ハ彼レハ物件ノ不良ヲ知
得シタル日若クハ確定ノ裁判言渡ニ依テ所有權ヲ剝奪セラレタル
日ヨリ一年ノ猶豫内ニ行爲セサル可カラズ
第七百十三條 若シ不良ノ物件ヲ受取リタル者カ其義務ヲ履行ス可
キノ召喚ヲ受ケタル時ハ彼レハ自己ノ盡ス可キ義務ヲ拂ヒ或ハ物
件ノ不良ヲ擔保スル者カ之ヲ消滅セシメ若クハ其保證ヲ與ヘタル
ニ至ル迄其義務ヲ裁判官ニ託セサル可カラズ而シテ此保證ノ方法

及ヒ其額ハ雙方本人ノ一致ス可カラサル時ハ裁判官ニ依テ定メラ
ル可シ

第七百十四條 馬及ヒ獸類ノ隱密ナル不良ノ爲メニ爲ス可キ保證ハ
次ノ數條ニ依テ之ヲ確定ス可シ

第七百十五條 人カ肺病、肝病、小瘡、腹胎ノ下痢ヲ發見スル獸類ヲ買フ
タル時或ハ若シ或ル馬ヲ買テ彼レカ呼吸ニ苦シ或ハ鼻涎病、頭暈病
ニ罹リ或ハ肝病ニ罹リタルヲ發見スル時ハ獸類引渡ノ日ヨリ三
十日ノ猶豫内ニ其獸類ヲ買戻スルコト付キ若シ警察官ノ任セラレサ
リシ時ハ使吏ヲシテ販賣者ヲ召喚セシムルヲ得可シ而シテ都テノ
場合ニ於テ其代價ヲ己レニ返還セシムルヲ得可シ

第七百十六條 若シ販賣者カ獸類又ハ馬ヲ買戻スル時ハ購買
者ハ「ハインデー」ノ允許ヲ得テ自己ノ命ス可キ二名ノ鑑定人ヲシテ獸

類ノ景狀ヲ證明セシムルヲ得可シ而シテ此鑑定人ハ可成丈官許ヲ受ケタル獸醫ナルヲ要ス若シ此等ノ鑑定人カ現ニ賣買ノ契約ヲ廢棄セシム可キ不良ヲ見出ス時ハ販賣者ハ之ヲ買戻サハル可カラズ但シ警察官ノ既ニ之ヲ爲シタル時ハ販賣者ハ其代價ヲ購買者ニ返還シ或ハ彼ヲシテ義務ヲ免レシメ而シテ彼レノ爲シタル必要ノ費用ヲ彼レニ辨濟セサル可カラズ

第七百十七條 若シ販賣セラレタル獸類及ヒ馬カ三十日內ニ死去スル時ハ(第七百十五條參看)購買者ハ「バイイー」ノ允許ヲ得テ鑑定人ヲシテ獸類ノ景狀ヲ證明セシムルヲ得可シ而シテ若シ此鑑定ニ依テ賣買ノ契約ヲ廢棄セシム可キ不良ノ爲メニ獸類ノ死去セシムヲ見出シタル時ハ(第七百十五條參看)購買者ハ販賣者ヲシテ其代價ヲ己レニ返還セシメ或ハ己レノ義務ヲ免レシメ及ヒ必要ノ費用ヲ返還

セシムルヲ要求スルヲ得可シ

第七百十八條 若シ鑑定人カ單ニ賣買ノ契約ヲ廢棄セシム可キ不良ノ多分成立テシムヲ見出ス時及ヒ販賣者カ獸類ヲ買戻スルヲ拒ム時ハ購買者ハ三十日ノ猶豫間ニ鑑定人ノ面前ニ於テ獸類ヲ屠殺セシムルノ權利ヲ有ス可シ然ル時ハ體ヲ解剖シタル後鑑定人ノ決定ニ依リ前條ニ定メタル方法ニ循テ販賣者ニ損害ノ賠償ヲ請求シ或ハ自身ニ其損失ヲ負擔スルヲ得可シ

第七百十九條 若シ人カ引渡ヨリ四十八時間内ニ屠殺シタル猪ニ小瘡ヲ見出ス時ハ販賣者ハ之ヲ買戻シテ購買者ニ其代價ヲ返還シ或ハ彼レヲシテ義務ヲ免レシメサル可カラズ而シテ都テノ場合ニ於テ猪ヲ屠殺セシムル爲メニ爲シタル費用ヲ購買者ニ拂ハサル可カラズ

第七百二十條 格段ノ約束ニ依テ前數條ノ規則ニ背戻スルヲ得可シ然リト雖モ販賣者ハ常ニ其過失ニ依テ惹起シタル損害ノ責ニ任ス可キ者トス

第二卷 格段ノ契約

第一款 贈遺

第七百二十一條 人カーノ物件ヲ無償ニ他人ニ讓渡スルヲ約束スル所ノ契約ハ之ヲ稱シテ贈遺ノ契約ト云フ若シ物件ヲ直ニ引渡シタル時ハ手渡ノ贈遺ナリトス(拿破崙法典第八百九十四條參看)

第七百二十二條 正當ノ相續人ヲ有スル男ハ其財産ノ三分一ノ贈遺ニ依テ處分スルヲ得可シ(第五百五十三條參看)又結婚シタル婦ハ第九十條ニ記載シタル物件ヲ處分スルヲ得可シ而シテ結婚セス亦父權ニ屬從セサル丁年ノ女ハ第九十條ニ記載シタル物件ノ外尙ホ其

貯金ヲ處分スルヲ得可シ(第三百七條參看)

第七百二十三條 女ハ第九十條及ヒ第三百七條ニ掲記シタル方法ニ循ヒ行フ所ノ贈遺ノ爲メ輔佐人ヲ要セサル者トス

第七百二十四條 一ノ男カ其正當ノ相續人ノ一人ニ一個ノ物件ヲ讓渡スル所ノ要償ノ契約ハ若シ其拂フ所ノ價格カ讓渡サレタル物件ノ價直ノ三分ノ二ニ昇ラサル時ハ此相續人ノ將來ノ部分ニ充ツ可キ贈遺ト看做ス可シ而シテ關係各人ハ物件引渡ノ後評價ヲ爲サシムルヲ得可シ又遺留財産分派ノ時ニ於テ自己ノ權利ヲ擴張セサル可カラヌ

第七百二十五條 若シ贈遺者家資分散ヲ爲ス時ハ未ダ履行セラレサル贈遺ハ廢棄セラル可シ

第七百二十六條 贈遺者カ第七百二十二條ニ於テ處分スルヲ得可

キ額ヲ超過シテ贈與スル所ノ贈遺ノ契約ハ其剩餘ニ關シテハ無効トス然レモ一ノ男カ其爲サ、ル可カラサルヨリモ過分ニ贈與スル既遂ノ贈遺ハ廢棄セラル、コトヲ得ス但シ若シ受贈者カ贈遺者ノ正當ノ相續人ナル時ハ贈遺ハ贈遺者ノ其處分シ得可キ財產ノ部分ヲ超過シテ贈與シタル都テノ者ノ爲メ遺留財產分派ノ時受贈者ノ部分ニ歸セラル、コトヲ得可シ(第五百三十三條)○拿破崙法典第九百二十二條參看)

第七百二十七條 人ハ贈遺者ノ遺留財產ト贈遺ノ關係トニ從テ正當ノ相續人ヲ遺留スル男カ既ニ此等相續人中ノ一人又ハ數人ヲ有セシ時ニ於テ其爲シタル贈遺ニ於テ其處分シ得可キ部分ヲ超過シタルヤ否ヲ評價ス可シ但シ贈遺者ハ此場合ニ於テ其自由財產ノ三分一ニ非サレハ之ヲ處分スルヲ得ス(第五百五十三條參看)若シ贈遺者

之ヨリ過額ヲ處分シタル時ハ先ツ遺囑ノ贈遺ニ付テ此等ノ處分ヲ減シ次ニ最親ノ者ヨリ開始シテ處分シ得可キ部分ニ贈遺ヲ減シ盡シタルニ至ル迄生存中ノ贈遺ニ付テ此等ノ處分ヲ減スルコトヲ要ス(拿破崙法典第九百二十三條參看)

第七百二十八條 若シ贈遺ヲ手渡ニ爲サ、リシ時ハ贈遺ハ受贈者カ贈遺ノ約束及ヒ受贈者ノ承諾ヲ證スル證書ヲ記セシ時ハ單受贈者ノミニ訴權ヲ開始ス若シ亦贈遺カ贈遺者ノ死去ノ後ニ來ル時ハ遺囑贈遺ノ證書ト同一ノ法式ヲ以テ證書ヲ作ラサル可カラス

(第五百五十七條乃至第五百六十七條參看)而シテ契約上ノ設定ハ出格ノ者トス(第九百二條參看)

第七百二十九條 女ノ爲シタル贈遺ハ之ヲ手渡ニ爲サ、リシ時ハ證人二名ノ面前ニ於テ公證人ノ記シタル證書ヲ必要トス

第七百三十條 遺囑ノ贈遺ハ遺囑ノ片務ノ處分ニシテ遺囑ノ贈遺ト
同一ノ原則ニ依テ管理セラル者トス(第五卷第二款第二節參看)

第二節 附託

第七百三十一條 附託ハ都テノ損害ニ付キ物件ヲ擔保スルノ責任ヲ
以テ他人ノ物件ヲ承諾スルコトニ成立ツ者トス(拿破崙法典第千九百
十五條參看)

第七百三十二條 若シ附託ヲ爲スニ付キ謝禮ヲ拂フ可キ時ハ附託サ
受ケタル者ハ物件ノ管守ニ都テ善家父ノ注意ヲ加ヘサル可カラス
而シテ其懈怠ニ依テ惹起シタル損害ノ責ニ任セサル可カラス(第九
百六十三條參看)

第七百三十三條 若シ附託カ無償ナル時ハ附託ヲ受ケタル者ハ唯自
己ノ物件ノ管守ニ加フルト同一ノ注意ヲ加ヘサル可カラス而シテ

彼レカ此等ノ物件ヲ善良ニ管守セサリシ時ハ該物件ノ蒙リタル損
害ニ付キ其責ニ任テ可シ然レモ他人ノ物件ヲ保護スルカ爲メニ自
己ノ物件ヲ供用スルコト及ハス(拿破崙法典第千九百二十七條參看)

第七百三十四條 若シ附託ヲ受ケタル者カ附託者ノ允許無クシテ附
託セラレタル物件ヲ使用シ之ヲ他人ニ委任シ若クハ之ヲ返還シ以
テ二三ノ懈怠ヲ爲ス時ハ都テ偶然ノ事件ニ付キ自カラ其責ニ任ス
可シ但シ彼レカ該事件ハ都テノ場合ニ於テ來着ス可キコトヲ證スル
時ハ格別ナリトス(拿破崙法典第千九百三十條參看)

第七百三十五條 附託ヲ受ケタル者ハ第一ノ請求ニ於テ其物件ヲ自
己ノ受取リシ時ノ景狀ニ於テ都テ其増加若クハ偶然ノ事ヨリ生シ
タル變化ト共ニ返還セサル可カラス(拿破崙法典第千九百三十三條
及ヒ第千九百四十四條參看)而シテ彼レハ裁判官ノ命令アル場合ニ

非サレハ附託者ニ該物件ヲ返還スルヲ拒ムコトヲ得可シ

第七百三十六條 若シ附託ヲ受ケタル者カ定リタル時間物件ヲ管守ス可キノ約束ヲ爲シタル時或ハ若シ此時間カ物件ノ性質ニ基ク時ハ彼レハ其時間ニ先テ附託者カ之ヲ取戻スコトヲ要求スルヲ得ス但シ彼レカ偶然ノ事ノ爲メ最早物件ヲ安全ニ或ハ若シ附託カ無償ナル時ハ費用ヲ爲スコト無ク之ヲ保存シ能ハサルコトヲ證スル時ハ格別ナリトス

第七百三十七條 營業ノ爲メ他人ノ物件ヲ自家ニ持歸ル職工(第九節參看)旅舎ノ主人陸路運送人及ヒ水路運送人ハ職工旅人若クハ運送ノ所爲ニ依テ偶然生シタル物件ノ盜取滅盡及ヒ損害ニ付キ自カラ其責ニ任シ及ヒ其使用スル者ヲシテ其責ニ任セシム可シ但シ彼等カ自己ノ過失ヨリ偶然ノ事件ノ起ラサリシコトヲ證シ若クハ都テ善

家父ノ注意ヲ以テ之ヲ豫防シ能ハサリシコトヲ證スル時ハ格別ナリ

トス(拿破崙法典第七百八十二條及ヒ第九百五十二條參看)

第七百三十八條 附託ヲ爲ス者ハ左ノ要件ヲ行ハサルヲ得ス

第一 附託ヲ受ケタル者ニ自己ノ過失ニ依テ惹起シタル損害ヲ賠償シ及ヒ彼レニ必要ノ費用ヲ拂戻ス事(第三百四十六條○拿破崙法典第九百四十七條參看)

第二 若シ附託ノ爲メニ定リタル期限ノ在ラサル時ハ附託ヲ受ケタル者ノ第一ノ請求ニ於テ物件ヲ取戻ス事及ヒ若シ一定ノ期限アルカ若クハ附託ノ期限カ物件ノ性質ニ基ク時ハ此期限ノ終リタル後若クハ附託ヲ受ケタル者ノ永ク物件ヲ管守スルコトヲ阻害スル偶然ノ事件ノ後該物件ヲ取戻ス事(第七百三十六條參看)

第三 附託ヲ受ケタル者ニ約束シ若クハ彼レノ當然要求シ得可キ

謝金ヲ拂フ事

第七百三十九條 若シ附託ヲ爲シタル者カ物件ヲ取戻スルヲ遲延スル時ハ附託ヲ受ケタル者ハ然ル時ヨリ重大ナル懈怠ヲ爲シタルニ非サレハ最早其責ニ任セス且遲延ニ依テ己レノ蒙リタル損害ノ爲メ賠償ヲ請求スルコトヲ得可シ

第三節 耗盡セサル物件ノ貸借

第七百四十條 拿破崙法典第千八百七十五條及ヒ第千八百七十六條

コ同シ

第七百四十一條 貸主ハ豫メ約束シタル期限若シハ豫メ約束シタル物件ノ使用ヲ爲スニ必要ナル期限ノ間ハ借主ニ物件ヲ委付セサル可カラズ然レモ若シ意外ノ事ニ依テ急ニ其物件ヲ使用スルヲ要スル時ハ其期限前ニ之ヲ取戻スルヲ得可シ(拿破崙法典第千八百八十

八條及ヒ第千八百八十九條參看)

第七百四十二條 定リタル使用若シハ期限ノ爲メニ物件ヲ借受ケタル借主ハ之ヲ使用シタルヤ否或ハ其期限ノ經過シタルヤ否之ヲ受取リシ時ノ景狀又ハ偶然ノ事件ニ依テ置レタル景狀ニ於テ貸主ニ返還セサル可カラス而シテ借主ハ物件ノ引渡ヲ拒ミ又ハ遲延スルノ權利ヲ有セス然レモ貸主ノ爲メ損害ノ生セサル以上ハ定リタル期限ノ終ラサル前ト雖モ之ヲ返還スルコトヲ得可シ(拿破崙法典第千八百八十四條參看)

第七百四十三條 借主ハ其借受ケタル物件ニ都テ善家父ノ注意ヲ加ヘサルヲ得ス而シテ其過失ニ依テ惹起シタル損害ノ責ニ任ス可シ

(拿破崙法典第千八百八十條參看)

第七百四十四條 物件ノ通常ノ使用ニ必要ナル費用ハ借主ノ責任ヲ

り然レハ貸主ノ允許ヲ求ムルノ時間ヲ有セザリシ非常必要ノ費用
ハ貸主ニ之ヲ要求スルコトヲ得可シ(拿破崙法典第千八百九十條參看)
第七百四十五條 若シ人カ貸借ノ期限又ハ物件ニ付テ爲ス可キ使用
ヲ定メザリシ時ハ其貸借ハ貸主ノ隨意ニ止息セシムルヲ得可キ純
粹ノ恩惠ト看做ス可シ

第四節 耗盡ス可キ物件ノ貸借

第七百四十六條 拿破崙法典第千八百九十二條ニ同シ

第七百四十七條 借主ハ其借受ケタル物件ノ所有者ト成リ及ヒ貸借
ノ全額ニ付キ貸主ノ義務者ト成ル可シ(拿破崙法典第千八百九十三
條參看)

第七百四十八條 貸主ハ物件ノ隱密ナル不長ニ付キ借主ニ對シテ其
責ニ任シ又彼レノ知得シテ借主ニ隱蔽シタル不長ヨリ生スル所ノ

損害ニ付キ其責ニ任ス可シ

第七百四十九條 借主ハ其借受ケタル物件ヲ豫メ約束シタル期限ニ
返還セサル可カラズ若シ然ラザレハ貸主ニ損害ノ賠償ヲ爲サハル
可カラズ(拿破崙法典第千九百二條參看)而シテ借主ハ恰モ貸主カ其
貸渡ス物件ノ隱密ナル不長ニ付キ責任ヲ負フカ如ク其返還スル物
件ノ隱密ナル不長ニ付キ其責ニ任ス可シ(第七百四十八條參看)
第七百五十條 若シ期限ノ定リシ時ハ貸主ハ其期限前ニ借主ヨリ物
件ヲ返還セシムルヲ得ス然ラザレハ金銀ノ貸借ニ格段ナル處分ヲ
除クノ外貸主ハ何レノ時ニ於テモ物件ヲ要求スルヲ得而シテ借主
ハ之ヲ返還スルコトヲ得可シ(第七百六十四條及ヒ第九百四十六條○
拿破崙法典第千八百九十條參看)

第七百五十一條 若シ貸借カ金銀ニ於テ成立セスシテ使用ニ依テ耗

盡ス可キ物件ニ於テ成立スル時ハ借主ハ貸借ノ期限間時價ノ變化ニ關スルヲ無シ其受取リシ所ノ者ト同質同量ノ物件ヲ返還セサル可カラヌ

第七百五十二條 若シ借主カ貸借ノ爲メ認メタル證書ニ正金ヲ受取リシヲ記シ及ヒ次ニ貸主カ正金ノ代ニ他ノ物品ヲ渡シタル事ヲ證シ得ル時ハ該物品ヲ返還スルニ依テ其義務ヲ免ル、ヲ得可シ或ハ若シ使用ニ依テ耗盡ス可キ物件ニ關スル時ハ同質同量ノ物件ヲ返還スルニ依テ其義務ヲ免ル、ヲ得可シ

第七百五十三條 若シ人カ交付セザリシ金銀ノ爲メニ貸借ノ請取書ヲ與ヘタル時ハ此請取書ヲ要求スルヲ得可シ或ハ請取書ヲサレ拒メテ法ヲ用ヒテ借主ノ要求ヲ拒ムコトヲ得可シ

第七百五十四條 請取書ヲ與ヘテ前二條ニ依リ許與セラレタル權利

ノ使用ヲ爲サント欲スル者ハ請取書ニ姓名ヲ手署シタル日ヨリ一年ノ猶豫内ニ之ヲ爲サ、ル可カラヌ然レモ負債ノ爲メ請取書ノ握有者ニ保證ヲ與ヘサル中ニ出訴ヲ中止セシムルヲ得ス但シ彼レカ誓ヲ宣ヘテ其引例スル事實ヲ證スル場合ニ於テハ格別ナリトス

第七百五十五條 人ハ決シテ裁判所ニ於テ認メラレタル義務若クハ公ケノ簿冊ニ記入セラレタル義務ヲ否ム爲メニ第七百五十二條及ヒ第七百五十三條ノ規則ヲ益用スルヲ得ヌ

第七百五十六條 借主カ同一ノ貨幣ヲ返還セサル可カラサル契約ハ此等ノ貨幣カ猶ホ拂期限ニ至テ通用シ及ヒ法律上ノ價直ヲ有スル時ニ非サレハ有効シラサル者トス若シ此等ノ貨幣カ最早通用セザル時或ハ若シ其實價ノ變換シタル時ハ借主ハ其貸借ノ時ノ價直ニ從テ貨幣ノ價直ヲ返還セサル可カラヌ若シ約束上ノ價直カ變換シ

タル時ハ法律ニ依テ與ヘラレタル多少高キ價直借主ハ其受取リシ
丈貨幣ヲ返還セサル可カラス(拿破崙法典第千八百九十五條參看)

第七百五十七條 負債ハ法律或ハ約束ニ依テ定メラレタル場合ニ非
サレハ利息ヲ生セサル者トス

第七百五十八條 權利者カ質ト量トニ論勿ク其與ヘタルヨリ多ク受
取ル所ノ都テノ者ヲ利息ト了解ス可シ

第七百五十九條 利息ノ約束ハ書類ヲ以テ之ヲ結ハサル可カラス而
シテ口演ノ約束ハ有効ヲラサル者トス

第七百六十條 利息ノ一般ノ定價ハ百ニ付キ五トス若シ法律ニ於テ
負債ニ利息ヲ負ハシムルコトヲ明言スル時ハ人ハ此定價ニ於テ利息
ヲ要求スルヲ得可シ若シ義務者カ何モ定メスシテ利息ヲ拂フコトヲ
約束シタル時ハ其定價ハ百ニ付キ四トス(千八百七年七月三日ノ佛

蘭西法律ト相異ナリ

第七百六十一條 製造人及ヒ商人ハ出格ヲ以テ保證ヲ與ヘラレサル
其債主權ノ爲メニ拂ヒ期限ニ至リタル日ヨリ百ニ付キ六ノ利息ヲ
己レニ拂ハシムルヲ得可シ

第七百六十二條 二三ノ託言ヲ以テ前二條ニ於テ定メタル利息ノ外
ニ己レニ拂ハシムル都テノ者ハ不正當ノ利息ト看做ス可シ且不正
當ノ利息ノ約束ハ有効ヲラサル者ニシテ權利者ハ法律上ノ利息ヲ
超過スル都テノ者ハ之ヲ義務者ニ返還セサル可カラス

第七百六十三條 不正當ノ利息ノ契約ヲ爲シ若シハ法律上ノ利息ニ
リモ過分ニ受取リタル權利者ハ輕罪裁判所ニ召喚セラレ可シ

第七百六十四條 義務者ハ使更ヲシテ三箇月前ニ通知セシメサリシ
時ハ拂ヒ期限ノ在ラサル利息附キノ負債ノ濟辨ヲ強テ權利者ニ受

取ラシムルヲ得ス

第五款 仲裁人ノ裁判ニ任カスル契約

第七百六十五條乃至第七百八十二條 千八百四十七年七月三十一日

ニ於テ訴訟法ヲ布告シタル勅令ニ依リ仲裁人ノ卷ハ民法第五款ヲ

置換セリ

第六款 名代ノ證書及ヒ事務ノ管理

第七百八十三條 一人カ他人ノ名代ノ權利ヲ承諾シテ其代ニ行爲ス

ル所ノ契約ヲ稱シテ名代ノ證書ト云フ(拿破崙法典第九百八十四

條參看)

第七百八十四條 名代ノ契約ハ本人カ名代人ニ謝禮ヲ約束シ或ハ名

代人カ金銀ノ爲メニ他人ノ事務ヲ擔任スルノ職業ヲ爲ス時ニ非サ

レハ要償ヲラサル者トス(拿破崙法典第九百八十六條參看)

第七百八十五條 名代人カ名代ノ證書ヲ記スルヲ承諾シタル時ハ

該證書中ニ包含シタル名代ヲ承諾シタル者ト看做ス可シ

第七百八十六條 一般ノ名代證書ハ單名代人ニ本人ノ事務ノ通常ノ

管理ヲ允ス者トス若シ事務ヲ裁判所ニ提出スル時特別ノ名代證書

ヲ必要トスル所ノ事務ハ訴訟法第六十三條ニ記載セリ假令詞訟ノ

在ラサル場合ト雖モ特別ノ名代證書ハ元金ヲ貸シ或ハ之ヲ受取ル

爲メ財産相續ヲ肯シ或ハ之ヲ肯セサル爲メ權利ヲ拋棄スル爲メ或

ハ無償ニ之ヲ讓渡スカ爲メ名代人ニ必要ノ者トス

第七百八十七條 名代人ハ其權限内ニ於テ名代ノ施行ニ至ル可キ都

テノ所爲ヲ行フヲ得可シ而シテ名代人ハ他人ニ其名代ノ權利ヲ與

フルヲ得ス然レモ若シ本人カ之ヲ明許セサリシ時ハ其責任ヲ以テ

名代ノ權利ヲ與フルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ名代人ハ其人

撰ノ責ニ任スル者トス(拿破崙法典第千九百九十四條參看)

第七百八十八條 若シ名代人カ其權限内ニ於テ行爲スル時ハ彼レハ

第三人ニ對シ及ヒ相互ニ本人ヲ餘儀ナクスルヲ得可シ(拿破崙法典

第千九百九十八條參看)而シテ本人ヨリ名代人ニ付與シタル秘密ノ

名代證書ハ彼等ノ間ニ一個ノ契約ヲ組成シ及ヒ名代人カ其名代ノ

證書ニ依テ之ヲ知得セサル人ト取扱フ所ノ事務ニ付キ何ノ効力ヲ

モ有セサル者トス

第七百八十九條 名代人ハ都テ善家父ノ注意ヲ以テ其名代ヲ行ハサ

ル可カラヌ若シ彼レカ他人ノ事務ヲ行フ者タル時ハ其他通常ノ方

法ニ於テ事務ヲ取扱フ爲メ必要ナル知識ヲ有セサル可カラヌ而シ

テ名代人ハ其過失ニ依テ惹起セラレタル損害ノ責ニ任ス可シ(拿破

崙法典第千九百九十一條參看)

第七百九十條 名代人ハ亦物件ヨリ生スル都テノ利益ヲ本人ニ渡シ

若シ本人ノ請求スル時ハ彼レニ事務ノ景狀ヲ通知シ該事務ニ關ス

ル書類ヲ彼レニ呈出シ及ヒ終リニ自己ノ受取ル都テノ者ヲ本人ノ

手ニ渡サ、ルヲ得ヌ

第七百九十一條 本人ハ名代ヲ行フカ爲メ名代人ニ必要ノ前拂ヲ爲

シ名代人ニ依リ彼レノ權限内ニ於テ取結ハシタル約束ヲ履行シ名

代人カ其職ヲ盡サ、リシ時ト雖モ名代證書ノ爲メ名代人ニ依テ爲

サレタル必要及ヒ有益ノ費用ヲ彼レニ拂戻シ名代人自己ノ過失ニ

依リ若シハ名代證書ノ譯ニ依テ惹起シタル費用ヲ彼レニ賠償シ名

代人ノ前拂ヲ爲シタル日以來彼レノ拂フタル前金ノ百ニ付キ四ノ

利息ヲ彼レニ辨濟シ及ヒ終リニ名代人ノ擔任セル事務ノ爲メ拂フ

可シ約束シタル者ヲ彼レニ拂ヒ及ヒ名代人カ其位地ト其職業トニ

從テ自己ノ爲メ請求スルヲ得ル所ノ者ヲ彼レニ拂ハサルヲ得ス(拿破崙法典第九百九十八條乃至第二千條參看)
本人數名アル時ハ名代人ニ對シ連帶シテ義務ヲ負フ者トス(拿破崙法典第二千二條參看)

第七百九十二條 名代ノ任ハ左ノ諸件ニ依テ終ル可シ

第一 本人又ハ名代人ノ死去治産ノ禁若シハ公權ノ剝奪

第二 名代ノ任ヲ廢棄スル事

第三 名代人ノ其權利ヲ拋棄スル事

第四 名代ヲ與ヘシ事務ノ履行(拿破崙法典第二千三條參看)

第七百九十三條 若シ名代ノ任カ前條ノ初ノ三個ノ場合ノ一ニ於テ終ル時ハ名代人若シハ其代理人ハ本人又ハ其代權人ノ其事務ニ干與シ得ルニ至ル迄ハ損害無ク管理ヲ中止シ能ハサル所ノ事務ヲ擔

任セサル可カラズ而シテ既ニ始リタル事務ノ終ラサル前ニ理由無ク名代ノ任ヲ免ル、名代人ハ之ニ由テ本人ノ爲メ生スル所ノ損害ニ付キ其責ニ任ス可キ者トス

第七百九十四條 拿破崙法典第二千五條ニ同シ○然レモ本人ハ名代ノ任ノ終リシトキ名代人ニ知ラシメタル後名代人ノ從事シタル事務ヨリ自己ノ蒙リタル損害ノ譚ニ於テ名代人ニ對シ訴訟ヲ爲ス可シ得可シ

第七百九十五條 他人ノ爲メニ事務ヲ行フ者及ヒ商人及ヒ製造人ノ手代ハ其擔任シタル都テノ事務ニ於テハ彼等ノ名代人ト看做ス可シ若シ彼等カ賣買ヲ任セラレタル時ハ彼等ハ其賣買スル者ノ拂テ受取ルヲ得可シ而シテ其請取書ヲ與フルヲ得可シ然レモ商品ヲ買入レ及ヒ金銀ヲ借受クルヲ得ス

第七百九十六條 不在ナルニ依リ若クハ都テ其他ノ理由ニ依テ自身

ニ避クルコトヲ得サル損害ヲ避ケシムルカ爲メ名代ノ證書無ク他人ノ事務ヲ管理スル所ノ者ハ名代人ト同一ノ義務ヲ負ヒ及ヒ彼レト同一ノ權利ヲ享有ス可シ但シ該管理者ハ裁判所ニ依テ必要若クハ有益ト認メラレタル費用ハ假令此等ノ費用カ無益ナリシ時ト雖モ其過失無キニ於テハ該費用ヲ所有者ニ要求スルヲ得可シト云ヘル意味ニ止ルノミ(拿破崙法典第千三百七十二條參看)

第七款 賣買

第七百九十七條 賣買トハ人カ確定シタル價格ニ依テ物件ヲ或ル人ノ自由ナル處分ニ置ク可ク取結ヲ所ノ契約ヲ云フ(拿破崙法典第千五百八十二條參看)

第七百九十八條 價格ハ契約者雙方ノ間ニ約束シタル方法ニ依テ定

メラレサル可カラズ或ハ定メラルヲ得可シ而シテ貨幣ニ於テ成立トサル可カラズ

第七百九十九條 若シ一ノ物件カ他ノ物件ニ對シテ變換セラレタル時或ハ其一部ハ貨幣ニ對シテ變換セラレ其一部ハ他ノ物件ニ對シテ變換セラレタル時ハ其契約ハ交換ノ契約トス(拿破崙法典第千七百二條參看)而シテ眷族物件取戻ノ權利ニ關スル規則ノ出格ナル賣買ノ規則ヲ之ニ適用セサル可カラズ(第八百十九條參看)

第八百條 根ニ依テ附着スル果實ノ賣買ハ販賣者ノ書入質權利者又ハ販賣者カ家資分散ヲ爲シタル時ハ該分散人ノ權利者ヲ結束セサル者トス

第八百一條 公難ノ譯ニ依テ爲ス所ノ賣買(第八百二條參看)ハ公賣ナリトス

第八百二條 糶賣ハ慣習ニ從ヒ「バイイー」ノ允許ヲ以テ少ナクモ八日
前ニ報告セラレタル時若クハ使吏ノ面前又ハ「バイイー」ニ依テ委任
セラレタル人ノ面前ニ於テ糶賣ヲ爲シ及ヒ公證人カ其調書ヲ記ス
ル時ハ公然ノ者トス而シテ裁判上ノ糶賣(家資分散及ヒ倒産ノ爲メ)
ハ公用新聞上ニ公告セラレサル可カラヌ

第八百三條 糶賣ニ係ル不動産ノ賣買ニ着手スルノ前公證人ハ糶賣
ノ箇條書ヲ讀上ケサル可カラヌ但シ該書ハ賣買ニ付シタル物件
ヲ充分ニ指名シ及ヒ物件上ニ加フル責任並ニ物件ヲ賣却ス可キ箇
條ヲ指示セサル可カラヌ而シテ糶賣ノ箇條書ハ糶賣ノ時間机上ニ
於テ諸人ノ處分ニ委セサル可カラヌ

第八百四條 公證人ハ糶賣ノ調書ヲ記シ之ニ人ノ履行シタル法式購
買者ノ附ケ直段之ヲ爲シタル者ノ姓名及ヒ確定ノ糶賣ヲ記載ス可

シ

第八百五條 販賣者ハ糶賣ノ箇條書中ニ別段記載セサルニ於テハ糶
賣ノ公告ヲ爲シタル後(第三及ヒ最終ノ公告)購買者ニ物件ヲ糶賣セ
サル可カラヌ

第八百六條 若シ購買者カ物件糶賣ノ爲メ販賣者ノ爲シタル箇條ヲ
履行シ能ハサル時ハ販賣者ハ物件ヲ取戻スヲ得可ク而シテ購買者
カ已レニ贖ラシメタル損害ニ付キ彼レヨリ全ク其賠償ヲ受クルヲ
得可シ

第八百七條 動産ノ糶賣ニ於テハ公證人ハ唯其調書中ニ人ノ爲メ
ル附ケ直段ノミヲ記入ス可シ

第八百八條 販賣者ハ定リタル期限ニ購買者ニ物件ヲ引渡シ及ヒ契
約書中ニ期限ヲ定メサリシ時ハ購買者ノ第一ノ請求ニ於テ之ヲ引

渡シ及ヒ彼レニ其義務ノ執行ヲ擔保セサルヲ得ス(第七百六條參看)
 若シ物件カ其引渡ノ前ニ意外ノ事ニ依テ破壊シタル時若クハ彼レ
 カ著シキ損害ヲ受ケタル時ハ第一ノ場合ニ於テハ契約ヲ解除シ(第
 千二十三條參看)而シテ第二ノ場合ニ於テハ購買者ハ之ヲ破斷スル
 一ヲ得可シ(拿破崙法典第一千六百三條及ヒ第一千六百十條參看)
 第八百九條 購買者ハ定リタル期限或ハ若シ期限ヲ定メザリシ時ハ
 契約ノ完全シタル時ニ於テ販賣者ヨリ渡サレタル物件ヲ收取セザ
 ルヲ得ス而シテ購買者ハ亦反對ノ契約アルコト非サレハ販賣者ニ現
 價ヲ拂ハサル可カラヌ(第七百四條第九百九十九條○拿破崙法典第
 千六百五十條參看)
 第八百十條 自己ノ義務ヲ履行セサル一方ハ其履行セサルヨリ生ス
 ル損害ノ責ニ任ス可シ

第八百十一條 不動産賣買ノ契約ハ之ヲ書面ニ記セサル可カラヌ而
 シテ若シ不動産ヲ貸附ク或ハ書入質ト爲シ或ハ之ヲ十分一ノ税ニ
 付シタル時ハ不動産所在ノ地ノ書記若クハ公證人ニ依テ證書ヲ記
 セシメサル可カラヌ
 第八百十二條 直ニ代價ヲ拂ハサル不動産ノ販賣者ハ其拂方擔保ノ
 爲メ質ノ權利ヲ貯有スルヲ得可シ(第四百八十三條參看)
 第八百十三條 此場合ニ於テハ不動産所在ノ地ノ書記若クハ公證人
 ヲシテ賣買ノ證書ヲ記セシメサル可カラヌ
 第八百十四條 購買者ヲ擔保スルノ義務ヲ負フタル販賣者ハ第三人
 ノ物件取戻ノ訴訟ニ對シテ購買者ヲ保護セサル可カラヌ(第七百九
 條及ヒ第七百十條參看)
 第八百十五條 若シ販賣者カ賣却シタル物件ヲ買戻スノ權利ヲ貯有

スル時ハ買戻ノ契約アル者トス(拿破崙法典第千六百五十九條參看)
若レ一モ代價ヲ定メザリシ時ハ購買者ハ物件ヲ其買入レタル代價
ニ於テ販賣者ニ返還スルノ義務アリ

第八百十六條 買戻ノ契約ハ不動産ノ爲メ十年ヨリ多カラサル期限
ノ爲メ及ヒ販賣者自己ノ爲メニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス若シ販賣
者カ家資分散ヲ爲シタル時ハ相續人及ヒ其權利者ハ唯リ此權利ニ
於テ彼レニ相續スルヲ得可シ若シ雙方ノ者カ買戻ノ爲メニ期限ヲ
定メザリシ時ハ此權利ハ物件引渡ノ後唯一年間成立スル者ニシテ
賣買ノ契約書ニ明記シタル時ニ非サレハ之ヲ第三三人ニ對抗スルヲ
得可カラサル者トス(拿破崙法典第千六百六十條ト相異ナリ)

第八百十七條 物件ノ買戻ニ貯存セラレタル期限間購買者ハ不動産
ニ一ノ物權ヲモ裝フシム可カラス

第八百十八條 購買者ハ善意ノ占有者ノ如ク買戻ノ權利ヲ使用スル
販賣者ヲシテ必要有益ノ費用ヲ拂戻サシムルヲ得可シ而シテ購買
者ハ販賣者ニ對シテ不動産ノ毀壞若シハ自己ノ過失アル時之ヲ返
還スル能ハサルコト付キ其責ニ任ス可シ又購買者カ物件ヨリ得ル
果實ハ販賣者カ賣價ヨリ得ル所ノ入額ニ依テ之ヲ差引カサル可カ
ラス若シ賣價ヲ拂ハザリシ時ハ其利息ハ反對ノ契約アルニ非サレ
ハ百ニ付キ四タラサル可カラス(拿破崙法典第千六百七十三條參看)
第八百十九條 眷族物件取戻ノ權利トハ不動産販賣者ノ血屬親カ有
スル所ノ權利ニシテ若シ該血屬親カ法律ニ於テ許可セラレタル時
(第八百二十三條參看)ハ購買者ニ代テ物件ヲ獲得スルノ權利ヲ云フ
此權利ハベルヌノ民法カ襲用シタル我カ往古ノ慣習法ノ中ニ成
立スル者トス

第八百二十條 此權利ハ公賣ニ於テ賣却シタル物件ノ爲メ之ヲ施行スルヲ得ス(第八百二條參看)

第八百二十一條 若シ人カ使用ニ依テ耗盡ス可キ物件ニ對シテ不動産ヲ交換スル時若シハ拂方ニ不動産ヲ讓渡ス時ハ亦此權利ヲ施行スルヲ得ス

第八百二十二條 若シ不動産及ヒ不動産ヲ一緒ニ賣却シテ唯單一ノ賣價ノミナル時ハ眷族物件取戻ノ權利ハ全部ノ爲メニ非サレハ之ヲ施行スルヲ得ス

第八百二十三條 眷族物件取戻ノ權利ニ於テ許可セラル可キ者ハ左ノ如シ

第一 販賣者ノ尊屬及ヒ卑屬ノ血屬親但シ賣却シタル物件引渡ノ時ニ於テ彼ノ權下ニ屬シタル幼年者ハ此限ニ在ラス(第四百三

十四條參看)

第二 彼等ノ同父兄弟及ヒ姉妹並ニ同母兄弟及ヒ姉妹○抑此權利ハ對人權ニシテ之ヲ享有スルノ許ヲ得タル者ヨリ之ヲ讓渡サル、ヲ得可シ而シテ其他ノ者ノ爲メニ施行セラレ、ヲ得可カラヌ(第八百二十八條參看)

第八百二十四條 眷族物件取戻ノ權利ノ施行ニ付テハ卑屬親ハ都テ

ノ他ノ者ヨリ先權ヲ有スル者ニシテ次ニ尊屬親及ヒ傍系親ナリトス但シ尊屬親及ヒ卑屬親ニ於テハ最近ノ血屬親ハ最遠ノ級ノ血屬親ヨリ先權ヲ有シ同級ニ於テハ男ハ女ヨリモ先權ヲ有ス傍系親ニ於テハ同父母兄弟ハ同父母姉妹及ヒ異婚ノ兄弟並ニ異婚ノ姉妹ヨリモ先權ヲ有スル者ニシテ異婚ノ兄弟ハ同父母姉妹及ヒ異婚ノ姉妹ヨリモ先權ヲ有ス而シテ同父母姉妹ハ異婚ノ姉妹ヨリモ先權ヲ

有スル者トス

第八百二十五條 若シ購買者カ自身ニ賣却シタル物件ニ付キ眷族物件取戻ノ權利ヲ有スル時ハ購買者ヨリ先權ヲ有ス可カラサル販賣者ノ血屬親ハ購買者ニ對シテ彼等ノ權利ヲ使用スルヲ得ス

第八百二十六條 眷族ノ物件取戻ヲ施行スルカ爲メニ同等ノ權利ヲ有スル二人ノ中ヨテ最初ニ之ヲ販賣者ニ請求シ及ヒ充分ニ其權利ヲ施行スル所ノ者ハ他人ヲ除却ス可シ

第八百二十七條 眷族物件取戻ノ權利ヲ使用セント欲スル者ハ賣却シタル物品ノ引渡ヨリ三箇月ノ猶豫内ニ之ヲ購買者ニ報知セサル可カラヌ(第四百三十四條參看)或ハ若シ彼レカ不在ナル時ハ同シ時期ヨリ六箇月ノ猶豫内ニ之ヲ報知シ而シテ購買者ニ對シテ彼レノ諸義務ヲ履行セサル可カラヌ(第八百三十條參看)

第八百二十八條 若シ人カ眷族物件取戻ノ權利ヲ向ケテ使用セント欲スル所ノ購買者カ該權利ヲ使用スル者ノ再ヒ物件ヲ賣却セント欲スルヲ疑察スル時ハ是レカ爲メ彼レニ對シテ誓ヲ爲スヲ得可シ(第八百十三條參看)

第八百二十九條 眷族物件取戻ノ權利ヲ有スル者若シ人カ己レノ權利ヲ剝奪セント欲シ若シハ償ヲ要メテ之ヲ返還セント欲シタルヲ疑察スル時ハ亦契約者雙方ニ對シテ誓ヲ宣フルヲ得可シ

第八百三十條 眷族ノ物件取戻ヲ施行スル者ハ第八百二十七條ノ猶豫内ニ賣價ニ付テ己レノ拂ヒシ所ノ者ヲ購買者ニ返還シ賣却シタル物品ノ爲メニ己レノ契約シタル義務ヲ免レ時間ノ損失及ヒ賣買ニ依テ生シタル費用ヲ購買者ニ賠償シ且賣却シタル物件ノ爲メ爲シタル必要ノ費用ヲ彼レニ拂戻シ或ハ若シ費用ノ未タ確定セサル

時ハ此等ノ費用ヲ辨濟セシカ爲メ彼レニ保證ヲ與ヘサルヲ得ス

第八百三十一條 春族ノ物件取戻ヲ施行スル者カ此等ノ義務ヲ履行

シタルヤ否購買者ハ物件ヲ其受取リシ時ノ景狀ニ於テ彼レニ戻シ

或ハ其之ヲ使用シタルカ爲メ若シハ意外ノ事ノ爲メニ物件ノ受ケ

シ景狀ニ於テ之ヲ戻サ、ル可カラス而シテ購買者ハ物件ヨリ自己

ノ收取シタル果實ノ譯ニ於テ春族ノ物件取戻ヲ施行スル所ノ者ト

協議セサル可カラス

第八百三十二條 春族物件取戻ノ權利ハ左ノ箇條ニ依テ消滅ス可シ

第一 該權利ヲ施行シ得ル者ノ拋棄スルコ依リ

第二 之ヲ施行スルヲ得可キ者カ法律上ノ期限間其義務ヲ履行セ

サリシ時該期限ノ滅盡スルニ依リ

第八百三十三條 若シ春族ノ物件取戻ヲ施行ス可キ權利ヲ有スル人

カ之ヲ購買者ニ報知スト雖モ然レモ第八百二十七條ノ猶豫内ニ自

己ノ命セラレタル義務ヲ履行セサル時ハ購買者ハ強テ彼レニ義務

ヲ履行セシメ若クハ物件取戻ノ公告ニ依テ自己ノ蒙リタル損害ニ

付キ其賠償ヲ受シルヲ得可シ

第八款 賃貸

第八百三十四條 拿破崙法典第七百九條ニ同シ○然レモ増文アリ

即チ家屋房室若クハ家具ノ賃貸ヲ稱シテ「ハイユ、ア、ロ、アイエール」ト

云ハ耕作ニ供セラレタル不動産ノ賃貸ヲ稱シテ「ハイユ、ア、フ、エル」ト

ト云フ是ナリ

第八百三十五條 若シ賃貸ノ價格カ二百「フラン」ヲ超過スル時ハ契約

者ノ雙方ハ契約書ヲ作ラサル可カラス若シ雙方契約シタル價格ノ

證書ヲ取ル「ト」ヲ怠ルト雖モ然レモ賃貸シタル物件ノ既ニ享有ニ付

セラレタル時ハ價格ニ關シテ起ル所ノ爭訟ハ前ノ請取書カ價格ノ
證ト成ラサル時鑑定人ノ鑑定ヲ經タル後裁判所ニ於テ審判セラレ
サル可カラヌ

第八百三十六條 借家人ハ貸貸主ニ依テ允許セラレサリシ時若シハ
物件ノ性質ヨリシテ唯此目的ニ於テ物件ヲ貸貸セシメノ生セサル
時ハ自己ノ賃借シタル物件ヲ更ニ他人ニ貸與ヘ又ハ其賃借ノ契約
ヲ人ニ讓渡スコトヲ得ス(第八百五十一條參看)○拿破崙法典第一千七百
十七條ト相異ナリ

第八百三十七條 貸貸主ハ賃貸シタル物件ヲ借家人カ其目的ニ使用
シ得ル様善良ノ景狀ニ於テ彼レニ引渡サ、ル可カラヌ若シ該物件
ノ年月ヲ經ルニ依リ或ハ意外ノ場合ニ依テ毀損シタル時ハ貸貸主
ハ亦賃貸ノ時間自費ニテ此物件ヲ補理セサル可カラヌ(拿破崙法典

第一千七百十九條參看)

第八百三十八條 借家人ハ契約書ニ定メタル方法若シハ其性質ニ一
致シタル方法ニ從テ物件ヲ使用シ賃貸ノ時間善家父ノ注意ヲ以テ
之ヲ保存シ第三人ノ掠奪ヲ賃貸主ニ報知シ契約シタル價格ヲ定リ
タル期限ニ拂ヒ契約書ニ依テ命シタル限リ物件上ニ加フル所ノ對
物權ヲ負擔シ及ヒ賃貸ノ終リニ於テ賃貸シタル物件ヲ自己ノ過失
ニ非スシテ偶然生シタル事ヨリ起ル變化ヲ除クノ外其受取リシ時
ノ景狀ニ於テ返還セサルヲ得ス而シテ若シ耕作ス可キ景狀ニ於テ
返還セサル可カラサル不動産ニ關スル時ハ季候ニ從ヒ之ヲ耕作シ
テ返還セサル可カラヌ(拿破崙法典第一千七百二十七條及ヒ第一千七百
二十八條參看)

第八百三十九條 若シ物件ハ一年又ハ數年ノ期限ニ於テ賃貸シタル

時ハ其價格ハ常ニ貸貸年限ノ終リニ拂フ可シ若シ是ヨリ短ナル期
限ニ物件ヲ貸貸シタル時ハ反對ノ契約アルニ非サレハ貸貸ノ終リ
ニ拂フ爲サ、ル可カラス

第八百四十條 若シ借家人カ拂期限ノ日ニ拂ハサル時ハ家屋ノ賃借
主ハ拂方擔保ノ爲メ借家人及ヒ更ニ賃借シタル者ノ家具、器械及ヒ
旅具若シハ彼レニ委託セラレタル者ヲ差押ヘシムルノ權利ヲ有ス
可シ但シ營業ノ爲メ職人又ハ商人ニ渡シタル物品及ヒ彼等ノ商業
ノ爲メニ彼等ニ委託シタル者ハ此限ニ在ラス(拿破崙法典第二千百
二條第一項參看)

第八百四十一條 物件ノ差押ヲ爲ス使吏ハ前條ニ記載シタル物件ノ
中ニテ裁判所ノ評價ニ從ヒ家賃及ヒ費用ヲ拂フカ爲メニ必要ナル
所ノ者ヲ差押ヘサル可カラス而シテ使吏ハ貸貸主ニ物件ノ目錄ヲ

渡サ、ル可カラス但シ該目錄ヲ渡ス時ハ貸貸主ニ前條ニ記載シタ
ル物件ニ關スル彼レノ債主權ノ代ニ質ノ權利ヲ與フル者トス而シ
テ此權利ハ此等ノ物件カ貸貸シタル房室内ニ在リ或ハ雙方相爭フ物
件ノ附託ヲ受ケタル者ノ手ニ在ル限リハ繼續スル者ニシテ貸貸主
ハ都テ其他動産ニ關スル質ノ權利ノ如ク之ヲ擴張スルヲ得可シ

第八百四十二條 第八百四十條ニ依テ家屋ノ貸貸主ニ許與セラレタ
ル權利ハ亦不動産ノ貸貸主ニ家具、器械及ヒ旅具ニ關シ馬、獸類及ヒ
不動産上ニ在テ賃借主若シハ更ニ賃借シタル者ニ屬シ或ハ彼等ニ
委託セラレ或ハ未タ購買者ニ引渡サレザリシ果實ノ高ニ關スル其
債主權ノ代ニ許與セラレタリ而シテ其夏季ノ牧場若クハ其冬季ノ
牧場ヲ牧人ニ貸貸シタル者ハ家具、器械及ヒ旅具ニ關シ牧人ニ歸シ
或ハ彼レニ委託セラレ或ハ未タ購買者ニ引渡サレズ及ヒ購買者カ

享有シ得ル土地ノ上ニ在ル所ノ馬獸類及ヒ乳汁ニ關スル其債主權
ノ擔保ノ爲メニ同一ノ權利ヲ有ス可シ(拿破崙法典第二千二百二條第
一項參看)

第八百四十三條 若シ借家人カ意外ノ事ニ依テ其賃借ニ屬シタル利
益ノ一部ヲ奪ハレタル時ハ彼レハ之ニ準スル價格ノ差引ヲ請求ス
ルヲ得可シ

第八百四十四條 土地ノ賃貸主ハ意外ノ事ニ依テ果實ノ一部ヲ毀壞
シタル時及ヒ契約書ニ於テ約束シタル時ニ非サレハ賃借主ニ其差
引ヲ許與ス可カラス(拿破崙法典第七百六十九條參看)

第八百四十五條 賃貸ノ契約ハ物件カ最早賃貸ノ目的タル使用ニ用
立テサル時若クハ彼レカ滅盡スル時ニ終了ス可シ若シ物件カ最早
唯一部ヲテハ用立テ能ハサル時或ハ若シ其一部ノ滅盡スル時ハ

賃借主ハ或ハ價格ノ差引ヲ請求シ或ハ契約書ノ廢棄ヲ請求スルノ
權利ヲ有ス可シ而シテ此二個ノ場合ニ於テ自己ノ過失ニ依テ物件
ヲ毀壞シ若クハ滅盡セシメタル者ハ他人ニ損害ノ賠償ヲ拂ハサル
可カラス但シ意外ノ場合ノアリシ時ハ是ト同ラス(拿破崙法典第千
七百四十一條參看)

第八百四十六條 拿破崙法典第七百三十七條及ヒ第七百三十八
條ニ同シ

第八百四十七條 「ハイユ、ア、フェルム」ノ更ニ賃貸ヲ生スルコトハ一年ノ
爲メニ爲サレタル者ト看做ス可シ而シテ一年或ハ數年ノ爲メニ爲
サレタル「ハイユ、ア、ロアイエール」ノ更ニ賃貸ヲ生スルコト付テモ亦
之ニ同シ若シ「ハイユ、ア、ロアイエール」ヲ是ヨリ短キ期限ノ爲メニ爲
シタル時ハ更ニ賃貸ヲ生スルコトハ此同シ期限ノ爲メニアル者ト

ス

第八百四十八條 最初ノ賃貸ノ爲メニ與ヘタル保證人ハ延期ヨリ生
スル義務ヲ免ル可シ

第八百四十九條 若シ一モ期限ヲ定メサリシ時ハ契約者ノ各人ハ次
ノ方法ニ從テ退去ノ告知ヲ爲スノ權利ヲ有ス可シ

第一 若シ「バイユ、ア、フェルム」ニ關スル時ハ賃貸年限ノ終リヨリ百
八十日前

第二 若シ製造場、工作場、倉庫、醸酒場及ヒ商舖ニ關スル時ハ少ナク
モ百八十日前

第三 若シ居宅ニ關スル時ハ少ナクモ九十日前

第四 若シ房室ノミニ關シ若シ「ハー」ノ房室ノ家具ニ關スル時ハ少
ナクモ三十日前

第五 若シ家具ニ關スル時ハ少ナクモ八十八時間前

第八百五十條 賃貸主ハ賃貸期限ノ終ラサル前ニ其物件ヲ拋棄スル
ノ許ヲ得可シ

第一 若シ自己ノ過失ニ非ヌシテ物件カ最早其當然ノ使用若クハ
契約書中ニ指名セラレタル者ニ用立テ能ハサル時

第二 若シ意外ノ事ニ依テ物件ノ緊要ナル部分ヲ久シク奪取セラ
レタル時

第三 若シ賃貸主カ物件ヲ善良ノ景狀ニ保理セサル時

第八百五十一條 賃貸主ハ賃貸ノ期限前ニ賃借主ニ退去ノ告知ヲ爲
スルヲ得可シ

第一 若シ賃借主カ有害ノ方法若クハ物件ノ性質又ハ契約ニ反對
スル方法ニ付テ物件ヲ使用スル時

第二 若シ彼レカ賃貸主ノ允許ヲ得ヌシテ物件ヲ更ニ他人ニ賃貸スル時(第八百三十六條參看)

第三 若シ彼レカ借賃ヲ拂フ可キノ召喚ヲ受ケシヨリ三十日内ニ借賃ヲ拂ハサリシ時

第四 若シ意外ノ事カ賃貸ノ時間爲シ能ハサル至急ノ修覆ヲ必要ト爲ス時

第五 若シ賃借主ヨリ與ヘタル保證ノ減少シ而シテ賃貸主ノ召喚ノ日ヨリ三十日内ニ補充セラレサル時

第六 若シ賃借主カ六箇月ノ入牢若シハ六箇月間ニ保證ヲ與フルト或ハ一層ノ嚴刑ニ處セラレタル時

第八百五十二條 第八百五十條ノ場合ニ於テハ賃借主ハ賃貸主ニ損害ノ賠償ヲ爲スニ及ハス而シテ第八百五十一條ノ場合ニ於テハ賃

貸主ハ賃借主ニ損害ノ賠償ヲ爲スニ及ハサル者トス

第八百五十三條 賃貸主ハ猶ホ期限前ニ退去ノ告知ヲ爲スヲ得可シ(第八百四十九條參看)

第一 賃借主ノ死去シタル場合ニ於テ○然ル時ハ賃貸主ハ死者ノ爲シタル必要有益ノ費用ヲ其相續人ニ拂戻サ、ル可カラス

第二 若シ賃貸主カ全ク賃借主ニ損害ノ賠償ヲ爲ス時ハ都テノ場合ニ於テ○但シ此場合ニ於テハ賃貸主ハ賃借主カ損害ノ賠償ヲ

受取ラサル前ニ已レニ物件ヲ戻スヲ要求スルヲ得ヌ或ハ未ク賠償ノ額ヲ定メサル時若シ雙方ノ一致シ能ハサル時ハ裁判官ノ

價格ヲ定ム可キ保證ヲ與ヘシメサル前ニ物件ヲ戻スヲ要求スルヲ得ヌ

第八百五十四條 若シ定リタル價直ニ依テ人カ定リタル使役若クハ
勞力ヲ爲ス可キノ契約ヲ結フ時ハ人カノ賃貸アル者トス

第八百五十五條 金銀ノ爲メニ類似ノ勞力ヲ施行スルノ職ヲ營ム人
ニ一ノ勞力ヲ任スル所ノ者ハ若シ給料ヲ明約セザリシ時若クハ法
律ニ於テ之ヲ定メザリシ時或ハ若シ契約者雙方カ金高ニ付キ一致
シ能ハサル時ハ裁判官ニ依テ定メラル可キ給料ヲ拂ハサルヲ得ス
第八百五十六條 勞力ノ請負人ハ若シ契約書ニ循テ之ヲ行ハサル時
或ハ若シ二三ノ損害ヲ惹起スル時ハ自己ノ過失ニ付キ其責ニ任ス
可シ若シ契約ニ循テ勞力ヲ行ハサル時或ハ若シ彼レニ治ス能ハサ
ル欠缺アル時ハ雇主ハ其契約ヲ廢棄シ及ヒ損害ノ賠償ヲ請求スル
ヲ得可シ若シ欠缺ノ治セラルハ得ル時ハ雇主ハ或ハ人カ之ヲ治
スルヲ要求スルヲ得可シ或ハ契約ノタル價格ニ準シタル差引ヲ

請求スルヲ得可シ

第八百五十七條 若シ人カ契約書中ニ契約ノ終ラサル可カラサル時
期ヲ指示スル時或ハ若シ此時期カ勞力ノ目的ニ依テ充分ニ指示シ
ラレタル時ハ雇主ハ若シ物件カ定リタル時期ニ引渡サレザリシ時
ハ契約ヲ廢棄スルヲ得可シ或ハ請負人カ意外ノ事ニ依テ遅延ノ生
シタリシヲ證シ能ハサル以上ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得可シ
(第九百六十四條參看)但シ請負人ハ自カラ之ヲ證シ得ル場合ニ於テ
ハ損害ノ賠償ヲ爲スニ及ハス

第八百五十八條 若シ勞力ヲ指揮スル者カ物料ヲ供給シ若クハ前拂
ヲ爲スヲ約束シテ遅延ヲ起シタル時ハ彼レハ前條ニ依テ許與セ
ラレタル權利ヲ失ヒ及ヒ自カラ請負人ニ對シテ損害ノ賠償ニ處セ
ラルハ得可シ

第八百五十九條 勞力ヲ賃貸シタル以來若クハ人カ勞力ヲ引渡サ、

ル可カラサル時期ニ着シタル以來請負人ハ雇主ノ勞力ヲ取り而シ
テ其價直ヲ拂フ可キヲ要求スルヲ得可シ

價直ヲ拂フタル時ハ其後ニ人カ請負人ノ過失ヨリ生スル隱密ノ欠
缺ヲ發見セサル以上ハ勞力ヲ承諾シタル者ト看做ス可シ但シ此欠

缺ハ勞力引渡ノ日ニ於テ人ノ知得シ能ハサリシ所ノ者トス

第八百六十條 若シ物件カ意外ノ事ニ依テ引渡サレサル前ニ滅盡ス
ルニ至ル時ハ其滅盡ハ請負人ノ負擔スル者ナリ然レモ若シ雇主カ
物料ヲ供給シタル時ハ彼レハ此物料ノ滅盡ヲ負擔セサル可カラス

(拿破崙法典第七百九十條參看)

第八百六十一條 若シ雇主カ勞力ヲ承諾シタルノ後意外ノ事ノ來着
スル時ハ其滅盡ハ雇主ノ負擔スル者トス(同上)

第八百六十二條 若シ物件カ請負人ノ過失ニ依テ滅盡スル時ハ彼レ

ハ毀リタル損害ノ責ニ任ス可シ(拿破崙法典第二千八百八十八條參看)

第八百六十三條 土地ノ所有者ト協議シタル積書ニ從ヒ請負コテ建

造ヲ爲ス可キヲ任スル請負人ハ如何ナル口實タルヲ問ハス假令

積書ニ記シタル所ヲ變易シタルヲ口實ト爲スモ價直ノ増加ヲ訟求

スルヲ得ス但シ所有者カ書類ヲ以テ之ヲ承諾シタル時ハ此限ニ在

ラス(拿破崙法典第七百九十三條參看)

第八百六十四條 若シ請負コテ造リタル建造物其造法ノ不良ナルニ

依リ其全部又ハ一部ノ滅盡スル時ハ請負人ハ所有者ノ勞力ヲ承諾

シタル日ヨリ十年ノ時間其責ニ任ス可シ(拿破崙法典第七百九十

二條參看)

第八百六十五條 或ル期限ノ爲メ若クハ或ル勞力ヲ施行スル爲メニ

契約シタル職工ハ重大ナル理由アルニ非サレハ其期限ノ終ラサル
前若クハ勞力ヲ施行セサル前ニ勞力ヲ去辭スルヲ得ス亦解雇セラ
ル、ヲ得ス但シ勞力中止ノ場合ニ於テハ各方ハ其過失ノ責ニ任ス
可シ然レモ意外ノ場合ニ於テハ何レモ其責ニ任スルニ及ハス

第八百六十六條 拿破崙法典第七百九十七條ニ同シ

第八百六十七條 人力ノ貸貸ノ契約ハ左ノ箇條ニ依テ終ル可シ

第一 契約シタル期限ノ終ル事

第二 雇主ノ勞力ヲ承諾スル事

第三 若シ雇主カ職業又ハ練磨ノ譯ニ於テ撰任セシ時其職工ノ死
去スル事○然レモ該職工ノ相續人ハ既ニ着手シタル勞力及ヒ準
備シタル物料ノ價直ヲ要求シ及ヒ既ニ終リタル勞力ノ爲メ請取
ル可キ給料ヲ要求スルヲ得可シ(拿破崙法典第七百九十五條

及ヒ第七百九十六條參看)

第八百六十八條 米々丁年ニ達セスト雖モ其後見人ノ承諾ヲ得テ其
職業ニ熱心スル雇主ハ六箇月若クハ一箇年間有効ニ契約スルヲ得
可シ而シテ其後見人ハ重大ナル理由アルニ非サレハ此契約ヲ廢棄
セシムルヲ得ス而シテ契約シタル期限ノ終ラサル前ニ重大ノ理由
無ク其雇主ヲ解放スル雇主ハ彼レニ六箇月間ノ給料ヲ拂ハサル可
カラス

第八百六十九條 雇主ト雇主トノ關係ハ官令及ヒ格段ノ習慣ニ依テ
之ヲ規定ス而シテ雇主ハ期限若クハ給料ノ部分ノ爲メニ其確認ス
ル所ニ從フ可シ

第十款 會社ノ契約

第八百七十條 會社トハ二名以上ノ者互ニ法ニ適シテ共同獲利ノ目

的ニテ協同一致スル所ノ契約ナリ(拿破崙法典第千八百三十二條參看)

第八百七十一條 各社員ハ會社ニ或ハ確定物或ハ勞力ヲ供スルヲ得可シ又確定物勞力俱ニ供スルヲ得可シ(拿破崙法典第千八百三十三條參看)

第八百七十二條 利益ヲ目的トセサル會社ノ適法ナル關係ハ契約若シ契約無キ時ハ本篇第一卷ノ諸規則ニ因テ規定セラル可シ

第八百七十三條 會社若シ諸般ノ利益ニ付テハ會社ナル時ハ契約ハ之ヲ書面ニ記認シ而シテ若シ會社諸般ノ事業繼續又ハ商業ノ事ヲ以テ其目的トスル時及ヒ其資本ノ五千フランヲ超過スル時此成立ニ依テ此契約ヲ公クノ簿冊ニ登記セシカ爲メニハ會社所在ノ裁判所ニ之ヲ全ク渡サ、ルヲ得ス若又會社カ家資分散ニ陥落セシ時是

等ノ法式ヲ履踐セサルハ詐欺ヲ爲スノ意嚮ヲ疑ハシムル者ナリ又裁判所長ハ會社ノ證書及ヒ社員ノ姓名ヲ公用新聞ヲ以テ公告ス可キノ注意ヲ爲サ、ルヲ得ヌシテ(第八百八十六條參看)社員ノ退社若クハ入社スルヲ有ル時モ亦等一ノ注意ヲ爲サ、ルヲ得サル者ナリ
第八百七十四條 諸般ノ事業繼續又ハ商業ノ事ヲ目的トシ且資本ノ五千フランヲ超過スル諸般ノ利益ニ付テハ會社ノ各社員ハ書類ヲ適正ニ整頓スルヲ及ヒ少ナクモ二箇年毎ニ調製シタル會社ノ貸付及ヒ借受ノ目錄ヲ適正ニ編纂スルヲニ付テハ連帶シテ其責ニ任ス可シ若夫會社家資分散ニ陥ルニ當テ書類及ヒ目錄ノ欠缺又ハ不適正ノ整頓ヲ爲スヲ有ルニ於テハ詐欺ヲ爲スノ意嚮ヲ疑ハシムル者ナリ

第八百七十五條 會社ノ資本トハ社員金ノ所有ニ於テ會社ニ供給ス

ル所ノ金銀及ヒ物件ヲ以テ之ヲ組織スル者ニシテ尙ホ更ニ金銀又
ハ新地ノ物件ヲ供給ス可ク契約スルノ義務ヲ以テ組織スル者ナリ
而シテ若シ社員中ノ一人物件ヲ會社ニ引渡スト雖モ其所有權ヲ引
渡シタルノ證無キ時ハ只會社ニ供シタル物件ノ占有權ヲ讓與シタ
ル者ト看做サハルニ過キス

第八百七十六條 諸般ノ利益ニ付テハ會社ノ資本ハ社員ノ會社ニ供
給シタル物件ニ割合テ此者ノ所得ニ屬ス可シ唯勞力而已テ供シタ
ル社員ハ資本ニ付キ毫モ權利ヲ有セサル者トス

第八百七十七條 各社員ハ普通ノ規則ニ循ヒ會社ニ資本ノ平等ナル
可キ分ク前テ供給ス可ク且ツ等一ニ會社ノ諸事業ヲ占領ス可シ而
シテ何レノ社員ナリトモ爾餘ノ社員ヨリ許諾ヲ得ルニ非スハ其己
レニ委託セラル、事業ノ管理ヲ第三ノ人ニ委託スルヲ得サル者ナ

リ尙ホ亦現ニ會社ノ起企スル事業ト同一ノ目的タル事業ヲ尙モ起
作スルヲ得サル者ナリ

第八百七十八條 唯勞力而已テ供給スル社員ハ資本ニ付キ毫モ權利
ヲ有セサル者ニシテ又資本而已テ供給スル社員ハ事務管理ニ毫モ
權利ヲ有セサル者トス又確定シタル資本ヲ供給ス可キ旨ヲ契約セ
シ社員ハ該資本ニ或ル物件ヲモ亦附加ス可ク餘義ナクセラレサル
ヲ得可シ然リト雖モ會社資本ノ増殖無シ其目的ヲ達シ能ハサル時
ニ當テ社員自己ノ分ク前ニ何モ附加スルヲ欲セサレハ則テ會社
ト決算ヲ爲シ然ル後退社セサルヲ得ス

第八百七十九條 社員會議ニ於テ將ニ取扱ハントスル事柄ニ付テ格
段ノ契約無キ時ハ共同所有權ノ事ニ係ル第三百九十六條及ヒ第三
百九十七條ノ規則ヲ當用ス可シ

第八百八十條 若夫會社ニテ特ニ事務ヲ管理ス可キノ任ヲ社員一名若クハ數名ニ付與シタル時ハ會社ノ契約書及ヒ公ケノ簿冊ニ此旨ヲ登記セサルヲ得ス而シテ公用新聞ヲ以テ亦此旨ヲ公告セサルヲ得サル者トス然ラサレハ各社員皆共ニ事務ヲ管理ス可ク任セラル者ノ如ク看做サルレハナリ蓋シ此推測タルヤ會社契約ヲ簿冊ニ登記センカ爲メ之ヲ裁判所ニ差出サ、ル都テ諸般ノ利益ニ付テノ會社ニ要セラル、者トス而シテ若シ會社ノ繼續時間ニ事務管理ニ一變更ヲ行フ有ル時ハ公ケノ簿冊ニ其旨ヲ登記シ且公用新聞ニモ之ヲ記入セサルヲ得ス

第八百八十一條 會社ノ都テノ管理人ハ恰モ會社ノ目的ニ關係スル事件ニ付テハ全權ヲ有ス可ク且此權限内ニ於テ會社ヨリ諸權利ヲ獲得ス可ク又會社ヲシテ義務ヲ擔當セシムルヲ得可キ諸般ノ代理

人ノ如ク看做サレサルヲ得ス

第八百八十二條 其都テノ管理人ハ常ニ各社員ニ自己ノ書類ヲ差出ス可ク及ヒ計算ヲ立ツ可シ

第八百八十三條 利益トハ即チ元來ノ資本ヲ超越スル者ヨリ成立ス是ハ一般百分ノ五ノ額タル資本ノ利息ヲ包含スル會社ノ諸費用ヲ省略シタル者ナリ而シテ若シ格段ナル契約無キ時ハ各社員ハ其得可キ利益及ヒ其擔當ス可キ損失ニ付テハ平等ノ分ケ前ヲ受ク可シ(拿破崙法典第千八百五十三條參看)

第八百八十四條 若夫社員己レノ資本ノ全部若クハ一部ヲ喪失スル有ル時ハ總社員間ニ平等ニ其損失ヲ配當セサルヲ得ス但シ反對ノ契約アル時ハ格別トス

第八百八十五條 社員ハ皆連帶シテ會社ノ諸義務ヲ負擔ス可シ又社

員ノ各ハ公ケノ簿冊ニ登記シタル所ニ依循シ事務管理ニ參涉スル
部分ニ割合ヒ以テ第三ノ人ニ對シ會社ノ諸權利ヲ効用スルヲ得可
シ(第八百八十條參看)

第八百八十六條 人若シ會社ノ尋常ノ社員又ハ公ケノ社員ヲラスシ
テ會社ニ或ル資本ヲ附託シタル時ハ唯其契約シタル資本而已ノ責
ニ任ス可シ而シテ尋常ノ社員ニ就テハ其家産全部ノ責ニ任ス可シ
第八百八十七條 若シ諸般ノ利益ニ付テノ會社家資分散ヲ公告セラ
ル、時ハ該會社ノ權利者ハ皆會社ニ殘遺スル資本ヲ差押フルヲ得
可シ又此資本ヲ以テ都テノ權利者ニ完済スル爲メニ足ラサレハ此
者等ハ更ニ社員等ノ格段ナル家産ヲ差押フルヲ得可シ(第八百八十
五條參看)

第八百八十八條 若シ社員中ノ一人家資分散ヲ爲シタル時ハ會社ハ

家資分散ノ事務ヲ管理ス可キ社員ト共ニ計算書ヲ調整シ及ヒ分散
シタル社員ノ會社ニ於テ有スル總財産ヲ返還セサルヲ得ス又會社
ノ計算書ニ從フニ若シ分散人カ會社ノ義務者ナル時ハ無論該會社
ハ家資分散ニ其權利ヲ効用スルヲ得可シ又社員中一人ノ家資分散
ハ決シテ會社諸般ノ事業ヲ中止セサル者ナリ

第八百八十九條 會社ハ其解散ヲ致ス事左ノ如シ

第一 會社ヲ結フ契約書ニ定メタル事業ノ終成スル事又ハ會社事
業ノ終了シ能ハサル事情ニ因ル事

第二 會社ヲ結フ契約書ニ定メタル期限了ル事

第三 會社資本ノ滅失スル事

第四 社員中一人ノ死亡スル事又ハ其家資分散ヲ爲ス事但シ社員

二名ナル時ト雖モ亦然リトス(拿破崙法典第千八百六十五條參看)

第八百九十條 若夫會社ノ繼續ス可キ期限ヲ確定セサル時ハ各社員ハ皆好意ヲ以テ退社スルヲ得可キモ苟モ詭計ヲ行ヒ又ハ會社ニ明白ナル損害ヲ醸生セシテ以テ隨意ニ退社スルヲ得可カラサルナリ

第八百九十一條 若シ管理人ナル社員死亡スルカ又ハ會社ヲ退去スル時ハ各社員ハ三十日間ニ死亡シタル社員ノ會社ノ事ニ通曉シタル者ヲ計算ス可キ權利アリ又此者ノ最早社中ノ者タルヲ欲セサル旨ヲ公告ス可キノ權利アルナリ而シテ假令斯ノ如キ事ハ約定シタル期限ノ終了セサル前ト雖モ社員皆共ニ之ヲ爲スヲ得可シ又斯ノ如キ事ヲ爲サル社員ハ亦抗拒ス可カラサル事故有テ此等ノ要件ニ依循シ能ハサル旨ヲ證シ以テ退社スルヲ得可シ

第八百九十二條 死亡シタル社員一名ノ總相續人之ニ代ハル可キノ權利ヲ有セザレバ隨テ之ニ代ハル可シ餘義ナクサルハ得ス

第八百九十三條 民權ヲ行フ可キヲ剝奪セラレタル社員又ハ義務ヲ盡スニ足ラサル社員ハ約定シタル期限了ル前ト雖モ共同社員等ヨリ除社セラル可シ

第八百九十四條 會社若シ結社ス可キ旨ヲ裁判所ニ告知シタル時ハ其解散ヲ致ス時ト雖モ亦必ス裁判所ニ此旨ヲ告知セサルヲ得ス蓋シ此告知書ハ公クノ簿冊ニ之ヲ登記シ且公用新聞ニモ之ヲ公告ス可シ

第十一款 遺物相續ニ關スル契約

第八百九十五條 夫婦タル可キ雙方ハ婚姻ノ前後ヲ問ハズ別段ノ契約ニ因テ其一人ヨリ配偶者ノ遺物相續ヲ拋棄スルヲ得可シ而シテ契約上ノ遺物相續ノ順序ヲ發生ス可シ又親族ハ其權下ニ在ラサル正統相續人タルノ分限ヲ有スル雙方ノ子ノ爲メニ相續權ヲ購買ス

ルヲ得可シ

第八百九十六條 夫婦ト爲ラントスル雙方ハ婚姻中ニ夫婦ノ一方ニ
 必ス到着ス可キ遺物ニ對シテ其取結ヲ所ノ契約ハ「エエタゼ」ト稱
 シ及ヒ配偶者ノ雙方自己固有ノ遺物ニ對シテ其取結ヲ所ノ契約ハ
 「エエバルヨソ」ト稱ス而シテ夫婦ト爲ラントスル雙方及ヒ
 配偶者ノ雙方此等ノ契約ニ因テ其配偶者ノ正當ノ遺物相續ヲ拋棄
 スルコトヲ得可シ(第五百十六條參看)及ヒ契約上ノ遺物相續ノ順序ヲ
 發生セシムルコトヲ得可シ又ハ死亡ノ原因ニテ贈遺ヲ爲スコトヲ得可
 シ然レモ夫婦ト爲ラントスル雙方及ヒ配偶者ノ雙方死亡ノ原因ニ
 テ第三ノ人ニ贈遺ヲ爲サント欲スルカ又ハ遺物相續ノ當然ノ順序
 ヲ變易セント欲スル時ハ終末ノ意欲ナル所爲ヲ以テ之ヲ爲サ、ル
 可カラズ

第八百九十七條 是等ノ契約ニハ第八十二條ヨリ第八十五條迄及ヒ
 第八十八條ヨリ第九十條迄ニ反對セル何レノ箇條タリモ記載ス可
 カラス若シ是等ノ箇條ヲ契約ニ記載スル時ハ無効ヲ致ス可シ
 第八百九十八條 若シ是等ノ契約カ許嫁者間ニ爲サ、ル時ハ親族若
 シハ第三ノ人ハ此者ノ處置シ得可キ部分ヲ限り贈遺ヲ爲スヲ得可
 シ又許嫁者ハ適法ニ相共ニ贈リ物ヲ爲スヲ得可シ
 第八百九十九條 婚姻ノ原因ニ依リテ許嫁者ノ一方ヨリ他ノ一方若
 シハ第三ノ人ヨリ爲シタル贈遺ハ假令贈遺者ノ過失ニ非スト雖ト
 モ婚姻ヲ要セサル時ハ無効タル可シ故ニ斯ノ如キ場合ニ於ケル總
 ノ贈遺ハ廢除セラル可シ

第九百條 總テ許嫁者ノ其「エエタゼ」(附言ヲ爲ス爲メニハ自己ノ父
 母又ハ自己ノ後見人ヨリ立會セラル、者トス然ルモ若シ其者自カ

ヲ人權ヲ享有スル時ハ何レノ許諾ヲモ要トスルニ及ハサルナリ

〔附言〕「エエタシ」ナル語ノ意義ハ第八百九十六條ノ釋義ニ讓ル可シ我輩ハ「エエタシ」ナル語ヲシテ單一ノ語ト爲ス可キ同種ノ佛

蘭西語ヲ得サルナリ

第九百一條 本條ハ千八百四十年五月二十七日ノ法律第四條ニ因テ廢棄セラル

第九百二條 都テ「エエタシ」都テ「エエベル」等シク書面ニ之ヲ記認セサルヲ得ス此場合ニ於テハ其寫書ニハ結約者ノ雙方結約者等ニ二三ノ事物ヲ保證スル人及ヒ結約者等ノ爲メニ立會フ可キ輔佐人ノ姓名手署ヲ要セサルヲ得ス若シ是等ノ人ノ一人寫書ニ手署スルヲ能ハサル時ハ公證人ヲシテ之ニ記セシメサルヲ得ス

第九百三條 「エエタシ」ヲ爲シタル夫婦ハ其相與ニ協和一致ニ付テハ

或ハ之ヲシテ「エエベル」ニ「エエベル」ニ變更セシメ或ハ「エエベル」ニ「エエタシ」改様スルヲ得可シ

第九百四條 「エエタシ」及ヒ「エエベル」ニ「エエタシ」ノ條件ノ無効ヲ致ス可

キ「左ノ如シ

第一 先ニ死去シタル配偶者ノ死亡スルモ夫婦ノ雙方カ其生ミタル正當ノ子アル時

第二 離婚タル「ノ明言セラル、時

第三 夫婦是等ノ條件ヲ變更シ又ハ之ヲ廢止セシ時

第九百五條 婦ハ「エエタシ」又ハ「エエベル」ニ「エエタシ」ヲ廢棄センカ爲メ

ニハ裁判所ヨリ命スル輔佐人ヲ要トスルニ及ハスト雖モ是等ノ者ヲ廢棄センコトハ夫婦及ヒ證人二名ノ姓名ヲ手署シタル證書ヲ調製

スルカ若クハ公證人及ヒ證人二名ノ姓名ヲ手署シタル該公證人ノ
調製ニ係ル證書ヲ調製セサルヲ得ス

第九百六條 若夫^エ○^エ○^ベ○^ル○^コ○^ミ○^コ○^ス○^カ荷モ法式ノ瑕瑾ニ依リ無効ヲ
致ス可キ時ハ有効ノ^エ○^エ○^タ○^シ○^ヲ以テ之ヲ代替ス可シ或ハ若シ夫婦
既ニ^エ○^エ○^ベ○^ル○^コ○^ミ○^コ○^ス○^ヲ爲シタル時ハ之ヲ執行セサルヲ得ス但シ
前條ニ明記シタル理由ノ一ニ依リ廢棄セラル、時ハ格別トス

第九百七條 父母ハ其權下ニ在ラサル子及ヒ稚兒等ヲシテ自己ノ遺
物相續ニ付キ正當ノ相續人タル權利ヲ拋棄セシムル爲メニハ此者
等ニ若干ノ金額ヲ拂フヲ得可シ(第五百十六條ノ第二參看)

第九百八條 人遺物相續權ヲ買得センカ爲メニハ契約ニ關スル一般
ノ規則ニ依循セサルヲ得ス蓋シ其買得タルヤ處分シ得可キ部分ヨ
リ過度ナルカ爲メニハ正當相續人ニ依リ攻撃セラル、ヲ得可シ(第

七百二十二條參看)而シテ子又ハ稚兒ハ自己ノ相續ス可キノ權利ヲ
賣却セハ其親族ノ死亡後ハ其他ノ相續人等ノ第三ノ人ニ對シ行フ
可キ義務ト等シキ義務ヲ負フ者トス又子又ハ稚兒ハ是等相續人ニ
向ヒ自カラ辨償シタル遺物相續ノ負債ニ付キ第五百十五條ニ規定
シタル訟求權ヲ有ス可シ因テ其差出シタル高チ返還セシムルヲ得
可シ

第九百九條 母其子ト共ニ爲ス財產分派ハ遺物相續ニ關係スル所ノ
契約ナルニ非サルナリ(第五百二十八條ヨリ第五百四十五條マテ參
看)

第十二款 保證契約

第九百十條 義務者ノ爲メ保證ヲ立ル者權利者ト共ニ保證契約ヲ取
結フ時ハ之カ爲メニ保證ヲ立ル者ハ義務者ト共ニ義務ノ全部ヲ辨

濟ス可キ連帶ノ責任ヲ負フ者トス(第九百二十條參看)拿破崙法典第
二千十一條參看)

第九百十一條 本條ハ恰モ拿破崙法典第二千二十五條ノ如ク附セラ
ル即チ但シ其各保證人ハ各自唯義務ノ一部分ノミノ責ヲ負擔ス可
キヲ法式上明言シ權利者ノ此事ニ付キ満足セシ時ハ格別トス

第九百十二條 若夫保證人義務者ノ其義務ヲ辨濟スルコト能ハサル場
合ニ非ヤレハ責ヲ負擔セサルノ契約ヲ爲シタル時ハ權利者ハ其義
務者ヲ禁錮セシメタル後カ又ハ其義務者ノ家資分散ヲ爲シタルモ
其財産ヲ以テ悉皆義務ヲ辨濟スルコト能ハサルコトノ證セラレタル後
ハ保證人ニ對シ辨濟ヲ得ント訴フルヲ得可シ(拿破崙法典第二千二
十一條參看)

第九百十三條 確定ノ時間ヲ以テ契約ヲ爲シタル保證人ハ假令此時

間ノ終了スルニ雖モ尙ホ依然義務ヲ負フ者トス然レモ該保證人ハ
此時間終了シタル後ハ權利者ヲシテ其債主權ヲ己レニ讓渡セシメ
又ハ保證契約ヲ廢棄セシムルコトヲ要求スルヲ得可シ

第九百十四條 保證人權利者ノ意思ヲ表明セラレンコトヲ要求スト雖
モ權利者三十日內ニ其債主權ヲ保證人ニ讓渡ス可キ旨ヲ公陳セサ
ル時ハ保證契約ハ廢棄セラル者トス但シ權利者抗拒ス可カラサル
障礙ヲ證スル時ハ格別トス

第九百十五條 保證人ノ總テノ損失ヲ擔保ス可ク契約スル者ヲ「コー
ンオン、ド、コーンオン」即チ保證人ノ並ニト云フ夫レ「コーンオン、ド、コーシ
オン」ハ保證人ノ爲メ義務ヲ負擔スル而已ニシテ權利者トハ何レノ
關係オモ有セサルナリ

第九百十六條 總テ後見ヲ免脱セサル者ハ保證人ト爲ルコトヲ許可セ

ラル、ヲ得ヌ蓋シ其者ハ己レノ名義ヲ以テ保證人ト爲ルヲ得ザルニ在リ(第百六十三條及ヒ第三百十一條參看)

第九百十七條 保證トハ適法タル契約ヲ執行セサルニ因リ金銀ヲ以テ評價シタル賠償ヲ誘引ス可キ該契約ヨリ生スル現在若シハ未來ノ諸般ノ義務履行ノ爲メニ立テラル、ヲ得可シ而シテ何人ナリトモ適法ナラサル義務若シハ既ニ消滅シタル義務ノ履行ヲ保證スルヲ得可カラサル者トス

第九百十八條 結約スルヲ得可キ能力ヲ有セサル者ノ保證人ハ其能カラ有セサル者ナルヲ知了スル時此旨ヲ知得セサル權利者ニ之ヨリ生シタル損害ノ償ヲ拂フ可キ者ナリ

第九百十九條 百フランヲ超過スル金額ニ付キ取結ヒタル保證契約ハ書面ニ之ヲ記認スルカ若シハ其契約ノ調書ヲ整ヘサルヲ得ス但

シ保證契約ハ之ヲ書面ニ認メヌ若シハ其調書ヲ整ヘサル時ハ無効ヲ致ス可シ

第九百二十條 保證契約ハ契約ノ明文外ニ伸張スルヲ得ヌ(第九百十二條及ヒ第九百十三條參看)而シテ又該契約ハ權利者自己固有ノ懈怠ノ爲メニ權利者ヲ擔保スルヲ得サル者トス又無利息ノ資本ニ付キ義務ヲ擔任セル保證人ハ只此資本ノ責ニ應ス可シ若シ假令保證人義務ヲ擔任シタル後義務者權利者ニ利息ヲ約シタリト雖モ遲滞ノ利息ノ責ニ應ス可キ者ナリ而シテ有利息ノ資本ニ付キ義務ヲ擔任セル保證人ハ義務ヲ恢復セントスル間ニ既ニ拂期限ニ至リタル利息及ヒ權利者ノ保證人ヲ立テサル裁判所ノ諸費用ノ責ニ應ス可シ又定期ニ至テ拂ハサルヲ得サル資本ニ付キ義務ヲ擔任セル保證人ハ恰モ確定時間ヲ以テ契約ヲ爲シタル保證人ノ如ク看做サ

レサルヲ得ス(第九百十三條參看)

第九百二十一條 若シ權利者保證人ヨリ辨濟ヲ得ント求ムレハ此者ハ義務者ヲ相手取ルカ爲メニ欠ク可カラサル時間ヲ要求ス可キソ權利アリ故ニ此權利ヲ用フル時ハ保證人其己レニ義務ヲ擔任セラ
ル、コヲ認知スルニ在ルナリ

第九百二十二條 權利者ヨリ辨濟ス可キ旨ヲ催促セラル、保證人ハ自カラ善シト思惟スト雖モ其位地ヲ握有スル義務者ニ催促ノ報知ヲ爲サ、ルヲ得ス若シ義務者保證人ノ位地ヲ握有セサルト雖モ保證人ハ義務者ノ爲メ諸般ノ權利ヲ保有シ以テ辨濟スルコトヲ得可シ若又保證人義務者ニ權利者ヨリノ催促ノ報知ヲ爲サスシテ權利者ニ辨濟シタル時ハ義務者ハ其權利者ノ求メテ拒ムコトヲ得可キ抵拒ノ法ト等一ナル抵拒ノ法ヲ以テ保證人ノ請求ヲ拒ム可キノ權利ヲ

有ス可シ(拿破崙法典第二千二十八條及ヒ第二千二十九條參看)

第九百二十三條 權利者ニ義務ヲ行フタル保證人(第九百二十一條及ヒ第九百二十二條參看)ハ權利者ノ義務ヲ得可キノ證書及ヒ義務ヲ行フ可キノ擔保ヲ引渡サシムルヲ得可シ(第六百九十五條參看)

第九百二十四條 保證契約ハ義務者ノ義務ノ消滅スルト等キ都合ニテ消滅ス可キ者ニシテ縱令義務存在スルモ權利者ノ之ヲ拋棄シタル時ハ尙ホ亦消滅ス可キ者ナリ而シテ若シ數名ノ保證人アル時ニ際シ權利者此數名中ノ一人ヲ爾餘ノ保證人等ノ許諾無ク義務ヨリ免レシメタル時ト雖モ此者等ノ義務ハ義務ヲ免レタル者ノ擔保ス可ク約シタル義務ヨリ減少セラル可シ然レモ保證人權利者ヨリ義務ヲ釋放サル、時爾餘ノ保證人等裁判上起訴シ以テ權利者ノ請求ヨリ免レ得ルト雖モ此等ノ保證人ハ皆共ニ依然義務ヲ負擔ス可キ

者ナリ(拿破崙法典第二千三十四條參看)

第九百二十五條 或人ノ事務管理ニ付キテ自カラ保證人ト爲リシ者ハ其事務管理ノ終リタル後ハ義務ノ或ハ算定セラル、^一或ハ定期内ニ裁判官ヨリ請求セラル、^一或ハ保證契約ニ因テ自カラ免ル、^一ヲ要求スルヲ得可シ

第九百二十六條 我輩ハ公ケノ義務ニ付キテハ我施政法中ニ新規ノ條件ヲ説述スルナラン

第十三款 動産質入ノ契約

第九百二十七條 動産質入ノ契約トハ義務者ヨリ權利者ニ其義務ヲ得可キノ擔保トシテ物件ヲ交付スト會得ス可シ(拿破崙法典第二千七十一條參看)

第九百二十八條 權利者其義務ヲ得可キノ擔保ノ利益ヨリ他ノ利益

ヲ享有スル都テノ箇條ハ無効タル可シ故ニ權利者ハ定メタル期限内ニ義務者ヨリ義務ヲ竭サ、ルモ確定ノ代金ノ爲メニ質取リシタル物件ノ所有權ヲ己レニ屬セシメ得ル契約ハ無効タル可シ又權利者其質取リシタル物件ヲ享有スルヲ得可キ契約モ亦無効タル可キナリ

第九百二十九條 動産ニ付テノ質入契約ハ質物ヲ引渡ス^一ニ因リ及ヒ契約書ヲ送達スル^一ニ因テ完全スル者トス即チ百^一フラン以上ニ關スル時トス(第四百八十三條參看(拿破崙法典第二千七十四條參看) 又不動産書入質ノ契約ハ之ヲ二通作ラサルヲ得ス而シテ其契約ニハ義務者ヨリ其確定シタル物件ヲ質入レシタル旨ノ申述ヲ記シ及ヒ權利者ノ承諾ヲ證トス可キカ故ニ必シモ此者ノ申述ヲモ亦契約ニ記セサルヲ得ス

第九百三十條 不動産書入ニ關スル時ハ證書ハ公證人又ハ不動産所在ノ地ノ邑書記ヲシテ之ヲ調製セシメサルヲ得ス

第九百三十一條 不動産ノ賣主買主ニ向ヒ質入ノ權ヲ自カラ保存セシト欲スルモ若シ賣主買主ニ代金ヲ悉皆拂ハサル時ハ此保存タルヤ契約書中ニ記入セラレサルヲ得ス(第四百八十三條ノ第二參看)

第九百三十二條 所有者ノ掌中ニ殘遺スル不動産ニ付テノ書入質ハ擔保ノ書翰又ハ義務ノ書翰ニ因ルニ非サレハ生スルコトヲ得ス(第九百四十一條第九百五十五條參看)

第九百三十三條 不動産ノ引渡ヲ爲サズ只之ヲ書入質ト爲サント欲スル者ハ不動産ノ評價ヲ爲ス可キカ爲メ其所在ノ地ニ置レタル裁判官ニ要求セサルヲ得ス

第九百三十四條 然ル時ハ裁判官ハ二名ノ評價人ヲシテ質入ト爲シ

タル物件ヲ検査セシメ且之ヲ評價セシムルヲ命ス可シ而シテ評價人等ハ己レノ詭計及ヒ懈怠ノ責ニ任ス可キ者トス

第九百三十五條 所有者己レノ不動産ヲ書入質ニ爲シタル時ハ所有者其不動産所在ノ裁判所ニ自カラ出席シ該裁判所ニ評價人ノ報告書ヲ呈出シ且物件ノ適法ニ占有サレシ旨ヲ證セサルヲ得ス而シテ質入ト爲シタル物件ニ付キ第三ノ人ノ有スル諸權利ヲ若シ所有者其物件ヲ占有セシメタル證書中ニ指示セサル時ハ所有者ハ裁判所ニ其諸權利ヲ申述シ且書記ヲシテ證書ヲ調製セシメ以テ己レノ申述ヲ證明セサルヲ得ス

第九百三十六條 若夫其所有者婚姻セシ時ハ其婦ハ自カラ持テ來ル財産ノ高ヲ申述スル爲メ又ハ第九十九條第百條及ヒ第百一條ニ依リテ婦ノ財産ノ半ヲ其使用ニ屬セシメタル先取特權ヲ拋棄セシメ

ハ婦ハ二名ノ親族若シハ後見官署ノ役員ノ目前ニ出席セサルヲ得
ヌ若シ婦不在ナル時ハ婦ハ二名ノ證人ノ目前ニテ公證人ニ對シテ
己レノ申述ヲ爲スヲ得可シ蓋シ此申述書タルヤ二名ノ證人公證人
ノ雙方若クハ後見官署ノ役員ヨリ裁判所ニ呈出セラレ可シ

〔附言〕 婚姻シタル婦ハ二名ノ證人若クハ後見官署ノ役員ヨリ出
席サル、ヲ最早要トセサルニ至レリ(千八百四十七年五月二十七
日ノ法律第四條參看)

第九百三十七條 若夫婦死亡シタル時ハ前條ニ要セラレタル申述ハ
民權ヲ享有スル其子若クハ其娘ノ夫之ヲ裁判所ニ於テ爲サ、ルヲ
得ス若シ子ノ未タ親ノ權下ニ脱セサル時右申述ハ其母方ノ親族ノ
二名若クハ子ノ名義ニテ後見官署ノ役員裁判所ニ於テ之ヲ爲ス可
キ者トス而シテ是等ノ者ハ各自ニ出席スルカ否ヲサレハ代理人等

ヲシテ代理セシメサルヲ得ス

第九百三十八條 自第九百三十五條至第九百三十七條ニ規定シタル
申述ノ事ハ裁判所ニ於テ適正ト判定セハ裁判所ハ不動産ヲ書入質
ト爲シタル所有者ニ所長及ヒ書記ノ姓名ヲ手署シタル右申述ノ保
證書ヲ付與セサルヲ得ス又此保證書ニハ裁判官モ亦捺印スルナル
可シ而シテ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判所ノ役員及ヒ書記ハ各自ノ
訛欺及ヒ懈怠ノ責ニ應ヌ可キ者トス

第九百三十九條 若夫入質ト爲シタル財産カ數箇ノ郡内ニ置カル、
時ハ義務者ハ各裁判所ノ保證書ヲ保持セサルヲ得ス

第九百四十條 若シ權利者充分ナル擔保ヲ見出ス時ハ所有者ハ此者
ニ公證人若クハ邑書記ヨリ送致セラレタル擔保ノ書翰若クハ義務
ノ書翰ヲ交付ス可シ(第八百四十一條及ヒ第九百五十五條參看)

第九百四十一條 義務ノ書翰(ギョニルドロプリエフ)ニハ左ノ諸件ヲ記載
ス可シ

第一 義務ヲ認知スル事、利息ノ高及ヒ義務ノ原由ノ事

第二 質物ヲ記載スル事及ヒ裁判上ノ評價ノ事(第九百四十四條參
看)

第三 質物ニ付キ第三ノ人ノ權利ヲ指示スル事(第九十九條第百一
條參看)

第四 婦ノ持チ來ル財産ヲ定ムル事又ハ其持チ來ル財産ノ半ニ對
スル先取特權ノ拋棄ノ事

第五 義務者ノ家資分散ノ場合ニ於テ權利者ノ先取特權ノ事(第九
百五十九條參看)

第九百四十二條 借物ヲ義務ヲ行フ可キ原因トスル時ハ義務者ハ法

律ニ依リ認可セラレタル性合ノ金銀貨幣ヲ現金ニテ領収シタルト
及ヒ法律上其貨幣ノ價ニ從ヒ權利者ノ承諾ヲ得テ交付セラレタル
金銀貨幣ヲ現金ニテ領収シタルトハ義務ノ書翰中ニ記入セラレサ
ルヲ得ス蓋シ義務者ノ領収シタル金額ノ價ハ義務ノ書翰ニハ瑞士
ノ貨幣ニ減少セラレサルヲ得ス

第九百四十三條 若シ義務ノ書翰ヲ交付シタル者權利者ヨリ第三ノ
人ニ爲シタル拋棄ヲ義務ヲ行フ可キ原因トスル時ハ義務ヲ得可キ
ノ證書ハ義務ノ書翰中ニ記載サレ且義務者ニ渡サ、ルヲ得ス而シ
テ讓渡ヲ受ケタル者ハ義務ノ書翰ヲ認メタル公證人ヲシテ證書ヲ
記セシメ以テ義務ヲ得可キノ證書ノ有効タル旨ヲ義務者ヨリ認知
セラレサルヲ得ス

第九百四十四條 義務更改第九百七十八條及ヒ第九百七十九條ヲ義

務ヲ行フ可キノ原因トスル時ハ従前ノ義務ヲ得可キノ證書ハ義務
ノ書翰中ニ記載セラレサルヲ得ス又義務ヲ得可キノ證書ノ廢棄セ
ラレシ旨ヲ明言セサルヲ得ス而シテ或ル證書中ニ義務更改ノ證據
アル時ハ此證書ハ權利者義務者ニ之ヲ封印シテ渡サ、ルヲ得ス又
義務ノ消滅ハ證書ニ之ヲ記載セサルヲ得サルナリ

第九百四十五條 利息ノ高ハ常ニ百分ノ五トス是故ニ總テ他ノ約定
ハ無効ヲ致ス可シ(千八百七年九月五日ノ佛蘭西法律參看)

第九百四十六條 義務ノ書翰中ニハ行フ可キ義務ノ期限ヲ定ムル
モ行フ可キ義務ノ無期限ヲ明記スルヲオモ得ス(第九百五十條參看)

第九百四十七條 義務者權利者ニ質入ノ權ヲ占有セシメシカ爲メニ
ハ(第四百八十三條ノ第二參看)質入レシタル物件所在ノ裁判所ニ義
務ノ書翰ヲ渡サ、ルヲ得ス而シテ又義務者ハ所長ニ誓詞ヲ宣ヘ以

テ義務ノ書翰ニ記シタル都テノ申述ヲ借メサルヲ得サル者ナリ又
義務者物件ヲ占有セシムル免狀ヲ要求シタル裁判所ノ管内ニ質入
物件ノ全部在ラサルモ義務者ハ不動産ノ最モ小部分所在ノ地ヲ管
轄スル裁判所ヨリ交付セラレタル免狀ヲ更ニ質入物件ノ全部在ラ
サル裁判所ニ呈出セサルヲ得ス(第九百三十九條參看)

第九百四十八條 交付トハ裁判所ヨリ保證書ヲ付與シタル後(第九百
三十八條參看)別段許可ヲ得タル公證人ノ義務ノ書翰ヲ認メタル時
及ヒ義務ノ書翰ニ記シタル申述ノ裁判所ニ於テ適正ト認知セラレ
タル時ニ要セラレ、而已トス

第九百四十九條 交付シタル後ハ交付證書ハ之ヲ義務ノ書翰ニ附加
シ裁判所長及ヒ書記之ニ姓名ヲ手署シ且裁判官ニ依リ封印セラレ
ル者ナリ

第九百五十條 凡ソ權利者ハ義務ノ書翰ノ成果ニ因テ自ラ辨濟ヲ要

求シ得ルヲ即チ左ノ如シ

第一 若シ義務者辨償ノ要求書ヲ受ケタル後一月内ニ權利者ノ得可キ利息ヲ辨償セサル時

第二 其者三箇ノ期限ヲ怠慢シタル時

第三 其者權利者ノ承諾ヲ受クル無ク質入物件ヲ分配シタル時(第

四百九十四條參看)

第四 質物ノ價低下スルコ因リ擔保ノ足ラサル時(第四百九十三條

參看)拿破崙法典第二千三百三十一條參看)

是等ノ場合ニ於テハ義務者ハ怠留シタル後三箇月ノ期限内ニ義務者
手廻サ、ルヲ得サルナリ

第九百五十一條 何レノ時ヲ論セス義務者ハ悉皆不動産書入質ノ歲

入リ買戻スヲ或ハ少ナクモ借用スルニ非シテ債主權ノ三分一ヲ
買戻スノ策アレハ其三分一ヲ買戻スヲ得可キノ權アリ而シテ權
利者若シ義務者ヲ行フカ爲メ借用セント義務者ヲ疑フ時ハ義務者ノ
宣誓ヲ以テ其借用セサル旨ヲ慥ムルヲ得可シ

第九百五十二條 若シ義務者義務ノ全部若クハ其一部ヲ行ハント欲
スル時ハ書面ヲ以テ權利者ニ義務ノ全部若クハ其一部ヲ三箇月目
ヨ行フ可キ旨ヲ豫メ告知セサルヲ得ス若又權利者之ヲ希望セハ義
務者ハ使吏ヲシテ告知書ヲ權利者ニ渡サ、ルヲ得ス

第九百五十三條 義務ノ辨濟ハ金銀貨幣ヲ以テ之ヲ爲サ、ルヲ得ス
(第七百一條參看)而シテ權利者義務者ヨリ銅貨ニテ辨濟セラル、時
ハ敢テ之ヲ領収スルニ及ハサルナリ

第九百五十四條 若シ義務者義務ノ全部若クハ其一部ヲ辨濟シタル

時ハ權利者ハ其辨濟セラレシ旨ヲ義務ノ書翰ニ記入ス可ク及ヒ第四百九十七條ノ規則ニ依循シ公ケノ簿冊ニ義務辨濟ノ旨ヲ記入セシ書記ニ義務ノ書翰ヲ返戻セサルヲ得ス

第九百五十五條 擔保ノ書翰ニハ左ノ條件ヲ記入セサルヲ得ス

第一 偶然生スル損害ヲ恢復ス可キ償ヲ拂フノ約定

第二 此目的ニ於テ確定シタル金額ノ爲メニ不動産ノ質入

第九百五十六條 擔保ノ書翰ハ義務書翰ノ如ク裁判所ノ許可ヲ得タル後自第九百三十三條至第九百三十九條參看(不動産所在ノ地ノ書

記若クハ其地ノ公證人之ヲ調製セサルヲ得ス而シテ擔保ノ書翰中

ニ記入セラル、申述ヲ確正ト爲サレハ之ヲ調製セシメタル者即

義務其質物ノ交付ヲ要求シタル裁判所長ノ面前ニテ誓詞ヲ宣ヘ以

テ自己ノ申述ヲ確保セサルヲ得ス(第九百四十七條參看)

第九百五十七條 若シ質入ノ書翰ノ舊キ原因若クハ其記載方ノ變易

ノ原因ニテ更改ヲ要スル時ハ義務者己レノ費用ニテ新規ノ證書ヲ

製シ且自カラ誓詞ヲ宣ヘテ之ヲ權利者ニ交付ス可シ抑質入ノ書翰

ヲ更改セシニハ従前ノ書翰ノ金額及ヒ其日附ヲ保存セサル可カラ

スシテ義務者ハ裁判所ニ於テ誓詞ヲ宣ヘ以テ新規ノ書翰ノ適正ヲ

ルヲ確保セサルヲ得ス蓋シ此新規ノ書翰ハ之ヲ公ケノ簿冊ニ登

記ス可シ而シテ従前ノ書翰ハ之ヲ封シテ義務者ニ渡サ、ルヲ得ス

第九百五十八條 若シ權利者斯ノ如キ原因ノ一モ存在スルニ非スシ

テ己レノ證書ヲ更改セント欲スル時ハ總テ費用ハ自己ノ擔任タル

可シ

第十四款 義務 過留法ニ於テハ義務トハ特別契約ヲ云フ

第九百五十九條 權利者家資分散シタル義務者ノ總財産ニ付キ先取

特權ヲ保有セント欲スレハ義務者ハ特別契約ヲ以テ權利者ノ先取
特權ヲ保有セントスル旨ヲ承諾セサルヲ得ス(第七百五十七條及ヒ
第七百六十四條參看)

第九百六十條 特別契約ニハ左ノ如キヲ要トス

- 第一 公證人ニ依リ書記セラル、カ又ハ義務者盡ク自書スル事但
シ第一ノ場合ニテハ其契約タルヤ義務者ノ請求ニ因リ公證人之
ニ姓名ヲ手署セサル可カラヌ(第六百八十七條參看)而シテ第二ノ
場合ハ其契約ハ洗禮洗禮トハ即チ初生ノ兒子ニ
名ヲ附ル所ノ宗教上ノ儀式名及ヒ家名ヲ
概テ用フル義務者之ニ姓名ヲ手署セサル可カラヌ
- 第二 義務ノ原因ヲ指示スル事及ヒ此義務ヲ辨濟スルニ於テハ都
テ義務者ノ家産ヲ質入レヌル事
- 第三 其契約ヲ取結ヒタル年、日及ヒ場所ヲ記載スル事但シ權利者

是等ノ要件ノ二三ヲ欠缺シタル義務ヲ認知スル時ハ何レノ先取
特權ヲモ享有セサルニ至ル可シ

第九百六十一條 義務者己レノ家産ヲ以テ權利者ニ義務ヲ行フニ足
ラナイヲ知了スル時ニ當リ舊權利者ヲ損害シ更ニ特別契約ニ姓名
ヲ記スル如キ場合ニ在テハ義務者ハ恰モ義務ヲ得可キノ證書ニ詐
欺ノ日附ヲ記シタル者ト等キ責ヲ負擔ス可シ(千八百二十二年十二
月二十二日ノ法律第一條參看)

第三卷 犯罪ヨリ生スル損害ヲ償フ事

第九百六十二條 或人ノ身體若クハ其財産ニ加ヘタル損失ハ之ヲ「ド
ンマージ」損害ト去フ又物件ノ尋常ノ融通ニ於テ何人ヲ論セス自カラ
所有セル利益ヲ侵奪サル、妨害ヨリ生スル損失ハ之ヲ「ガエゾ、アン
ペーシェー」即チ妨害利益ト云フ

第九百六十三條 故意ノ所行若クハ法律ニ背戻スル所行ニ因リ他人

ノ損失ヲ醸シタル者ハ縱令己レノ方ヨリ付キ惡意有ラサル時又己レ

ノ事務ヲ管理スル爲メノ注意ヲ用非スト雖モ罰セラル可シ

第九百六十四條 苟モ過失ニ因リ他人ニ損失ヲ加ヘタル者ハ他人ニ

損失ノ償ヲ爲サルヲ得ス之ヲ詳言スレハ損失ヲ加ヘタル者ハ物

件ヲ最初ノ景狀ニ回復セサルヲ得ス若シ能ス可キ時ハ傷害シタル

人オモ償還セサルヲ得サルナリ(拿破崙法典第千三百八十二條參看)

第九百六十五條 損害ヲ起シタル本人若シ惡意ヲ以テセシ時ハ損害

ヲ充分償ハサルヲ得ス之ヲ詳言スレハ唯損害(第九百六十四條參看)

而已ナラス尙ホ妨害セラレタル利益(第九百六十二條參看)及ヒ所望

ノ代價(第三百四十七條參看)ノ計算ヲ立テサルヲ得ス

第九百六十六條 又傷害ヲ加ヘタル損害ノ賠償ハ病患ニ付テノ諸費

用受ケタル疼痛事業ノ中絶及ヒ之カ爲メ將來發生ス可キ不能力ニ

充ル義務ナリ然ルモ若シ疵傷ノ爲メニ死ニ至ラシメタル時ハ損害

ヲ加ヘタル者ハ死亡者ノ養育ス可キノ義務アル者ニ償ヲ與ヘタル

ヲ得ス

第九百六十七條 若シ損害ヲ醸シタル本人數名アル時ハ縱令裁判所

ニ於テ平等ノ部分ヲ以テ數名ノ者ヲ處罰スト雖モ矢張り連帶シテ

損害ヲ賠償セサルヲ得ス而シテ數名中ノ一人盡ク損害ヲ賠償シタ

ル場合ハ爾餘ノ者ノ償ハサル可カラサル部分ニ付キ被傷者ノ諸般

ノ訴權ヲ行フヲ得可シ

第九百六十八條 損害ヲ受ケシ者自カラ犯罪ヲ手傳フ即チ自己ノ過

失ニ因リ損害ヲ加重セシ時ハ過失ニ割合ヒ以テ損害ヲ負荷セサル

ヲ得ス又若シ過失ヲ評價シ能ハサル時ハ損害ヲ醸シタル本人ト共

四四三

其半ヲ負擔セサルヲ得サルナリ

第九百六十九條 故意ニ非スシテ損害ヲ醸シタル者己レノ過失ニ因

テ道理ヲ奪ハレタル景狀又ハ過失ヲ爲サシメタル景狀ニ於ケル時

ト雖モ損害ノ責ニ任ス可シ(拿破崙法典第千三百八十三條參看)

第九百七十條 惡意ニ因リ或人ヲ斯ノ如キ景狀ニ陷レタル者ハ此景

狀ノ成果ニ因リ或人ニ醸シタル損害ノ責ニ任ス可シ

第九百七十一條 未タ分別ヲ爲シ得可キ年齢ニ達セサル子又ハ白癡

者己レノ憤動セシメレニ因ルカ又ハ過失ニ因ルト主唱セサル或人

ニ損害ヲ加ヘタル時ハ子及ヒ白癡者ヲ監督ス可キ任ヲ受ケタル者

己レノ懈怠ニ因リ損害ヲ生セシメタル時ハ其責ニ任ス可シ若シ過

失ニ非サル時ハ損害ハ偶生ノ場合ノ如ク之ヲ看做ス可キナリ(拿破

崙法典第千三百八十四條參看)

第九百七十二條 或人ノ身體若クハ其財産ニ獸類ノ損害ヲ加ヘタル

時ハ之ヲ憤怒セシメタル者又ハ宜ク之ヲ管守セサル者損害ノ責ニ

任ス可シ若シ獸類ヲ憤怒セシカ又ハ之ヲ管守セサルノ過失ニ非サ

ル時ハ損害ハ偶生ノ場合ノ如ク之ヲ看做ス可キナリ(拿破崙法典第

千三百八十五條參看)

第九百七十三條 本條ハ恰モ拿破崙法典第千三百八十六條ノ如シ

第九百七十四條 若シ窓ヨリ墮落セル物ニ因リ或人ニ傷害ヲ加ヘタ

ル時ハ物ノ墮落シタル房室ヲ占領スル者此傷害ノ責ニ任ス可シ但

シ被害者損害ヲ起シタル本人ニ向ヒ要償ヲ得ント訴フル時ハ格別

トス

五四三

第九百七十五條 偶然ノ結果ニ因リ起生シタル災害ハ何レノ損害賠

償オモ生セサルナリ但シ或人ノ過失ニ因リ損害ヲ起シタル場合ハ

格別トス蓋シ此人其責ニ任ヌ可ケレハナリ

第四卷 權利義務ノ更改及ヒ其消滅

第一款 更改

第九百七十六條 權利及ヒ義務ハ其目的物ニ付キ又ハ人ニ付キテハ之ニ關係シタル者ノ相互ノ承諾ヲ以テ變更ヲ受ク可シ即チ新規ノ義務ヲ以テ舊義務ニ代替セントスル時ハ是レ目的物ノ變更ナリ又新規ノ權利者舊權利者ニ代ル時若クハ新規ノ義務者舊義務者ニ代ル時ハ是レ人ノ變更ナル可シ(拿破崙法典第一千二百七十一條參看)

第九百七十七條 義務ノ目的物ノ變更ハ更改契約ヲ以テ之ヲ爲ス可シ又有効タルノ更改ニ依リテ舊義務ヲ廢止ス可シ又ハ舊義務ノ有効ナラサル託言ニ根據シ攻撃ヲ受ク可カラサル所ノ新規ノ義務ニ依リテ舊義務ニ代ル可キ者トス若シ之ニ反シテ新規ノ合意ノ無効

ヲ致ス可キ時ハ舊合意ハ依然存ス可シ

第九百七十八條 更改トハ舊義務ニ附加シタル都テノ要件及ヒ都テノ例外法ヲシテ雙方者ノ承諾ヲ以テ新規ノ義務ニ附加セシメタル時ハ其要件並ニ例外法共消滅ス可キヲ云フ

第九百七十九條 唯義務ノ要件而已チ變更セシ時ハ之ヲ更改ト云フ可カラズ今例ヲ舉ケンニ利息ヲ約定スル事又ハ拂期日及ヒ執行ノ方法ヲ變易スル事はナリ夫レ斯ノ如キ要件タルヤ之ヲ承諾セサル者ノ義務ニ何事アリトモ附加スルヲ得ス

第九百八十條 義務ヲ得可キ權利讓渡ノ成果ニ因リ權利者自身ニ對スル權利ノ變更スルコトアリ又ハ義務者自己ニ他人ヲ代ハラシムルノ成果ニ因リ義務者自身ニ對スル義務ノ變更スルコト有ル可シ

第九百八十一條 權利者己レノ債主權ヲ他ニ移ス時ハ即チ權利ノ讓

渡ナリ而シテ義務者權利讓渡ヲ知了セサルハ從前ノ權利者ニ有効
 ニ義務ヲ盡スヲ得可シ(第四百九十七條參看)然ルモ義務者權利讓渡
 ノ告知ヲ得タル日ヨリ最早有効ニ義務ヲ盡スヲ得ス若シ義務者新
 規ノ權利者ノ爲メ義務ヲ得可キノ權ヲ適法ト認知シタル時ハ此者
 ニ義務ヲ盡サ、ルヲ得ス又曩ニ此者ニ故障ヲ述ヘ得可キノ抵拒法
 ナ以テ最早拒ムコトヲ得ス(第七百八條參看)拿破崙法典第一千六百九十
 一條參看)

第九百八十二條 書入質ニ因リ擔保セラレタル義務ヲ得可キ權ノ讓
 渡ヲ受ケタル者ハ公ケノ簿冊ニ讓渡ノ旨ヲ登記セシメサルヲ得ス
 故ニ此法式ノ履踐ヲ遺忘シタルマ後其者或ル損害ヲ蒙ムル時何人
 ニ對スルモ訴訟スルヲ得ス

第九百八十三條 義務者己レノ義務辨濟ヲ要求ス可キノ第三ノ人ヲ

權利者ニ指示スルハ取りモ直サス義務者自己ニ代ヘテ更ニ義務者
 ナ權利者ニ指示スルニアリ

第九百八十四條 外人ノ義務者ニ代リ權利者ニ對シテ己レ自カラ義
 務者ト爲ル時ハ權利者ノ方ニ付テハ舊義務者ノ位地ヲ占ムル新規
 ノ義務者ノ承諾ヲ要ム可シ又新規ノ義務者ノ方ニ付テハ行フ可キ
 義務ヲ認知セシコトヲ要ム可シ

第九百八十五條 代ラシメタル者即チ舊義務者ヲ云フ權利者ヨリ外人即チ新
 規ノ義務者ノ義務辨濟ヲ承諾セラレシ旨ヲ表明スルニ至ラハ即チ自己
 ニ代リテ外人ノ權利者ニ對シ義務者ト全ク成リシテ證ヌ可キ者トス
 第九百八十六條 外人ノ義務者ニ代リ權利者ニ對シ自カラ義務者ト
 爲ルノ完全タル可キ時ハ代ラシメタル者ハ恰モ自カラ義務ヲ竭シ
 タルカ如ク權利者ニ對シ其責ヲ免ル可シ

第九百八十七條 若シ外人ノ義務者ニ代リ權利者ニ對シ自カラ義務者ト爲ルノ不完全タル可キ時ハ是事タル義務者第三ノ人ヲ以テ自己ノ義務ヲ竭サシムルノ申陳ヲ權利者ニ爲シタル如ク看做サル可シ然ル時ハ代ラシメタル者ハ第三ノ人ヨリ權利者ニ義務ヲ盡シタルニ非サレハ其責ヲ免レサル者タリ

第九百八十八條 指定セラレタル第三ノ人若シ自カラ代テ義務ヲ盡サントスル者ノ義務者ナル時ハ必ス其自カラ義務ヲ負フタル者ノ金額ニ至ル迄代テ義務ヲ竭ス可キ旨ヲ承諾セサルヲ得ス而シテ其第三ノ人若シ之ヲ承諾セサル時又ハ代テ義務ヲ竭ス可キ旨ヲ承諾シタル金額ヲ拂期日ニ至リ辨濟セサル時ハ損害ノ責ニ任ス可シ

第九百八十九條 若夫第三ノ人義務者ノ爲メ代テ義務ヲ竭ス可キ旨ヲ承諾シタル時ハ權利者ニ對シテ義務ヲ負フ可シ又代ラシメタル

者ニ對シテハ義務ノ高ヲ辨濟ス可キ義務ヲ負フ可シ而シテ既ニ義務ヲ辨濟シタル後第三ノ人ハ其指定セラレタル者ニ負フタル義務ヨリ以上ヲ辨濟シタル場合ハ指定者ニ對シ之ヲ請求スルヲ得

第九百九十條 既ニ承諾セラレタル義務者ニ代リ義務辨濟ヲ爲サ、ルヲ得サル第三ノ人權利者ニ對シ義務ヲ辨濟ス可キ所爲ハ被代者之ヲ廢止スルヲ得ヌ又義務者ニ代リ義務ヲ辨濟ス可キ所爲ヲ約シタル第三ノ人ハ義務辨濟ヲ拒ムヲ得ス

第九百九十一條 若シ權利者義務者自己ニ代ヘ第三ノ人ヲシテ義務ヲ辨濟セシム可キ委託ヲ諾スルヲ希望セサル時(第九百八十七條參看)或ハ若シ義務者ヨリ指定セラレシ者即チ第三ノ人ヲ云フ自カラ義務ヲ辨濟ス可キ委託ヲ約スルヲ欲セサル時ハ權利者ハ即時ニ代理ヲ委託シタル者即チ義務者ヲ云フニ代理ノ委託ヲ却下セサルヲ得ス然ラサレハ該

權利者ハ之ヨリ生シ得可キ損害ノ責ニ任ス可シ

第九百九十二條 又若シ權利者義務者自己ニ代ヘ第三ノ人ヲシテ義務ヲ辨濟セシム可キ委託ヲ承諾シタル時及ヒ義務者ヨリ指定セラレタル者自カラ義務ヲ辨濟ス可キ委託ヲ約セシ時ハ權利者ハ義務ヲ辨濟ノ期日ニ至ルモ之ヲ爲サレハ第三ノ人ヲシテ義務ヲ辨濟セシム可キ委託ヲ爲シタル者ニ第三ノ人カ代テ義務ヲ辨濟ス可キ委託ヲ八日ノ期限内ニ却下セサルヲ得ス然ラサレハ該權利者ハ之ヨリ生シ得可キ損害ノ責ニ任ス可シ

第九百九十三條 不動産ヲ抵當トシテ借シタル金額又ハ其他ノ義務ヲ賣價ト共ニ辨濟ス可キ不動産ノ賣主ヨリ買主ニ與フル代理證書ハ買主之ヲ承諾セハ執行ス可キ義務タル可シ然レモ賣主自己ノ代ニ新規ノ義務者ヲ權利者ヨリ適法ニ承諾シタルヲ證セカレハ

買主ハ賣主ノ權利者ニ對スル其自己ニ屬スル義務ヨリ賣主ヲシテ

免脱セシメサル者トス

第九百九十四條 賣主義務ヲ辨濟スルニ付キテ權利者ニ買主タルノ任荷ヲ與ヘシ時該權利者若シ舊義務者ノ位地ヲ占ムル新規ノ義務者ノ爲メ法式ニ從ヒ元金ノ利息若クハ元金ノ一部分ヲ收受スルニ非スシテ只賣主ヨリ之ヲ收受セシ而已ナル時ハ賣主ハ權利者ニ依テ領收セラレタル金額丈ケノ義務ヲ免ル可シ

第九百九十五條 不動産ノ賣主既ニ簿冊ニ登記セラレタル書入質權ヲ有スル權利者等ヨリ爾餘ノ書入質權ヲ有スル權利者等ニ賣價ト共ニ義務ヲ辨濟ス可キノ買主タルノ任荷ヲ與フルニ付テハ何レノ場合ヲ論セス是等ノ權利者ハ自己ノ姓名及ヒ日附ト共ニ義務ヲ得可キノ證書ヲ返還セサルヲ得ヌ而シテ賣主モ亦第九百九十三條ニ

云フ所ノ代理ノ委託ヲ承諾シタル各權利者ニ代理ヲ委託シタル
及ヒ之ニ付キ買主ノ承諾シタルコトヲ記入ス可キ契約書ノ摘撮書ヲ
送致セサルヲ得サルナリ蓋シ此摘撮書ハ契約書ヲ調製シタル者之
ニ姓名手署ヲ要トシ又裁判官ハ之ニ封印ヲ爲サ、ルヲ得ス(第六百
八十九條參看)而シテ同一ノ書入質權ヲ得可キ權ノ爲メ義務辨濟セ
ント一致シタル數名ノ代理人ハ同一ノ等級ヲ有ス可シ但シ雙方本
人間ニ反對ノ合意アル時ハ格別トス

第二款 權利及ヒ義務ノ消滅

第九百九十六條 諸般ノ權利及ヒ諸般ノ義務ハ左ノ數件ニ因テ終ル

可シ

第一 義務辨濟スル事

第二 義務相殺スル事

第三 義務ノ釋放スル事

第四 權利義務渾同スル事

第五 物件ノ滅失スル事

第六 死亡ノ事

第七 約定期限ノ終了スル事

但シ此等ノ事ハ次條ニ於テ余輩將ニ之ヲ説明セントス(拿破崙法典

第一千二百三十四條參看)

第九百九十七條 義務者ニ因リテ要セラレタル供給ヲ義務辨濟ト云

ヒ又此語タルノ意ヲ狭ク用ユル時ハ金銀ノ額ヲ供給スルコトヲ云フ

第九百九十八條 權利者ハ己レニ渡サル、者ヨリ以上ヲ敢テ領收ス

ルニ及ハス義務者ニ於ケルモ亦其渡ス可キ者ヨリ以上ヲ辨濟スル

ニ及ハサル者トス蓋シ此條件タルヤ亦義務ヲ辨濟スル時間場所及

ヒ其辨濟ノ方法ニ因テ伸張セラル可シ

第九百九十九條 若夫義務ヲ執行ス可キ爲メ何レノ期限アリモ定メ

無キ時ハ義務ハ權利者ヨリ義務辨濟ヲ請求スルカ又ハ義務者義務

ヲ辨濟セント要求スル時ニ執行セラル、者トス(第七百一條第七百

六十四條第九百五十條第九百五十二條參看)

第一千條 若シ權利者約定シタル方法ニ從ヒ時期場所ニ於テ自己ニ提

供セラル、辨濟ヲ領收スルコトヲ辭避スレハ義務者ハ權利者ニ渡ス

可キ物件ヲ裁判官ノ掌中ニ附託ス可キノ權ヲ有ス可ク又其物件ヲ

運搬シ能ハサル時ハ監守人ヲ指命セシメテ裁判官ニ要求ス可キノ

權ヲ有ス可シ(拿破崙法典第一千二百五十七條參看)

第一千一條 義務者其渡ス可キ物件ヲ裁判官ニ引渡サント欲スルハ是

レ蓋シ權利者之ヲ領收スルヲ辭避スルカ爲メナリ故ニ義務者ヨリ

告知ノ二十四時間ニ權利者物件ヲ領收スルコト及ヒ物件ノ領收書ヲ

渡スコトヲ欲セサルヤ否ヲ義務者ニ陳述セサレハ義務者ハ裁判官ノ

掌中ニ物件ヲ渡ス可キ旨ヲ豫メ權利者ニ報道セサルヲ得ス

第一千二條 若シ權利者前條ノ期限内ニ辨濟ヲ請取ラサレハ義務者ハ

裁判官若シハ裁判官ノ指名セシム人ニ辨濟ヲ爲ス可シ但シ裁判官ハ

義務者ニ預收書ヲ渡サ、ルヲ得ス

第一千三條 第一千一條ニ云フ所ノ期限了リテ後義務者裁判官ニ辨濟ヲ

爲スニ於テハ此辨濟タルヤ恰モ義務者ヨリ權利者ニ辨濟ヲ提供シ

タル日ニ爲セシカ如ク之ヲ看做サ、ルヲ得ス

第一千四條 義務者ハ裁判官若シハ裁判官ノ指名セシム人ニ物件ヲ附託

シタル時ハ其義務ヲ免ル可シ而シテ該物件ハ都テ權利者之ヲ己レ

ニ擔當ス可シ又利息ヲ要スル時ハ之ヲ止息ス可シ但シ權利者辨濟

ノ提供ヲ已レニ不適法ニ爲サレシ旨ヲ證スル時ハ格別トス(第千六條參看(拿破崙法典第二千二百五十七條參看))

第千五條 義務者ハ權利者ノ許諾ヲ受クル無ク其附託シタル物件ヲ取戻ヌコトヲ得ス又權利者ニ於テ附託シタル物件ヲ取戻サント欲スレハ裁判官ハ權利者ヲシテ領收書ヲ渡サシメサルヲ得ス抑何レノ時機ヲ問ハヌ裁判官ニ附託シタル物件ヲ請取ル可キ者ハ稅則ニ定メタル附託費用ヲ拂ハサルヲ得サル者ナリ

第千六條 權利者ハ義務者ヨリ辨濟ノ提供ヲ不適法ニ爲サレシ旨ヲ證セント欲セハ(第千一條參看)附託ヲ爲セシ日時ノ一年內ニ辨濟ヲ請取リシ裁判官ニ哀訴シ因テ以テ其己レニ附託ノ物件ヲ渡サレンコトヲ要求セサルヲ得ス蓋シ此事務タルヤ簡易ニ之ヲ取扱フナラシメ第千七條 裁判所ニ於テ權利者ノ哀訴ヲ條理ニ適シタル者ト推考セ

ハ即チ該裁判所ハ附託ニ依リ釀生シタル都テノ損害ヲ權利者ニ辨償ス可ク義務者ヲ處罰ス之ニ反スル場合ニ於テハ該裁判所ハ同權利者ヲ處罰ス可シ

第千八條 辨濟ス可キ義務者ハ權利者ヨリ領收書ヲ請取ル可キ權利者有テ蓋シ此領收書ハ書入質義務ニ關スル時ハ公ケノ簿冊ニ之ヲ登記スルナラシメ(第四百九十七條參看)而ルモ若シ義務ヲ完済セシ時又ハ權利者其他ノ權利ヲ證セン爲メニ證書ヲ用ヒ能ハサル時ハ該權利者ハ義務者ニ此證書ヲ返戻セサルヲ得ス或ハ若シ返戻ヲ要セサル時亦公ケノ簿冊ニ領收書ヲ登記スルコトヲ得ス

第千九條 資本ノ領收書ハ義務者カ利息及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟セシ旨ヲ推測セシム可キナリ

第千十條 權利者義務者ヨリ辨濟ヲ請取ラサル以前ニ領收書ヲ渡シ

タル時ハ三十日ノ期限間ニ此領收書ヲ取戻サント義務者ニ要求スルヲ得

第一千一條 若シ權利者其義務ヲ得可キノ證書ヲ紛失セシ時ハ辨濟ヲ爲シタル義務者ハ權利者ノ費用ニテ該證書ヲ強ヒテ廢棄セシメ且廢棄ヲ遂ケタル時迄業已ニ辨濟ヲ盡シタルノ證人ヲ權利者ヲシテ強ヒテ立テシムルヲ得可シ

第一千二條 單一ナル義務ヲ得可キノ證書或ハ權利者ノ名義ヲ以テ公ケノ簿冊ニ記入シタル書入質權ノ證書ヲ廢棄セシメハ權利者ハ必シモ裁判官ノ許可ヲ得テ義務ノ辨濟及ヒ義務ヲ得可キノ證書或ハ書入質權ノ證書ノ廢棄ノ旨ヲ公用新聞ニ記入ス可シ然ル時ハ義務ハ公ケノ簿冊ニ付キテ塗抹セラル可シ

第一千三條 本條ハ恰モ拿破崙法典第一千三百七十七條ノ如シ

第一千四條 夫レ義務ノ相殺トハ雙方ノ結約者之ヲ約シタル時ニ非サレハ行ハレサル者トス但シ雙方ノ結約者間ニ未決計算書ノ存在スル時ハ格別トス然ル時ハ義務ノ相殺ヲ行ハサルヲ得ス(拿破崙法典第一千二百九十條ト相異セリ)

第一千五條 義務者權利者ヨリ辨濟ヲ要求セラル、コ當リ前條ノ場合ニ於ケル旨又ハ既ニ義務ノ一部分ヲ盡シタル旨ヲ證スルヲ能ハサル時ハ義務者ハ縱令權利者ニ向ヒ義務ヲ得可キノ證書ヲ有スルト雖モ權利者ヨリ強ヒテ之ヲ履行セラル可シ

第一千六條 若シ二人共ニ未決計算書ヲ有スルト雖モ計算書ノ成果ニ付キ和合一致セサル時ハ二人ハ其各ノ面前ニテ計算書ヲ取扱フ可キノ鑒定人ヲ指命セシメテ裁判官ニ要求スルヲ得可シ

第一千七條 都テ鑒定人タル者ハ勉メテ雙方ノ結約者ヲ和解スルナ

ル可ク且其雙方ノ託言ヲ扶助トスル證書ヲ宜ク考察スルナラン然
リ而シテ若シ雙方ノ結約者其一方ノ要求ニ應シ裁判官ノ定ムル所
タル可キ可成的短縮ノ期限内ニ計算書ノ事ニ付キ共ニ理會セサル
時ハ鑒定人ハ計算ノ決定書ヲ調製スルナラン

第千十八條 一方本人己ノ計算書ノ成果ニ因テ他一方本人ノ權利
者ナリト自信セハ裁判所ニ該本人ヲ呼喚スルヲ得而シテ一方本人
ハ他一方本人ノ辨濟セト請求スル債主權ヲ此者ノ認知セントシ
要求スルヲ得可シ然リ而シテ鑒定人ノ作為スル所ナル計算書ヲ閉
鎖センニハ是非共要求書ヲ誘伴セサルヲ得ス

第千十九條 裁判所ハ此ノ如キ事件ニ關シテ雙方本人ノ要求スル所
及ヒ鑒定人ノ述フル所ニモ亦依循スルヲ得サル者ニシテ唯事實ノ
證據ニ從ハサルヲ得ス故ニ該裁判所ハ雙方本人中一方而已ノ要求

ニ因リテ他一方ノ計算書中ニ不正ニ記入シアル債主權ヲ許スヲ拒
ムトシ得可シ

第千二十條 若夫雙方本人相互ニ一致シ以テ計算書ヲ決定シ義務者
書面ニテ之ヲ認知シタル時カ又ハ裁判所ニ於テ計算書ヲ決定シタ
ル時ハ義務者ハ訴訟法第三百三十七條ニ云フ所ニ循ヒ義務ヲ竭サ
ルヲ得ス又權利者モ該條ニ云フ所ニ循ヒ辨濟ヲ要求シ得可キハ
勿論タリ然レモ雙方本人ハ期滿得免ノ通常期限間ニ缺點又ハ違算
ニ付キテハ計算書ヲ決定シタル裁判官ニ自己等ノ諸權利ヲ傷害ス
ルト思意スル事柄ニ於ケル裁判言渡ノ更改修正ヲ要求スルヲ得可
シ

第千二十一條 權利者ハ義務者ニ其義務ノ釋放ヲ爲スヲ得可キカ故
ニ自己ノ權利ヲ拋棄スルヲ得可シ

第一千二十二條 互ニ管關スル權利及ヒ義務カ同人ニ集合セラル、時
ハ權利義務俱ニ消滅ス可シ又義務ヲ公ケノ簿冊ニ登記スル時ハ權
利義務ノ渾同ハ消滅ノ一理由ノ如ク見做サル、ニ過キテ而ルモ消
滅ハ其理由ヲ公ケノ簿冊ニ記載シタルニ非サレハ第三ノ人ノ爲メ
ニハ其効ヲ及サ、ル者トス(第四百九十七條參看)(拿破崙法典第一千三
百條參看)

第一千二十三條 義務ノ目的タル確定セシ物件ノ全部ノ滅失及ヒ變災
ニ因リ此滅失又ハ辨濟ヲ爲スヲ能ハサルハ即チ義務者損害賠償ノ
責ニ任スルニ非スシテ義務ノ消滅ヲ致ス可シ但シ義務者ノ怠留ス
ル時又ハ其約定時期ニ辨濟ヲ爲セハ變災ヲ防止シ能フ可キ時ハ格
別トス而シテ又質入レシタル物件ノ滅失ハ該物件ヲ質入レトシタ
ル義務ノ消滅ヲ致サ、ル者トス(拿破崙法典第一千三百二條參看)

第一千二十四條 義務者權利者ヨリ滅失セシ物件ト齊キ物件ヲ請取リ
シ時ハ之カ爲メ義務者ハ權利者ヲ善良ノ占有者ノ如ク熟考セサル
ヲ得ス

第一千二十五條 義務者其義務ヲ免レンカ爲メ變災ヲ引證センニハ其
證據ヲ立テサルヲ得ス(拿破崙法典第一千三百二條參看)

第一千二十六條 權利者ノ死亡ハ此者ノ一身ニ固着スル諸權利ヲ消滅
ス可シ又義務者ノ死亡ハ此者ノ一身ニ固着スル諸義務ヲ消滅ス可
キナリ

第一千二十七條 時期ノ終了ハ或ル時期ノ爲メニ獲得シタル諸權利及
ヒ約定シタル諸義務ヲ消滅ス可シ

第四款 獲得ス可キ期滿得免及ヒ消滅ス可キ期滿得免
第一千二十八條 占有ニ因テ物件ノ全部若シハ其一部ヲ得ルヲ獲得ス

可キ期滿得免ト云ヒ又現ニ他人ノ使用スル物件ニ付テノ物權ヲ得ルオモ獲得ス可キ期滿得免ト云フ而シテ消滅ス可キ期滿得免トハ權利ヲ行フコトヲ怠リ及ヒ之ヲ他人ニ移サ、ルコト因テ權利ノ消滅スルヲ云フ(拿破崙法典第二千二百十九條參看)

第千二十九條 都テ民權ハ獲得ス可キ期滿得免ニ因テ之ヲ得又消滅ス可キ期滿得免ニ因テ之ヲ失フ可シ蓋シ此等ノ期滿得免ハ一モ各人ノ身分ニ付テノ轉移ス可カラサル諸權利、政府ノ諸權利、共同物(第三百三十五條參看)諸侯ノ領地ニ課スル稅百分一ノ稅及ヒ十分一ノ稅(第三百九十四條參看)第三百三十九條ニ云フ所ニ依リ獲得ス可キ地役、不動産ニ定メタル地役ノ免除(第四百五十三條參看)人ノ專恣自由ニ關スル行爲等ノ如キ者ニハ要セサル者ナリ

第千三十條 期滿得免ニ因テ物件ヲ得ント欲スル者ハ法律ニ依リ要

セラレタル期間適法ニ且善意ニテ物件ヲ占有セサルヲ得ス(第千三十三條參看)拿破崙法典第二千二百二十九條參看)而シテ不動産物ナル時ハ其者ハ占有權ヲ移サシメサルヲ得ス又曲取シタル物件ハ之ヲ竊取サレシ者ノ掌中ニ戻ラサル以上ハ該物件ヲ期滿得免ニ因テ獲得スルヲ得ス(第四百十一條參看)

第千三十一條 都テ物權ハ無使用ニ因テ之ヲ失フ可カラス但シ第三ノ人已レニ物權ヲ占有セルカ(第千二十八條參看)又ハ第三ノ人物權ヲ享有ス可ク任セシ者ヲ防止セシ時ハ格別トス蓋シ斯ノ如キ場合ニ於テハ物件ノ自由ナル使用ノ占有權ヲ占ムル者ハ其占有スル日ヨリ初メテ期滿得免ヲ起算ス可シ

第千三十二條 從前ノ占有者不適法ニ占有スト雖モ第四百十一條ニ云フ所ノ場合ニ非サレハ其相續人ニ期滿得免ニ依テ物件ノ獲得ヲ

妨ケサル者ナリ然レモ從前ノ占有者ノ占有ハ其相續人ノ爲メ之ヲ算ス可カラヌ

第一千三十三條 期滿得免ニ因テ物件又ハ權利ヲ獲得センカ爲メ缺ク可カラサル期限ハ十年トス此期限ハ日々之ヲ算セサルヲ得サル者ニシテ最終ノ日ニ至テ了ル可シ(第一千四十四條參看(拿破崙法典第二千二百六十二條ト相異セリ))

第一千三十四條 期滿得免ノ目的タル物件ノ所有者ノ失踪ニ付テハ失踪ノ滿一年ヲ繼續セシカ又ハ所有者己レカ縣外ニ滯留セシカ否ヲ能ク考察ス可シ蓋シ期滿得免ノ期限ノ算計ニ於テハ一年ハ只之ヲ六月トシテ算フルニ過キヌ

第一千三十五條 第二十四條ニ云フ如ク有益ナル目的ニテ國、邑、會社又ハ後見ヲ受ケタル者ニ屬スル期滿得免ニ依リ得可キ都テノ物件ハ

二十年ノ期限ニ因ルニ非サレハ期滿得免ニ依テ獲得セラレサルナリ然ルモ若シ此期限間ニ後見ヲ受ケタル者自己一身ノ諸權利ヲ獲得シタル時ハ此者ハ後見ヲ受ケタル期限中ハ恰モ失踪者ノ如ク見做サル者トス(第一千三十四條參看)

第一千三十六條 人權ハ十年ノ期限間之ヲ占有スル者之ヲ行ハサル時カ又ハ此者ニ從ハル者之ヲ認知セサル時ハ期滿得免ニ依テ消滅ス可シ

第一千三十七條 期滿得免ハ十年間有利息ノ義務ノ辨濟ヲ權利者ヨリ請求セサル時或ハ義務者利息ヲ拂フモ義務ヲ認知セサル時或ハ其他總テノ方法ニ付キ有利息ノ義務ニ對シ要セラル者トス而シテ又既ニ拂期日ニ至リシ義務及ヒ無利息ノ義務ニ對スルモ右ニ同シカル可シ

第一千三十八條 義務者期滿得免ニ依テ消滅シタル義務ヲ辨濟セシモ其辨濟シタル物ヲ取返スヲ得ズ

第一千三十九條 公ケノ簿冊ニ登記セシ不動産ノ書入質ノ債主權及ヒ該簿冊上塗抹セサル債主權及ヒ權利者自己ノ掌中ニ在ル動産ノ質入レノ債主權ハ權利者其義務者ノ家資分散ニ於ケル時公正ノ目錄ニ是等ノ債主權ヲ記入ス可キヲ怠慢セシ而已ニ因テ期滿得免ヲ得可シ然レモ書記自カラノ過失ニ依テ第六百五十七條ニ明記シタル指示ヲ記入セサレハ權利者書記ニ向ヒ要償ノ訴ヲ爲スヲ得可シ

第一千四十條 確定シタル期限ニ辨濟セサルヲ得サル既ニ拂期日ニ至リシ義務及ヒ各種ノ利息ハ通常期限ニ因テ期滿得免ヲ得可シ(第一千三十六條參看)而シテ辨濟若クハ利息ヲ要ムルノ權ハ全ク期滿得免ニ依テ之ヲ失フヲ無ク又十年ノ期限ノ終了ニ因テ期滿得免ヲ得ル

「無キ時ト雖モ亦然リ、而シテ義務者權利者ヨリ命セラレシ利息ヲ負擔ス可キ書面ヲ認知スルニ非サルモ之ヲ以テ利息ヲ認知シタル時ハ第三ノ入ハ決シテ該利息ヲ荷ンテ要セサル者タリ

第一千四十一條 權利者等ノ間ニ其債主權ノ順序ヲ裁判言渡ニ依リ立テサル時ハ未ダ封印ヲ除去セサル家資分散ヲ爲シタル義務者ニ對シ債主權ヲ期滿得免ニ因テ失フヲ無カル可シ又裁判所ニ訴出ス可カラサル諸般ノ債主權ニ於ケルモ亦然リ

第一千四十二條 失踪者、國道徳上ノ者及ヒ後見ヲ受ケタル者ノ爲メ獲得ス可キ期滿得免ノ事ニ係ル第一千三十四條及ヒ第一千三十五條ニ云フ所ノ規則ハ是等ノ者ノ權利ノ消滅ス可キ期滿得免ノ事ニ之ヲ當用ス可シ

第一千四十三條 第一千三十六條ニ云フ所ノ期滿得免ヨリ一層短縮ナル

期滿得免ニ關スル時ハ此法典ノ諸部分中ニ明記セル特別ノ規則ニ
循フ可シ

第千四十四條 獲得ス可キ期滿得免及ヒ消滅ス可キ期滿得免ハ左件
ニ因テ切斷セラル可シ

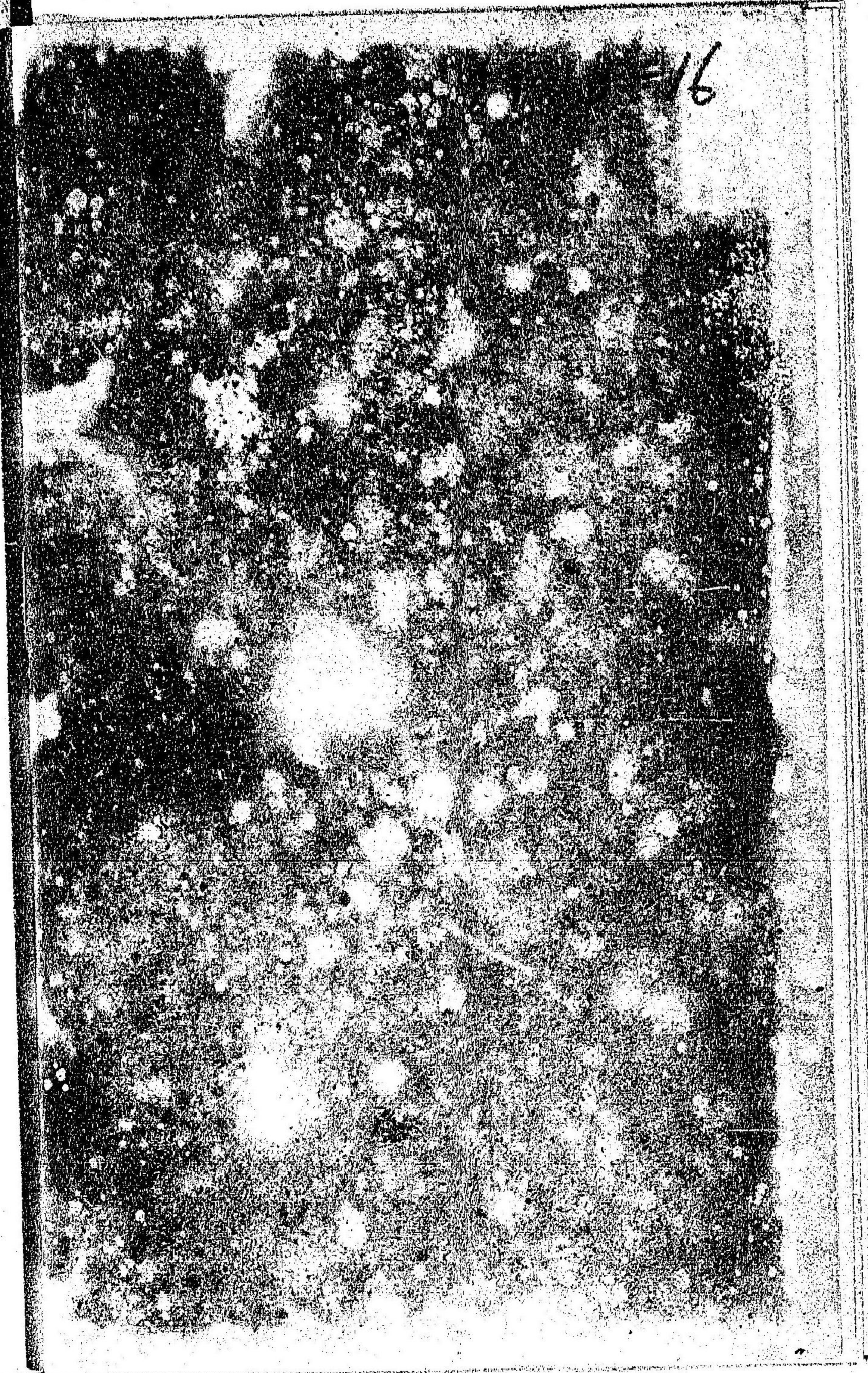
第一 認知無ケレハ期滿得免ヲ言立テ得可キ者ノ方ニ付キ權利ヲ
明許又ハ默許ニ認知シタル事(拿破崙法典第二千二百四十八條參
看)

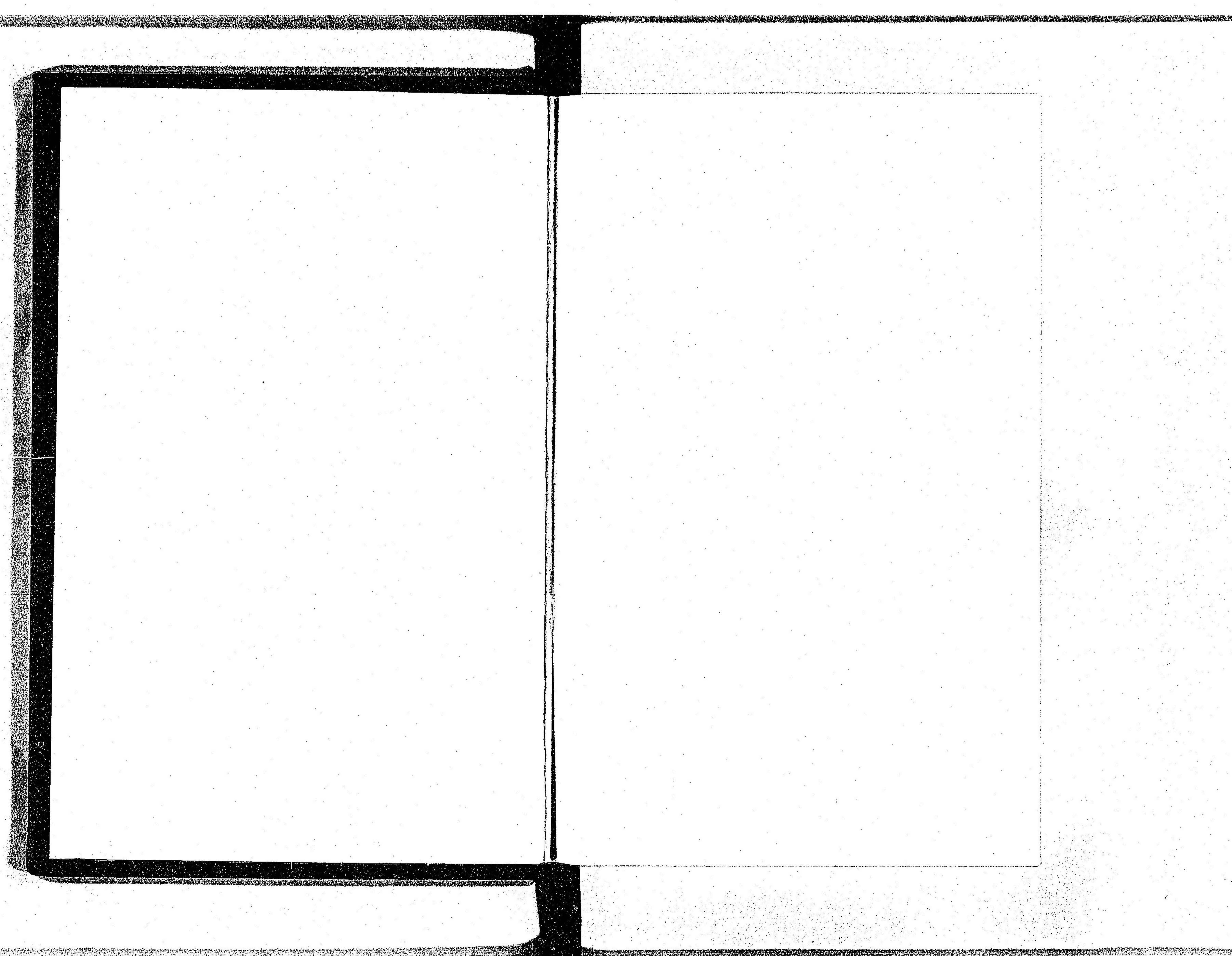
第二 代權者ヨリ訴訟ヲ起シタル事但シ亦於是義務ニ關スル時ノ
辨濟ノ要求ヲ理解セサルヲ得ヌ(拿破崙法典第二千二百四十四條
參看)而シテ期滿得免ノ喪失無ケレハ期滿得免ヲ言立テ得可キ者
ノ方ニ付キ占有權ノ喪失ニ因テ切斷セラル可シ又此者最モ遅ク
占有權ヲ有スル時ハ期滿得免ハ更ニ之ヲ開始セサルヲ得ヌ(拿破

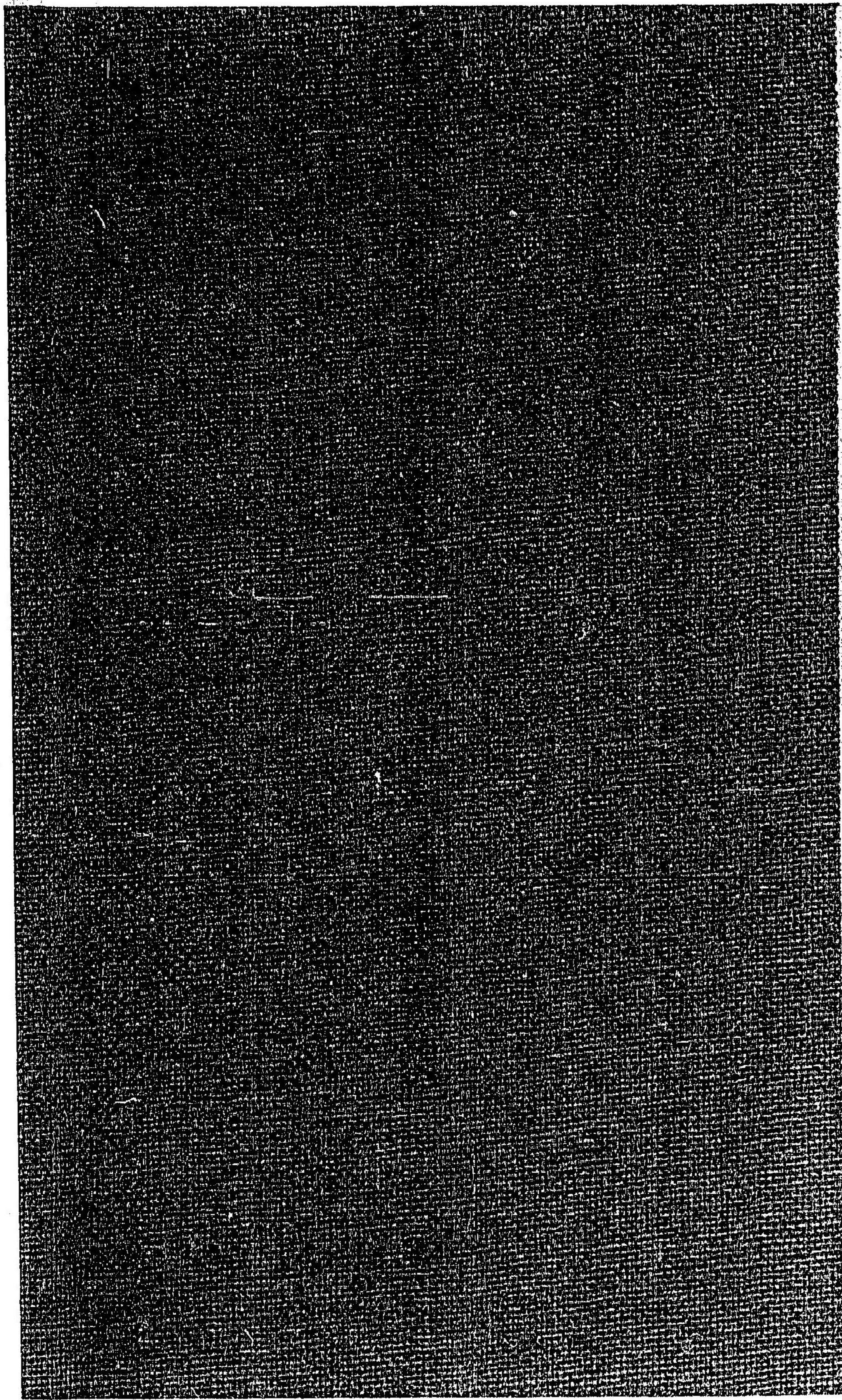
崙法典第二千二百四十三條參看)

明治十五年四月十日版權屆

916







禁電子式複写

034389-000-0

CS14-1811-01

瑞士国辺留奴邦民法

アントワーヌ・ド・サンジョセフ/著

M15

BBL-0930



